

下斎田重土薬師遺跡

国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

群馬県高崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、高崎市下斎田町に所在し、国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された下斎田重土薬師遺跡の調査報告書です。発掘調査は、群馬県高崎土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成20・21年度に実施しました。

今回の調査により、縄文時代から江戸時代の遺構と遺物などが出土し、この地域に古くから先人たちの生活が展開していたことが明らかとなりました。

特に、平安時代の住居跡と水田跡の発見は、古代の景観を雄弁に語る成果となりました。また、本地域は鎌倉時代に守護安達氏が関係した地域として広く知られており、隣接する下滝高井前遺跡も含めて、中世に比定される生活遺構が見つかったことは、今後の地域解明にきっと寄与できるものと考えます。

この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成にいたるまで、群馬県県土整備部および高崎土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、高崎市教育委員会および地元関係者の皆様からご指導、ご協力を賜りました。心より感謝の意を表し、序といたします。

平成22年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田栄一

例 言

1. 本書は、国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された下斎田重土薬師遺跡の調査報告書である。

2. 下斎田重土薬師遺跡は、群馬県高崎市下斎田町字重土薬師400番地ほかに所在する。

3. 事業主体 群馬県(高崎土木事務所)

4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間 平成21年(2009) 1月1日～平成21年(2009) 3月31日

平成21年(2009) 8月17日～平成22年(2010) 3月31日(下滝高井前遺跡含む)

6. 整理期間 平成21年(2009) 9月1日～平成21年(2009)11月30日

7. 発掘調査体制は次のとおりである。

平成20年度

管理指導 理事長 高橋勇夫、常務理事 木村裕紀・津金澤吉茂、調査研究部長 飯島義雄、

調査研究GL 原雅信、總務GL 笠原秀樹、經理GL 佐鳴芳明

事務担当 係長(総括)須田朋子、齊藤恵利子、柳岡良宏、矢島一美、齋藤陽子、今井もと子、若田誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、武藤秀典

調査担当 桜岡正信、真下裕章(1月)

平成21年度

管理指導 理事長 高橋勇夫・須田栄一、常務理事(事業局長) 木村裕紀、事業局長 相京建史、

総務部長 笠原秀樹、調査研究部長 飯島義雄、調査研究GL 唐澤至朗、經理GL 佐鳴芳明

事務担当 係長(総括)須田朋子、柳岡良宏、田口小百合、矢島一美、高橋次代、今井もと子、若田誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、武藤秀典

調査担当 菊池実、山田精一

8. 整理事業体制は次のとおりである。

管理指導 理事長 高橋勇夫・須田栄一、常務理事(事業局長) 木村裕紀、事業局長 相京建史、

総務部長 笠原秀樹、資料整理部長 石坂茂、

資料整理第2GL 大木紳一郎、經理GL 佐鳴芳明

事務担当 係長(総括)須田朋子、柳岡良宏、田口小百合、矢島一美、高橋次代、今井もと子、若田誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、武藤秀典

整理担当 編集 飯森康広、宍沢 関晴彦、橋本淳、岩崎泰一、デジタル編集 齊田智彦

金属器保存処理 関邦一、津久井桂一、多田ひさ子、増田政子

機械実測 田中精子、町田礼子、田所順子、木原幸子、岸弘子、福島瑞希

デジタル写真図版作成 牧野裕美、市田武子、酒井史恵、廣津真希子、安藤美奈子、矢端真親、高梨由美子、横塚由香、須藤絵美、下川陽子

9. 本書作成の担当は次のとおりである。

編集・本文執筆 飯森康広、デジタル編集 齊田智彦

遺物観察 古墳時代以降土器 関晴彦、繩文土器 橋本淳、縄文時代石器 岩崎泰一

中世・近世陶器 大西雅広

遺物年次比定 弥生・古墳時代土器 友廣哲也、埴輪 徳江秀夫、奈良・平安時代土器 桜岡正信、
古代瓦 木津博明
遺構写真撮影 桜岡正信、真下裕章、山田精一
遺物写真撮影 佐藤元彦
石材同定 飯島静男、植物珪酸体分析 パリノ・サーヴェイ株式会社
10. 保管については、出土遺物は群馬県の所有となり、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管される。
11. 発掘調査および本書の作成では、以下の方々にご協力ならびに指導をいただいた。記して感謝の意を表します(敬称略)。
群馬県教育委員会、群馬県高崎土木事務所、高崎市教育委員会

凡 例

1. 掘図中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 遺構図については、各掘図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。

住居跡・掘立柱建物跡 1 : 60	住居跡のカマド 1 : 30	土坑・ピット 1 : 40
井戸跡 1 : 60	溝 1 : 80	水田跡 1 : 200
3. 遺構図中の網掛けは、下記のとおりである。



焼土範囲



石



A s - A

A s - B

4. 遺物図の縮尺は原則下記のとおりであり、それ以外の場合のみ、各掘図番号に()書きを付した。

石器 1 : 1	鐵器・火打ち石 1 : 2	縄文土器破片 1 : 3	打製石斧・凹石、こも網石 1 : 3
杯・椀類、壺甌類破片(土師器・須恵器・陶磁器) 1 : 3	大型杯、器台、壺甌類 1 : 4		
5. 火山噴火物の表記は下記のとおりである。なお、純堆積の場合はテフラ名(A s - Bなど)を使用し、埋没土に含まれる場合は軽石名(浅間B軽石)を使用した。また、包含する土層をA混土、B混土と呼称した。

A s - A : 浅間A軽石 天明3年(1783) A s - B : 浅間B軽石 天仁元年(1108)

H r - F A : 棟名二ヶ岳火山灰 6世紀初頭

6. 肩穴住居跡の主軸方位については、カマドを有する辺に対して直交方向を主軸として計測した。カマドを有しないものについては、長辺を主軸として計測した。
7. 掘立柱建物跡の全体規模については、梁間×桁行の順で示し、主軸方位については棟方向を計測した。
8. A s - Bの降下直下で発見された水田跡を、便宜上「B下水田跡」と呼称した。
9. 遺構名称および付番については、原則調査時点のものをそのまま使用した。このため、以下のとおり欠番が生じた。この場合、遺構番号の振り替えにより欠番とならなかったものは除外する。なお、欠番には位置不明遺構も含まれる。

土坑 7・10・30・32・33・46・47・48号土坑

溝 8号溝

目 次

序
例 言
凡 例
目 次
挿図目次
表目次
写真図版目次

I 発掘調査と遺跡の概要	(5)ピット
1 発掘調査に至る経過 ······ 1	ア 古墳時代～平安時代 ······ 33
2 整理業務の経過 ······ 1	イ 中世・近世 ······ 33
3 遺跡の立地と周辺遺跡	(6)溝
(1)遺跡の立地 ······ 3	ア 古墳時代～平安時代 ······ 35
(2)周辺の遺跡 ······ 4	イ 中世・近世 ······ 35
4 発掘調査の方法と経過	(7)水田跡 ······ 51
(1)グリッドの設定 ······ 8	(8)サク状遺構 ······ 53
(2)調査区の設定 ······ 8	(9)遺物集中遺構 ······ 53
(3)調査の方法 ······ 8	(10)遺構外遺物 ······ 55
(4)調査の経過 ······ 9	(11)まとめ ······ 55
(5)整理作業の経過 ······ 9	3 自然科学分析 ······ 59
II 発掘調査の記録	
1 遺跡の概要	遺物観察表
(1)基本土層 ······ 10	写真図版
(2)遺構の概要 ······ 10	抄録
2 遺構と遺物	
(1)竪穴住居跡 ······ 13	
(2)掘立柱建物跡 ······ 22	
(3)土坑	
ア 古墳時代～平安時代 ······ 24	
イ 中世・近世 ······ 24	
(4)井戸 ······ 32	

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第27図 38～44号土坑平・断面図、 14・39号土坑出土遺物	31
第2図 国道354号高崎玉村バイパス路線図	2	第28図 1～3号井戸跡、 1・2号井戸跡出土遺物	32
第3図 遺跡周辺の地形	3	第29図 36号ピット出土遺物	33
第4図 周辺遺跡(1:25,000)	4	第30図 ピット(古墳時代～平安時代)	34
第5図 下齊田遺跡C・D区全体図	6	第31図 ピット(中世・近世)	34
第6図 グリッド設定図	8	第32図 9・15・28号溝、9・28号溝出土遺物	36
第7図 基本土層	10	第33図 29・48号溝	37
第8図 全体図(1)(1:500) ・北4区詳細図(1:200)	11	第34図 1～6号溝	38
第9図 全体図(2)(1:500) ・北2区詳細図(1:200)	12	第35図 7・10～14号溝	39
第10図 1号住居跡	13	第36図 16～18号溝	41
第11図 1号住居跡ピット ・カマド・掘り方・床下土坑	14	第37図 19・20・46号溝	42
第12図 1号住居跡出土遺物(1)	15	第38図 21～25号溝	43
第13図 1号住居跡出土遺物(2)	16	第39図 26・27・30号溝	44
第14図 2・3号住居跡	17	第40図 31・32・35・36号溝	45
第15図 2・3号住居跡カマド ・掘り方・床下土坑	18	第41図 33・34・37・38号溝	46
第16図 2号住居跡出土遺物(1)	19	第42図 16・18・19・26・34・38号溝出土遺物	47
第17図 2号住居跡出土遺物(2)	20	第43図 38号溝出土遺物(2)	48
第18図 2号住居跡出土遺物(3)	21	第44図 39～45・47号溝	49
第19図 3号住居跡出土遺物(1)	21	第45図 49・50号溝	50
第20図 3号住居跡出土遺物(2)	22	第46図 A s-B下水田跡(1)	51
第21図 1号掘立柱建物跡	22	第47図 A s-B下水田跡(2)	52
第22図 2号掘立柱建物跡	23	第48図 A s-B下水田跡東大畦・サク状遺構	53
第23図 18・21・23・36・45・49～51号土坑	25	第49図 遺物集中遺構、同出土遺物(1)	54
第24図 1～6・8・9・11号土坑	27	第50図 遺物集中遺構出土遺物(2)	55
第25図 12～17・19・20・22号土坑	28	第51図 遺構外出土遺物(1)	56
第26図 24～29・31・34・35・37号土坑	30	第52図 遺構外出土遺物(2)	57
		第53図 遺構外出土遺物(3)	58
		第54図 各地点の模式柱状図	59
		第55図 各地点の植物珪酸体含量の層位的変化	63

表目次

第1表 周辺遺跡一覧	7	第3表 ピット計測表	33
第2表 掘立柱建物跡計測表	23		

写真図版目次

P L 1

1. 遺跡遠景(東上空から)
2. 遺跡遠景(西上空から)

P L 2

1. 北2区全景(上が北)
2. 北3区全景(上が北)

P L 3

1. 北4区全景(上が北)
2. 南4区全景(上が北)

P L 4

1. 南2・3区全景(上が北)
2. 南1区全景(西から)

P L 5

1. 1号住居跡全景(西から)
2. 1号住居跡掘り方全景(西から)

P L 6

1. 2・3号住居跡全景(西から)
2. 2・3号住居跡掘り方全景(西から)

P L 7

1. 1号掘立柱建物跡全景(南から)
2. 2号掘立柱建物跡全景(南から)

P L 8

1. 18号土坑全景(南から)
2. 21号土坑全景(南から)
3. 23号土坑全景(南から)
4. 36号土坑全景(東から)
5. 45号土坑全景(南から)
6. 49号土坑全景(南から)
7. 50号土坑全景(北から)
8. 51号土坑全景(北から)
9. 1号土坑全景(北から)
10. 1号土坑土層断面(南から)
11. 2号土坑全景(西から)
12. 2号土坑土層断面(南から)
13. 3号土坑全景(北から)
14. 3号土坑土層断面(南から)
15. 6号土坑全景(南から)

P L 9

1. 4号土坑全景(西から)
2. 4号土坑土層断面(西から)
3. 5号土坑全景(北から)
4. 5号土坑土層断面(南から)
5. 8号土坑全景(東から)
6. 9号土坑全景(北から)

7. 11号土坑全景(東から)

8. 12号土坑全景(北から)
9. 13号土坑全景(北から)

10. 16号土坑全景(南から)

11. 19号土坑全景(西から)
12. 20号土坑全景(西から)

13. 22号土坑全景(南から)

14. 24号土坑全景(西から)
15. 25号土坑全景(北から)

P L 10

1. 27号土坑全景(西から)
2. 28号土坑全景(南から)

3. 29号土坑全景(南から)

4. 34号土坑全景(北から)
5. 35号土坑全景(南から)

6. 37号土坑全景(南から)

7. 38号土坑全景(南から)
8. 39号土坑全景(東から)

9. 40・41・42号土坑全景(西から)

10. 43号土坑全景(北から)
11. 44号土坑全景(東から)

P L 11

1. 1号井戸跡全景(西から)
2. 1号井戸跡土層断面(南東から)
3. 2号井戸跡全景(北から)
4. 2号井戸跡土層断面(西から)
5. 3号井戸跡全景(南から)

P L 12

1. 1号ピット全景(西から)
2. 1号ピット土層断面(西から)
3. 2号ピット全景(西から)
4. 2号ピット土層断面(西から)
5. 3号ピット全景(北から)
6. 3号ピット土層断面(南から)
7. 4号ピット全景(北から)
8. 4号ピット土層断面(南から)
9. 5号ピット全景(北から)
10. 5号ピット土層断面(南から)

P L 13

11. 北4区ピット群全景(南東から)
1. 9号溝全景(北から)
2. 9号溝土層断面(北から)
3. 15号溝全景(南から)
4. 28号溝全景(南から)

P L14

1. 29号溝全景(南から)
2. 1・2号溝全景(北から)
3. 2号溝土層断面(北から)
4. 5・11号溝全景(北から)
5. 3・4号溝全景(北から)
6. 13号溝全景(北から)

P L15

1. 6・7号溝全景(北東から)
2. 7号溝土層断面(西から)
3. 10号溝全景(北から)
4. 10号溝土層断面(南から)
5. 12号溝全景(北から)
6. 14号溝全景(東から)

P L16

1. 16号溝全景(南から)
2. 16号溝遺物出土状況(西から)
3. 16～18号溝全景(南から)
4. 18号溝遺物出土状況(西から)
5. 19・46号溝全景(西から)
6. 19号溝遺物出土状況(北から)
7. 24・25号溝全景(南から)

P L17

1. 20号溝全景(南から)
2. 26号溝全景(南から)
3. 27号溝全景(西から)
4. 31号溝全景(南から)
5. 32号溝全景(南西から)

P L18

1. 30号溝全景(西から)
2. 34号溝全景(南から)
3. 35号溝全景(東から)
4. 36号溝全景(東から)
5. 37号溝全景(東から)
6. 38号溝全景(東から)

P L19

1. 38号溝全景(西から)
2. 39号溝全景(南から)
3. 43号溝土層断面(南から)
4. 44・45号溝土層断面(南から)
5. 47号溝全景(南から)
6. 48号溝全景(北から)
7. 49号溝全景(北から)
8. 50号溝全景(東から)

P L20

1. B下水田跡西大畦全景(上が北)
2. B下水田跡畦周辺(上が北)

P L21

1. B下水田跡西大畦近景(北から)
2. B下水田跡東大畦土層断面(南から)
3. B下水田跡土層断面(南から)
4. サク状遺構全景(東から)
5. 遺物集中遺構全景(東から)
6. 自然科学分析資料2地点採取断面(南から)
7. 調査前風景(西から)

P L22 1・2号住居跡出土遺物

P L23 2・3号住居跡出土遺物

P L24 3号住居跡・土坑・井戸

・ピット・溝出土遺物

P L25 遺物集中遺構・遺構外出土遺物

P L26 遺構外出土遺物

1 発掘調査と遺跡の概要

1 発掘調査に至る経過

本遺跡の発掘調査・整理業務は、一般国道354号高崎玉村バイパスの整備を目指とした「地域活力基盤創造事業」に係わっている。国道354号高崎玉村バイパスの整備は、平成5年度(1993)から延長5.3kmが着手され、平成18年(2006)には主要地方道藤岡大胡線から2.0kmが供用開始されている。

玉村町内の発掘調査は、群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所所管事業として、平成8年度(1996)から実施されている。

本遺跡は高崎市内であり、群馬県西部県民局高崎土木事務所の所管事業となる。平成20年6月18日から7月4日までの4日間、下流町地区、綿貫町地区をあわせて、群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査が行われ、遺跡地と確認された。その後調整の結果、同9月10日付けで群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

が「埋蔵文化財発掘調査・整理委託契約書」を締結し、調査面積5,310m²の発掘調査を行うこととなった。なお、計画の一部変更により、翌21年1月、同3月の2回、変更委託契約が締結され、調査面積が4,973m²に変更された。

平成21年度は、残る337m²が調査対象となり、平成21年8月14日付けで群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が「埋蔵文化財発掘調査・整理委託契約書」を締結して、発掘調査を行った。

2 整理業務の経過

平成21年8月31日付けで群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が締結した「整理委託契約書」に基づき、契約履行期間同年9月1日～翌22年1月31日で実施することとなり、整理期間を同年9月1日～同11月30日と定めて、整理業務を実施した。



第1図 遺跡位置図(国土地理院1/20万「宇都宮」「長野」使用)

I 発掘調査と遺跡の概要



第2図 国道354号高崎玉村バイパス路線図

3 遺跡の立地と周辺遺跡

(I) 遺跡の立地

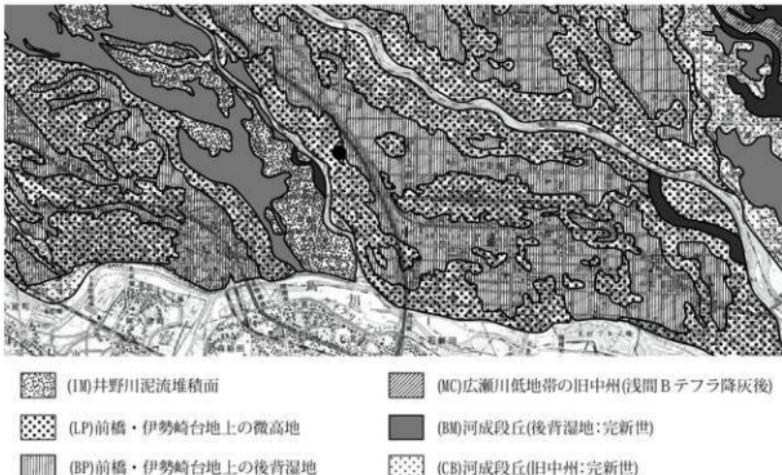
本遺跡は、群馬県高崎市の東南に位置する下斎田町に所在し、集落から北方約200mほど離れた田園地帯にある。周辺の地形は、北西方向から南東方向に緩やかに傾斜する比較的平坦な地形で、標高は約76mである。東方は佐波郡玉村町上新田に隣接し、南北に走向する関越自動車道と、平行して流れる一級河川龍川を境界としている。

遺跡の立地は、前橋台地の南端に位置する。この前橋台地は、洪積世後期に利根川によって形成された前橋砂礫層(層厚200m以上)の上面に、約2.0~2.4万年前に発生したと見られる浅間山の山体崩壊を起因とする前橋泥流が被覆して形成したものである。この土層は前橋泥流堆積層と呼ばれ、西は高崎市の旧群馬町域から高崎市北・東部の平野部に広がり、東は前橋市の北東部から伊勢崎市西部にかけて10m以上の厚さで堆積して、鳥川と広瀬川に挟まれた県央平野部の基盤層となっている。前橋泥流堆積層の上位には、シルト・粘土・泥炭層などによって構成される水成ローム層が堆積しており、本遺跡の調査

最終面となっている。

前橋台地上には、洪積世後期以降、利根川をはじめとする幾つかの河川が、小規模な氾濫原を形成していく。特に台地の東側を流れる利根川は、榛名山東南麓の末端を浸食しながら南流し、約2.4万年前には前橋市総社町辺りから新前橋駅付近を経て、染谷川、滝川付近を流れ、井野川に注いでいたとされる。その後、約1.7万年前には榛名山で発生した泥流によって埋まり、流路を赤城山南麓の広瀬川低地帯に変更しており、現在の流路に移ったのは中世後期と言われている。

本遺跡の西方約300mを南流する井野川は、榛名山南麓を水源とする河川で、前橋台地を西の倉賀野台地、東の前橋玉村台地に二分している。現在の流路は、前橋玉村台地の西縁を画するように流れている。一方、倉賀野台地東縁を画する河崖地形は、粕川に沿って形成されている。井野川左岸と粕川右岸の河崖線の間隔は1.2~1.5kmであり、その間は一段低位の沖積平野があり、井野川寄りを微高地として西方粕川に向かって低湿な地形となる。



第3図 遺跡周辺の地形

1 発掘調査と遺跡の概要

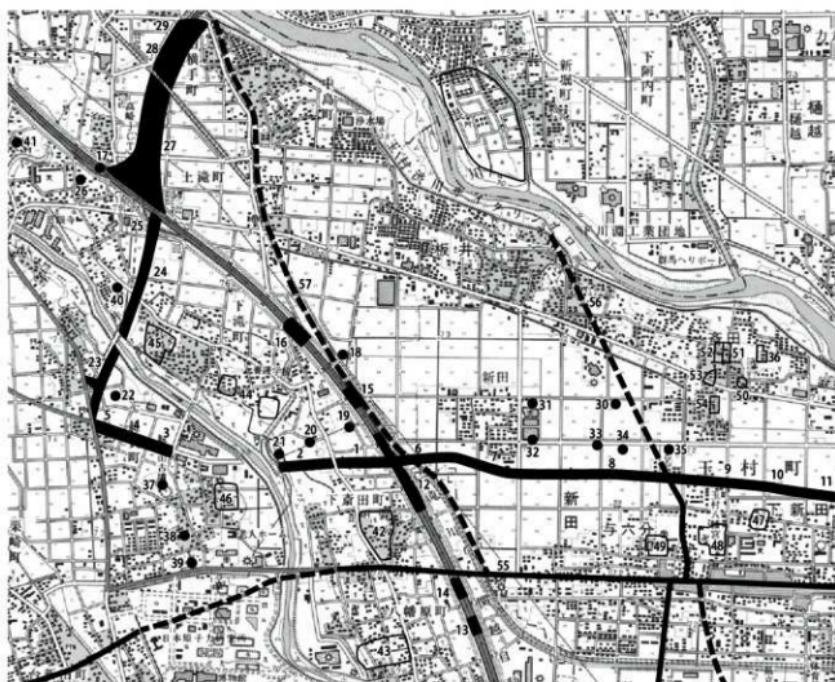
(2)周辺の遺跡

縄文時代 縄文時代の遺跡は少ないが、井野川流域の段丘上で確認されている。同左岸の八幡原A遺跡(13)では前期(諸磯式期)の住居1軒が発見され、元島名遺跡では後期、同右岸の高崎情報団地遺跡でも中期以降の遺構・遺物が確認されている。本遺跡と接する下斎田遺跡(12)D区でも中期末の土坑1基と、前期・中期の土器が出土している。玉村町域における遺跡の分布は非常に希薄である。

弥生時代 高崎市は弥生時代の集落が数多く検出されており、本遺跡周辺では元島名遺跡で中期～後期の住居跡、高崎情報団地遺跡では後期の方形周溝墓や住居跡が調査されている。玉村町域における遺跡の分布は非常に希薄である。

古墳時代 井野川左岸地域には、元島名將軍塚古墳(41)を中心とする前期古墳群と、滝川村2号古墳等の前方後円墳を中心とする後期古墳群が形成されている。下斎田町から本遺跡周辺下斎田町にかけては、古墳分布の過疎地域が存在している。下斎田町では円墳の分布域が存在したが、現在は消滅して明らかではない。隣接する下斎田遺跡(12)D区では、方形周溝墓1基が調査されている。

井野川左岸河縁域において、最も古墳群が密集するのは、高崎市八幡原町から玉村町下郷にかけて、烏川合流点を中心とした地域である。前期古墳・周溝墓群の分布がある一方で、後期古墳群の濃密な分布も広がっている。



第4図 周辺遺跡(1:25,000)

3 遺跡の立地と周辺遺跡

奈良・平安時代 隣接する下齊田遺跡(12)D区では、堅穴住居跡3軒と掘立柱建物跡5棟が見つかっている。本遺跡と同じ路線で西方に位置する下滝高井前遺跡(2)では、100軒を超える堅穴住居跡が調査されており、そのうち相当数が古代に属する大集落を形成している。井野川右岸の綿貫町でも、国道354号路線の綿貫伊勢遺跡(3)、綿貫牛道遺跡(4)、綿貫原北遺跡(5)で集落が見つかっている。その北方、綿貫遺跡(22)では9世紀代と推定される綿貫庵寺が見つかっており、近接する綿貫小林前遺跡(23)でも同時期の集落に加え、門跡や大型の掘立柱建物跡も見つかっている。

中世 玉村町内には公領とされる玉村保があったが、12世紀中頃一部が伊勢神宮領となり玉村御厨が成立する。鎌倉幕府下で「上野国奉行人」として守護権力を行使した安達盛長は、指揮権を上野国内の国衙や寺社にまで及ぼしており、大犯三箇条に規定される守護権力に比べると、より広範な権限を持っていた。上野国奉行人は安達盛長に始まり、景盛―義景―泰盛と継承していく。安達氏の本拠は幕府内の要人として鎌倉にあったが、上野国内にも基盤を持ち、玉村氏や鮑間氏を被官化していった。角淵八幡宮は初代奉行人安達盛長の勧請という伝承があり、近くに安達屋敷と伝承される場所がある。また、もう一か所、八幡原館(43)も安達屋敷の伝承を持ち、現在でもよく遺構を残している。こうした状況下、鎌倉街道も本遺跡周辺を通過することが想定され、一説に本遺跡と下滝高井前遺跡の間を南北に走る市道を、鎌倉街道に当てるものがある(『玉村町誌』通史編上巻図6)。

弘安8年(1285)、安達泰盛は霜月騒動により滅亡し、玉村氏も合わせて没落したと言われる。以後、北条得宗家は玉村御厨の多くを編入し、守護権力を獲得していった。

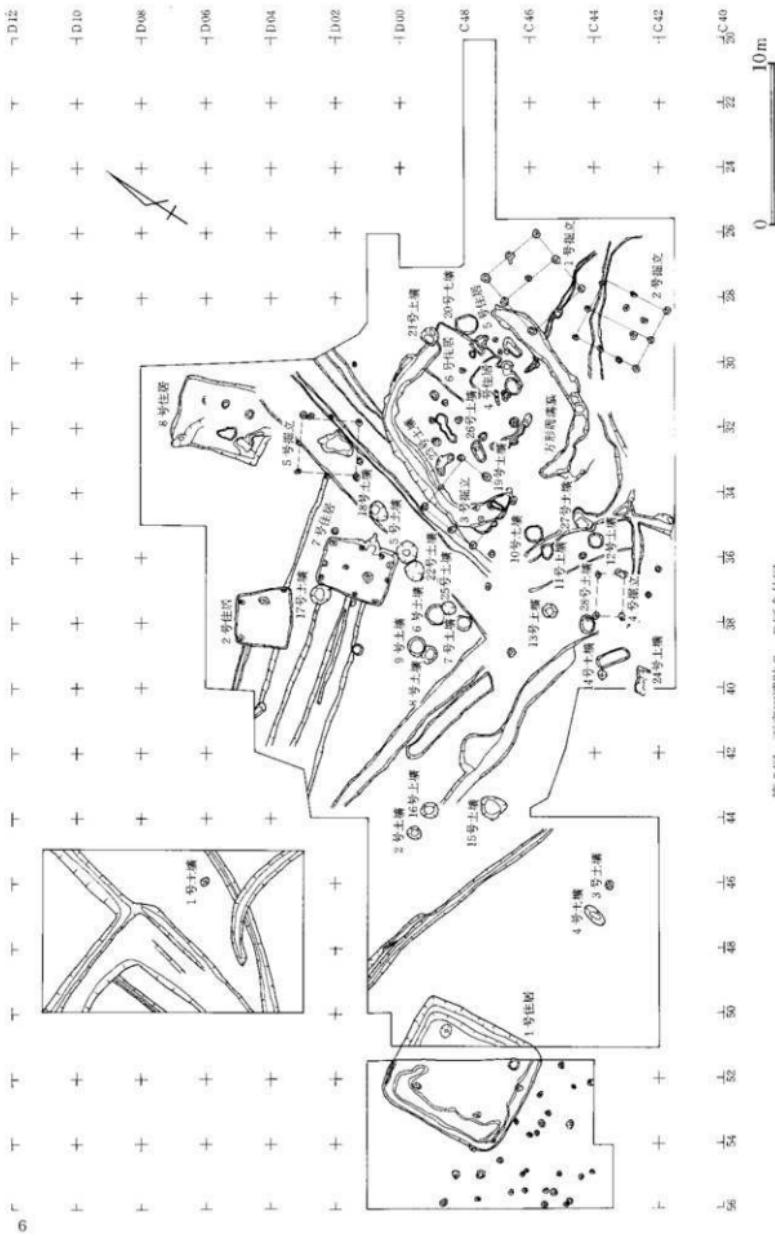
室町期になると、那波氏が勢力を伸ばし、上州白旗一揆の構成員として、上野守護山内上杉氏の被官となる一族も現れる。関東管領上杉氏と古河公方足利成氏が争った享徳の乱(享徳3年[1455]~文明14

年[1483])では、玉村町角淵が戦場となり、岩松持国が在陣している。角淵は上野国と武藏国との境となる烏川を渡る渡河点であり、江戸時代における佐渡奉行街道(57)にも受け継がれていた。

享徳の乱において、文明9年(1477)古河公方成氏が半年近くも陣所とした滝・島名陣は、下滝館(45)に比定されおり、周辺には8,000人余の軍勢が張陣したという。この陣内には、八幡原館(43)や下斎田城(42)も含まれていたはずで、本遺跡周辺がその渦中にあったことは容易に想像される。

近世 本遺跡の東方約150mを南流する滝川は、もともと天狗岩用水と呼ばれ、北群馬郡吉岡町付近で利根川から取水し、前橋市西部から高崎市東部を経て玉村町に至る広範囲な地域を潤すかんがい用水である。この用水は、総社城主秋元長朝によって慶長9年(1604)に完成し、さらに同15年から幕府代官伊奈備前守忠次が、玉村町下之宮まで延長工事をを行い、新田開発を推進している。

正保4年(1647)以降は、日光例幣使街道(55)が整備され、宿場町玉村宿が繁栄期を迎える。



第5図 下齊川道路C・D区全体図

3 遺跡の立地と周辺遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	圖文	古墳	奈良・平安	中世	近世	参考文献
1	下高井重士茶頭遺跡	○	○	○	○	○	本報告書
2	下高井前遺跡	○	○				『年報28』団2009
3	綿貫伊勢道跡	○	○				『年報27』団2008
4	綿貫牛道遺跡	○	○				『年報28』団2009
5	綿貫原北遺跡	○	○	○	○	○	『年報27』団2008
6	上新田新田内遺跡	○	○	○	○	○	『年報28』団2009
7	上新田赤塚遺跡	○	○	○	○	○	『年報28』団2009
8	上新田中道東遺跡	○	○				『年報24』団2005
9	齊田中耕地遺跡	○	○	○	○	○	『年報22』団2003／『年報23』団2004／『年報24』団2005
10	齊田竹之内遺跡	○	○	○	○	○	『年報20』団2001／『年報21』団2002／『年報22』団2003
11	福島駄玉遺跡	○	○	○	○	○	『福島駄玉遺跡』団2008
12	下齊田・瀧川A遺跡	○	○				『下齊田・瀧川A遺跡 瀧川B・C遺跡』団1987
13	八幡原A遺跡	○					『八幡原A・B上瀧元島名A遺跡』団1981
14	八幡原B遺跡						『八幡原A・B上瀧元島名A遺跡』団1981
15	瀧川B遺跡			試解			『下齊田・瀧川A遺跡 瀧川B・C遺跡』団1987
16	瀧川C遺跡			○			『下齊田・瀧川A遺跡 瀧川B・C遺跡』団1987
17	上瀧遺跡	○	○	○			『八幡原A・B上瀧元島名A遺跡』団1981
18	上瀧社宮司東遺跡	○	○				
19	上瀧齐田北遺跡	○	○				『上瀧社宮司東・齊田北遺跡 下瀧高井前・赤城遺跡』高崎市道路調査会1990
20	下瀧高井前遺跡	○					
21	下瀧赤城遺跡	○					
22	綿貫遺跡	○	○	○			『綿貫遺跡』高崎市教育委員会1985
23	綿貫小林前遺跡	○	○	○	○	○	『綿貫・林前遺跡』団2006
24	下瀧天水遺跡	○	○	○	○	○	『下瀧天水遺跡』団2004
25	上瀧五反畠遺跡	○	○	○	○	○	『上瀧五反畠遺跡』団1999
26	上瀧II遺跡	○	○	○	○	○	『上瀧樹町北遺跡・上瀧II遺跡』団2002
27	上瀧桜町北遺跡	○	○	○	○	○	『上瀧桜町北遺跡・上瀧II遺跡』団2002
28	宿横手三波川遺跡	○	○	○	○	○	『宿横手三波川遺跡』団1999／
29	西横手遺跡群	○	○	○	○	○	『西横手遺跡群』団2001
30	一本木遺跡						『一本木遺跡』玉村町教育委員会2004
31	中道西遺跡						『中道西遺跡(第1次・第2次調査)』玉村町教育委員会1996
32	中道西II遺跡						
33	中道東遺跡						『中道東遺跡中道西II遺跡蛭塚東遺跡(第2次調査)・中道東II遺跡・中道東III遺跡(第2次調査)』玉村町教育委員会2008
34	中道東II遺跡						
35	蛭沼東遺跡						
36	田口下屋敷遺跡			○	○		『田口下屋敷遺跡』玉村町教育委員会2000
37	綿貫觀音山古墳	全長101m・前方後円墳・横穴式石室					『綿貫觀音山古墳I』団1998,『綿貫觀音山古墳II』団1999
38	普賢寺裏古墳	全長71m・前方後円墳・堅穴式石室					
39	不動山古墳	全長94m・前方後円墳・堅穴式石室					
40	御伊勢山古墳	全長303m・前方後円墳・横穴式石室					
41	元鳥名將軍原古墳	全長95m・前方後方墳・粘土被					
42	下瀧田城	高崎市下瀧田町。伝承田日氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
43	八幡原城	高崎市下瀧原町。伝安達屋敷。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
44	下瀧屋敷	高崎市下瀧町。伝安達屋敷。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
45	下瀧館	高崎市下瀧町。古河公方瀧陣比定地。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
46	堀尾屋敷	高崎市堀尾町。堀尾大学在所。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
47	玉村館	玉村町下新田。近世伊奈半十郎陣屋。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
48	玉村八幡宮	玉村町下新田。壇・土居跡。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
49	与六屋敷	玉村町方六分。豊早川与六在所。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
50	田村屋敷	玉村町齋田。伝田村氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
51	溫井東屋敷	玉村町齋田。伝溫井氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
52	溫井西屋敷	玉村町齋田。伝溫井氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
53	町田屋敷	玉村町齋田。伝町田氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
54	石原屋敷	玉村町齋田。伝石原氏開連。					『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
55	日光例幣使街道	中山道貢貢宿と日光を結ぶ近世街道。					『日光例幣使街道』群馬県教育委員会1978
56	謙倉街道	謙倉幕府へ向かう中世の街道。					『謙倉街道』群馬県教育委員会1983
57	佐渡奉行街道	江戸と越後を結ぶ近世街道。					『佐渡奉行街道』群馬県教育委員会1981

1 発掘調査と遺跡の概要

4 発掘調査の方法と経過

(1) グリッドの設定(第6図)

国道354号高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査においては、国家座標に基づき玉村町全域および高崎市内の該当地域を網羅するように、南東隅の座標X=30,000・Y=-60,000を起点とする10km四方の区画を設定し、これを「地区」と呼称した。

この「地区」を1km四方に細分し、南東隅から北方向に1~100の番号を付け「区」(大区画)とした。さらに、「区」を100m四方に分割し、同様に1~100の番号を付け、「中グリッド」とした。

この「中グリッド」を、さらに5m四方に分割し、「小グリッド」を設定した。「小グリッド」には南東隅を起点として、西方向(X軸方向)にアラビア数字を1~20、北方向(Y軸方向)にアルファベットA~Tを付した。発掘調査の実施にあたっては、この「小グリッド」を基本とした。

下斎田重土薬師遺跡は、「65区」(大区画)の「75・76・85・86・95・96」(中グリッド)に位置する。

この報告書で記載するグリッドは、基本的に「中グリッド」と「小グリッド」を組み合わせて表記する。例えば「75 S-16グリッド」と呼称する場合、「75」は「中グリッド」、「S-16」は「小グリッド」を表している。

(2) 調査区の設定

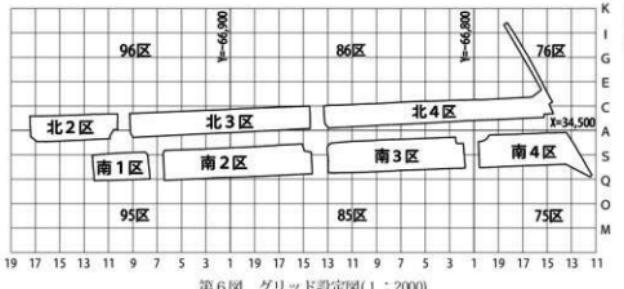
発掘調査に際しては、基準とする区画やグリッドとは別に、任意の調査区に分けた。調査区内を

ほぼ東西方向に走向する道路を境界として2分割し、「北区」・「南区」と呼称した。さらに南北方向に走向する道路および水路を境界として西から順次1~4の番号を付け、これらを組み合わせて調査区を便宜的に呼称した。例えば「南4区」の場合、「南区」の「4区」を表す。ただし、本報告書では遺構名をすべて通番としており、特に表記する必要がないため、省略してグリッド表記のみとした。

(3) 調査の方法

本遺跡は旧時に圃場整備が施工されており、原地形に大幅な変更を受けていた。表土掘削については、指標となる火山噴出堆植物を手がかりに、遺構確認面の検出に当たり、バックホーによる重機掘削ののち、人力による遺構検出作業を行った。その結果、遺跡の中央ではA s-B及びB混土によって被覆されたA s-B下水田跡を検出した。この調査面は、微高地である調査区東西両端では検出できないが、表土下深度が一致するローム面(VII層)を検出面として、遺構確認を行った。第1面調査終了後、下層のトレンチ調査を実施し、VII層上面を確認面として、古代以前の遺構確認および調査を行った。

遺構調査に際しては、埋没土層の確認用ベルトを任意に設置し、ジョレン・移植ゴテほかにより掘削を行った。



第6図 グリッド設定図(1:2000)

4 発掘調査の方法と経過

遺構名称は、遺跡全体の通番とし、調査の進行にあわせて適宜付番した。

遺構の記録は、実測図作成と写真撮影により行った。遺構の平面測量は、デジタル平板測量を基本とし、平板測量を適宜実施した。また、広範囲にわたる水田遺構の記録に際しては、航空写真測量により効率化を図った。縮尺は遺構の性格に合わせ、1/10、1/20、1/40、1/100を選択した。断面測量は、個別に水系により基準標高を設置し、コンベックス、スタッフほかを使用して、手書きによる図化を行った。

遺構写真は、モノクロ写真を6×7版フィルム撮影し、カラー写真はデジタルカメラを使用して、ハードディスク及びDVDによるデータの記録保存を行った。また、調査区の全体写真など、調査状況によりラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

(4) 調査の経過

調査日誌抄録

平成21年(2009)

1月 5日 調査準備着手。

1月 7日 南区表土掘削開始。

1月 8日 平安時代の水田調査のため、南2区から浅間B軽石の除去作業着手。

1月16日 中世以降の土坑・溝の掘削。

1月20日 南3区調査着手。浅間B軽石除去し、中世以降の土坑・溝の掘削。

1月26日 南4区住居跡の調査開始。

2月 3日 南区空中写真撮影。

2月 4日 北区表土掘削及び遺構確認。

2月 5日 南4区住居跡掘り方調査。

北区A s-B下面検出作業着手。

2月 6日 南区調査終了。

2月10日 北4区ピット・溝掘削開始。

2月18日 北2区遺構確認。土坑・溝調査開始。

2月25日 北3区遺構確認。A s-B下面検出作業着手。

3月 2日 北2・4区空中写真撮影。

3月 5日 北4区V層以下トレンチ調査着手。

3月11日 北2区遺物集中遺構着手。

3月13日 北2区縄文時代遺物包含層着手。

3月15日 北3区空中写真撮影。

3月17日 北3区V層以下トレンチ調査着手。

3月23日 北4区調査終了、埋め戻し。

3月25日 北2・3区調査終了、埋め戻し。

10月20日 南1区表土掘削開始。

10月21日 遺構確認及び土坑・溝調査着手。

10月23日 調査終了

10月24日 埋め戻し。

(5) 整理作業の方法

整理作業は、平成21年9月1日から同11月30日まで実施し、引き続き刊行作業を行った。また、南1区については、同10月20日の調査終了を待って、その成果を吸収して整理作業に当たった。

遺構図面は調査時作成の図面を元に、修正作業・計測作業を行い、デジタルによるトレース、版下作成を行った。

出土遺物は、出土遺構・地点ごとに接合作業を行った後、掲載遺物を選定した。次いで、デジタル撮影による遺物写真撮影を行ったのち、遺物実測を行った。実測に際しては、機械実測、デジタル写真実測により素図を作成して精図し、引き続いてトレース図を作成した。未掲載資料数のカウント作業は、中世・近世の遺構把握を目的として、編集担当が行った。

遺物トレース図はスキャニング作業を行ってデジタル化し、版下作成を行った。

掲載資料は、台帳作成後収納作業を行った。

II 調査の記録

II 調査の記録

1 遺跡の概要

(1) 基本土層

本遺跡は旧時の圃場整備により原地形が大幅に改変を受けており、比較的良好な堆積状況を残す北4区で基本土層を観察作成した。なお、V-VII層以下には前橋泥流に相当する礫混土層が厚く堆積するものと想像されるが、実態調査はできなかった。

I 灰褐色土 現耕作土

II 灰褐色土 浅間A軽石を少量含む。鉄分沈着見られる。

A s - A

III 灰褐色粘質土

IV 暗褐色土 浅間B軽石をやや多く含んで、やや砂質。鉄分沈着見られる。

A s - B

V 灰赤色粘質土 水田耕作土

VI 暗灰色粘質土 よく締まる。

VII 黒褐色粘質土 上面層境にF A ブロックが一部でみられ、低地部を中心に浅間C軽石をやや多く含む。

VIII 黄白色～明黄褐色粘質土

(2) 遺構の概要

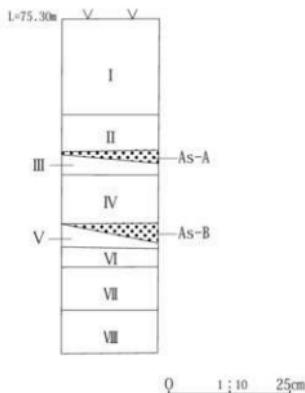
本遺跡は中央部(北3区、北4区西半、南2区、南3区)に軽微な低地地形があり、東西両端が微高地となっている。このため、中央部は早くから水田耕作の適地となっていた見られ、平安時代後期に属するA s - B下水田跡を検出することができた。この水田跡は残存状況が悪く、畦の形態や水口が判明しなかったため、区画の面積や形態も不明である。2か所で大畦と思われる軽微な高まりを検出できた。

調査区の東端部(北4区、南4区)は微高地であり、古代の住居跡3軒、井戸跡2基(うち1基は古墳時代)が発見された。また、古墳時代初頭に比定される下齐田遺跡1号住居跡周辺では、同時期の溝やピット群が見つかっている。

調査区の西端部(北2区、南1区)は微高地であり、古から近世にわたる多くの溝が重複して発見された。特に北2区の北西端では、縄文時代前期後半に属する土器群がやや多く見つかっている。また、北2区南西端では、古墳時代初頭に属する土器群が大量に出土した遺物集中遺構が見つかっている。北2区西半部では、埋没土に浅間B軽石を含む掘立柱建物2棟と井戸跡1基、土坑数基、溝数条が見つかっている。

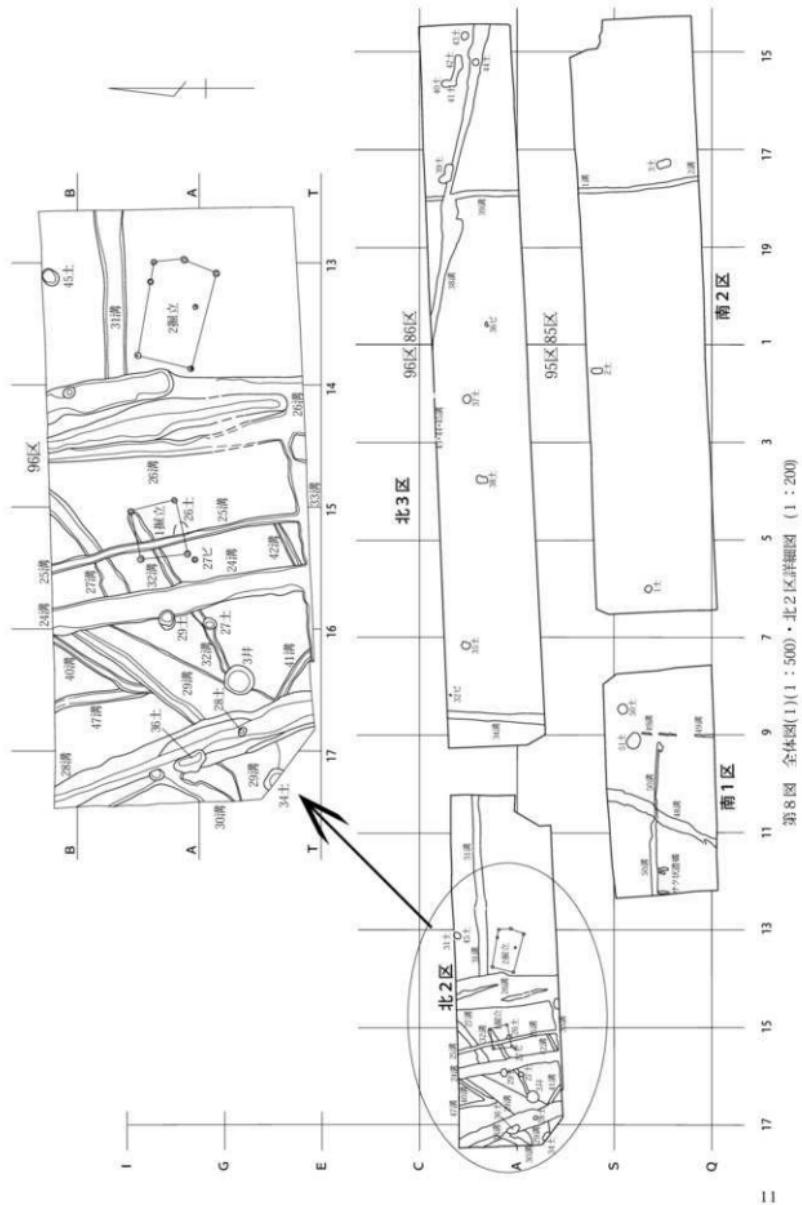
調査区全体に、埋没土に浅間A軽石および浅間B軽石を含む土坑・溝が分布する中で、中央部(北3区、北4区西半部)では江戸時代の遺物がやや多く出土する溝が検出された。

なお、遺構確認面はV～VII層上面であり、全体図を含めて、遺構はほぼ同一面として調査されている。ただし、出土遺物のほか、埋没土に浅間A軽石、浅間B軽石を含むを根拠に、帰属年代を選別する事が可能なため、煩雑にならない限り、時代別に遺構を掲載することとした。



第7図 基本土層

1 遺跡の概要



II 調査の記録



2 遺構と遺物

(1) 窓穴住居跡

1号住居跡(第10～13図、P L 5・22)

位置 75R・S-15・16 重複なし 形態 長方形

主軸方位 N-89° E

規模 南北5.16m、東西4.52m

カマド 遺物と焼土混土の分布から判断。東壁中央

やや南寄りに設置される。使用面は規模、形態とも不明。掘り方は細長い丸角方形で、規模は長軸156cm短軸78cmである。

柱穴 6基確認されるが、主柱穴はP 1～P 4で、住居平面形に相似して対角線上に位置する。

柱穴の規模(長径・短径・深さcm)

P 1 : 51、47、35 P 2 : 45、37、42、 P 3 : 40、

34、33、P 4 : 53、30、30

床 硬化面は確認されていない。

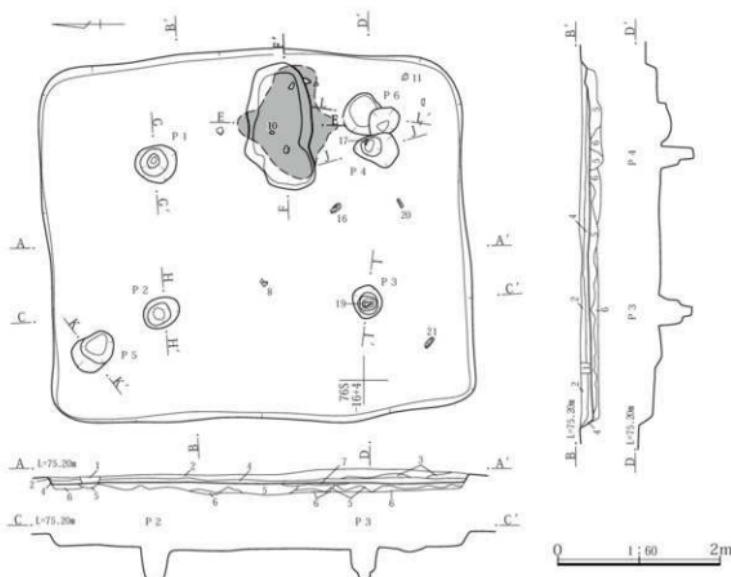
1号床下土坑 住居の南西隅近くにある。2基が重複するかもしれない。東側が円形で深い。規模は長軸116cm短軸84cmである。

2号床下土坑 住居のほぼ中央にある。整った円形。規模は長軸102cm短軸100cmである。

掘り方 全面にローム面まで15cmほど掘り下げる。

遺物 カマド周辺で散漫に出土したほか、全体の出土量は非常に少ない。

時期 出土遺物から8世紀後半に比定される。



1. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒少量含む。やや堅くしまる。
2. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒・ローム粒・焼土粒含む。やや堅くしまる。
3. 暗褐色土 白色細粒・ローム粒・灰色土ブロック含む。やや堅くしまる。
4. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒・ロームブロック・焼土ブロック含む。やや堅くしまる。
5. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒・ローム粒含む。やや堅くしまる。
6. 褐色土 やや粘質。暗褐色土ブロック・白色細粒含む。ややしまる。
7. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼土粒・炭粒多く含む。

第10図 1号住居跡

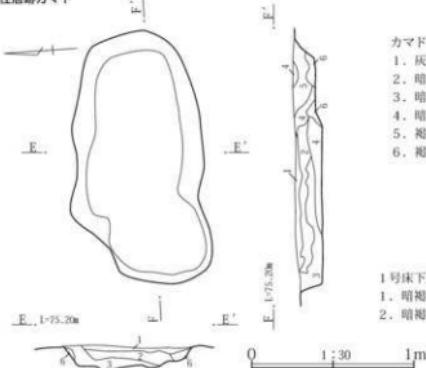
II 調査の記録



ピット

1. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒わずか含む。ややしまる。
2. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼土粒わずか含む。ややしまる。
3. 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック・白色細粒含む。ややしまる。
4. 黒褐色土 やや粘質。ローム粒わずか含む。ややしまる。
5. 黑褐色土 やや粘質。ローム粒含む。ややしまる。
6. 黄白色粘質土 暗褐色土少量含む。やや堅くしまる。
7. 暗褐色土 黄白色土ブロック含む。しまらない。

1号住居跡カマド



カマド

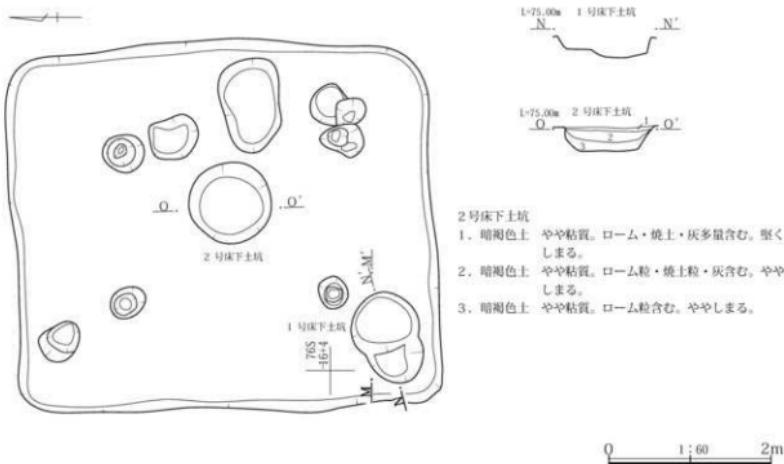
1. 黒褐色土 やや粘質。燒土粒・炭粒含む。ややしまる。
2. 暗褐色土 やや粘質。燒土粒・ローム粒含む。ややしまる。
3. 暗褐色土 やや粘質。灰・炭化物多く含む。しまらない。
4. 暗褐色土 やや粘質。燒土粒・炭粒少量含む。ややしまる。
5. 暗褐色土 やや粘質。燒土粒多く含む。ややしまる。
6. 暗褐色土 やや粘質。黄褐色土含む。ややしまる。



1号床下土坑

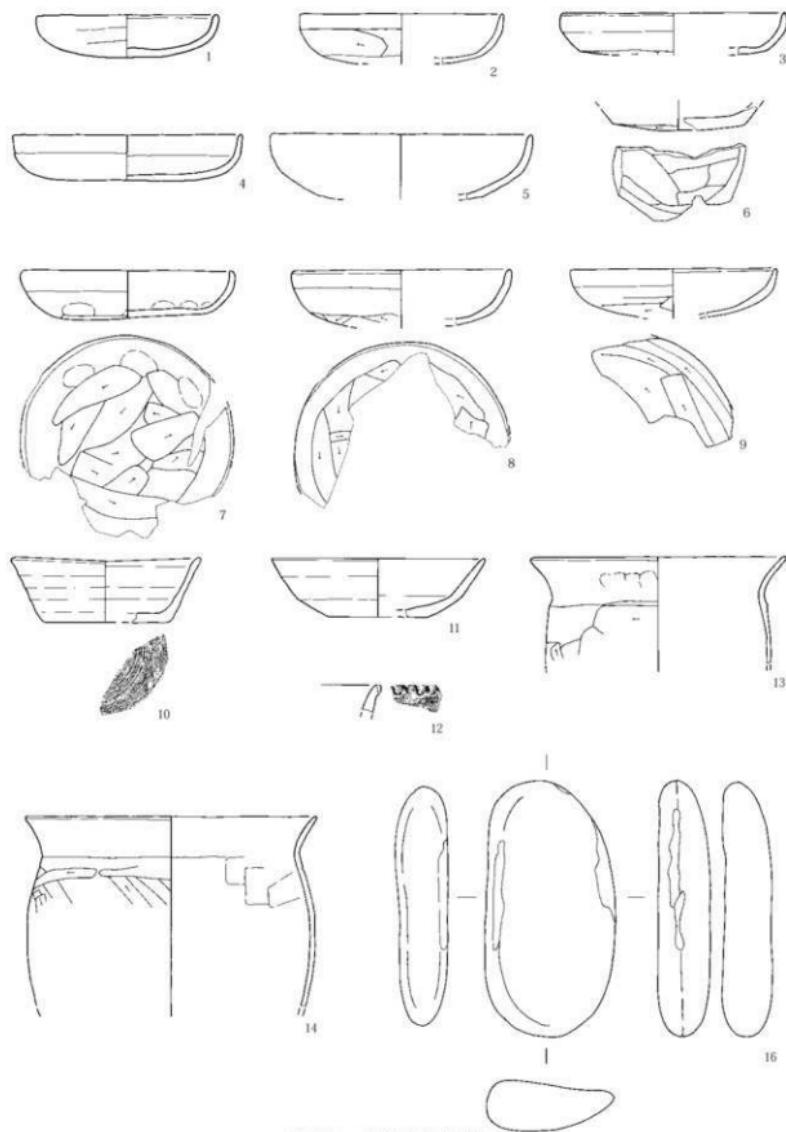
1. 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック・燒土粒含む。ややしまる。
2. 暗褐色粘質土 ロームブロック少量含む。

1号住居跡掘り方



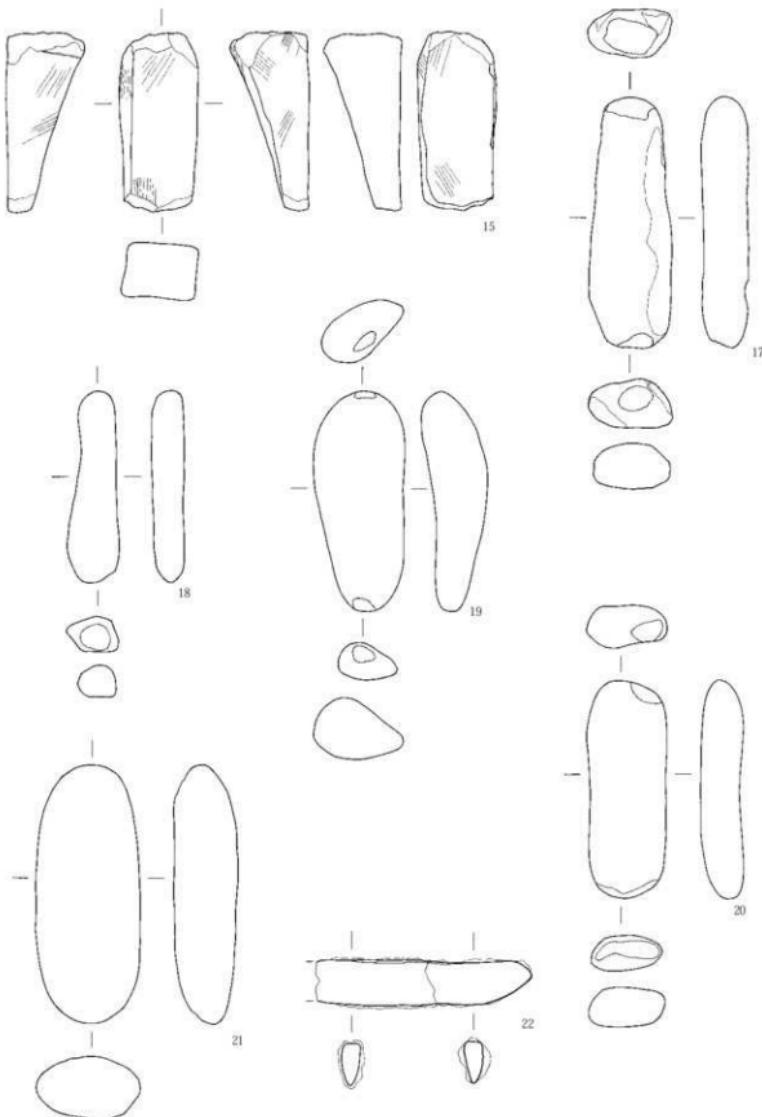
第11図 1号住居跡ピット・カマド・掘り方・床下土坑

2 造構と遺物 (I) 穴住居跡



第12図 1号住居跡出土遺物(1)

II 調査の記録



第13図 1号住居跡出土遺物(2)

2 遺構と遺物 (I) 桁穴住居跡

2号住居跡(第14～18図、P L 6・22・23)

位置 75S-T-14・15 重複 3号住居跡より新しい。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-86°-W

規模 南北4.16m、東西4.82m

カマド 東壁中央南寄りに位置する。燃焼部は不明確。焚き口幅は石の内側寸法で約22cmである。

柱穴 ピット名を付したものは3基あるが、柱穴と見なされるものは2基で、P 1は3号住居跡に帰属すると判断する。

柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P 1: 22, 19, 28, P 2: 32, 23, 16

床 やや締まる部分はあるが、硬化面として認識されていない。

掘り方 全面にローム面まで16cmほど掘り下げる。

P 1は掘り方の一部であろう。

遺物 床面の出土遺物は少ないが、埋没土からの出

土遺物はやや多い。

時期 出土遺物から9世紀前半に比定される。

3号住居跡(第14・15・19・20図、P L 6・23・24)

位置 75S-14・15 重複 2号住居跡より古い。

形態 2号住居跡と重複した結果、北半分は明確でないが、状況からみて東西に長い長方形であろう。

主軸方位 N-87°-W

規模 (南北2.62m)、東西4.14m

カマド 2号住居跡との重複により消滅か。

柱穴 2号住居のP 1(数値は2号住居跡参照)を含めて2基である。

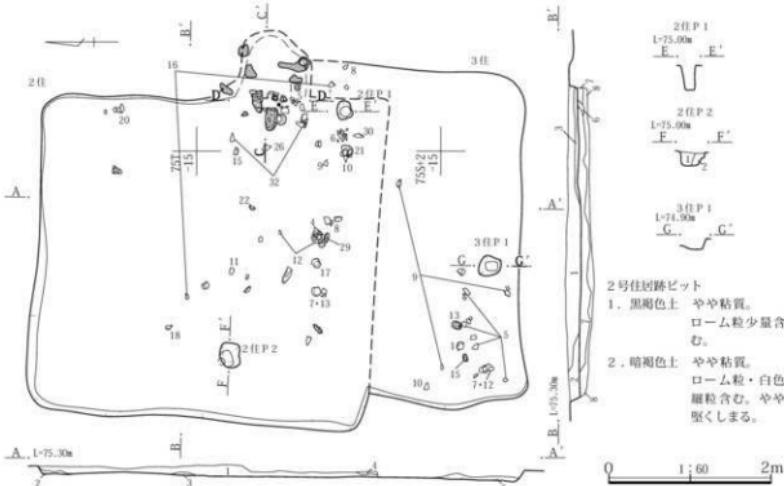
柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P 1: 27, 24, 8

床 明確な床面は確認されていない。

掘り方 不明。

遺物 南西隅近くに、やや集中して出土している。

時期 出土遺物から8世紀半ばに比定される。



2・3号住居跡

1. 暗褐色土 白色細粒・焼土粒・炭粒含む。やや堅くしまる。

2. 暗褐色土 白色細粒・焼土粒・ローム粒少量含む。やや堅くしまる。

3. 暗褐色土 やや粘質。焼土ブロック・ロームブロック含む。やや堅くしまる。

4. 暗褐色土 やや粘質。灰色ブロック含む。

5. 暗褐色土 焼土ブロック多量、ローム粒含む。やや堅くしまる。

6. 黄白色粘土ブロック

7. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼土粒・白色細粒少量含む。やや堅くしまる。

8. 褐色土 ローム粒・白色細粒含む。やや堅くしまる。

第14図 2・3号住居跡

II 調査の記録

2号住居跡カマド



2号住居跡カマド掘り方

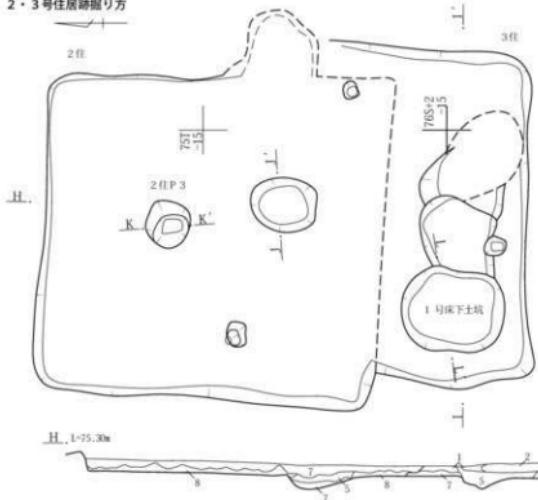


2号住居跡カマド

1. 暗褐色土 やや粘質。焼上ブロック含む。やや堅くしまる。
2. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼上粒含む。やや堅くしまる。
3. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼上粒・白色細粒含む。堅くしまる。
4. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼上粒含む。
5. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒多量含む。やや堅くしまる。
6. 黒褐色土 やや粘質。やや堅くしまる。
7. 暗褐色土 やや粘質。焼上粒・炭粒含む。やや堅くしまる。
8. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒・焼上粒少量含む。やや堅くしまる。

0 1:30 1m

2・3号住居跡掘り方



2号住居跡ピット

1. 黒褐色土 やや粘質。ローム粒少量含む。
2. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・白色細粒含む。やや堅くしまる。

0 1:60 2m

2・3号住居跡掘り方

1. 暗褐色土 やや粘質。白色細粒・ローム粒・焼上粒含む。やや堅くしまる。
2. 灰褐色土 やや粘質。ロームブロック・焼土ブロック・灰色粘土・白色細粒・炭粒含む。堅くしまる。
3. 黄褐色土 やや粘質。ローム多量、焼土ブロック・炭化物含む。やや堅くしまる。
4. 灰色粘質土 ローム粒・炭化物少量含む。
5. 黑褐色土 やや粘質。ローム粒・焼上粒・白色細粒少量含む。やや堅くしまる。
6. 黄褐色粘土ブロック

7. 暗褐色土 やや粘質。ローム粒・焼上粒・白色細粒少量含む。やや堅くしまる。

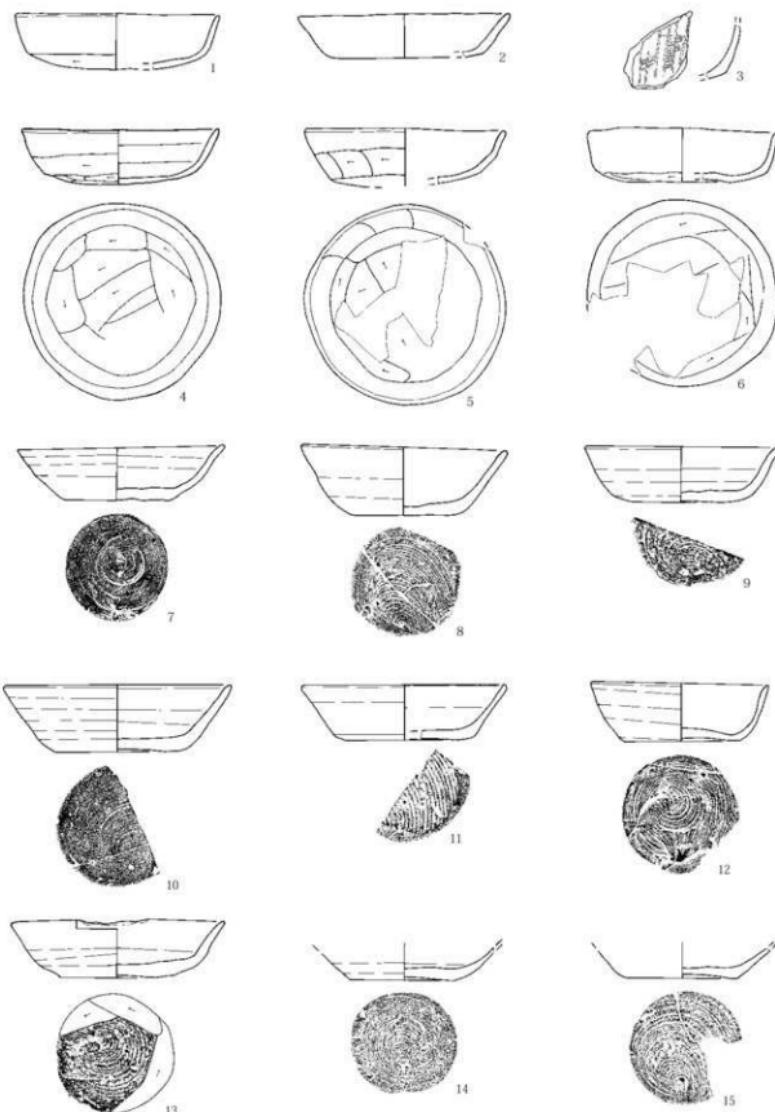
8. 褐色土 ローム粒・白色細粒含む。やや堅くしまる。

3号住居跡1号床下土坑

1. 暗褐色土 やや粘質。焼土ブロック・灰・ロームブロック・炭化物含む。やや堅くしまる。
2. 黑褐色土 やや粘質。焼土ブロック・ロームブロック含む。
3. 灰褐色土 やや粘質。焼土ブロック・炭化物含む。やや堅くしまる。
4. 暗褐色土 やや粘質。焼土ブロック・ローム粒含む。やや堅くしまる。
5. 灰褐色粘質土 ローム粒含む。堅くしまる。

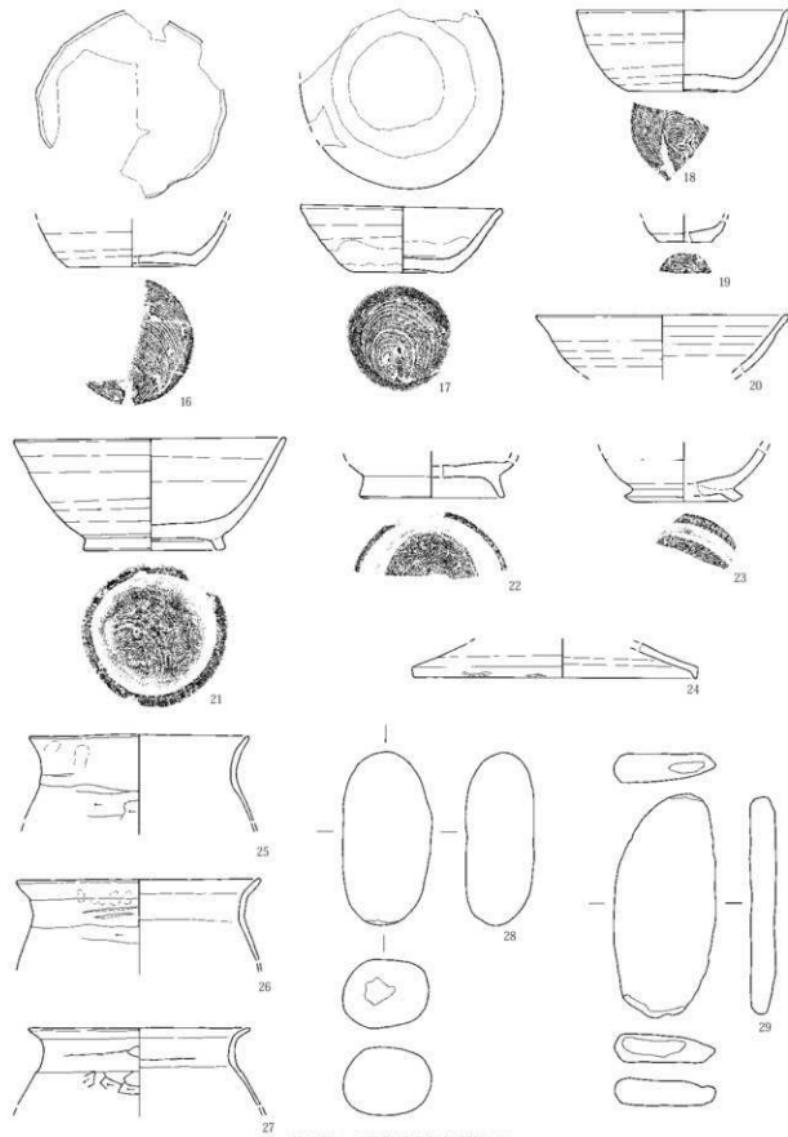
第15図 2・3号住居跡カマド・掘り方・床下土坑

2 造構と遺物 (I) 突穴住居跡



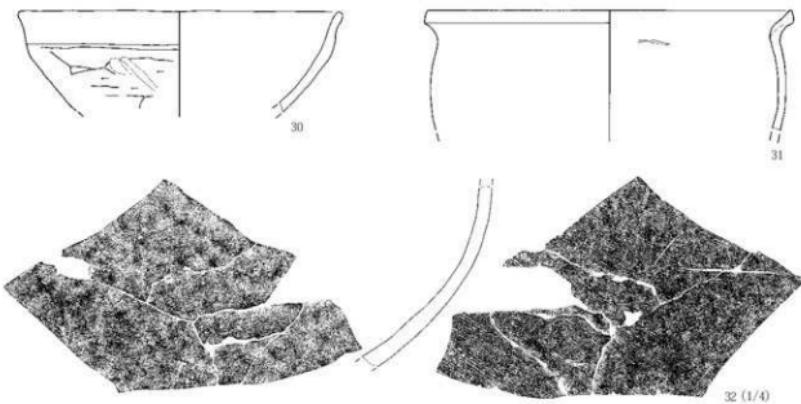
第16図 2号居住跡出土遺物(1)

II 調査の記録

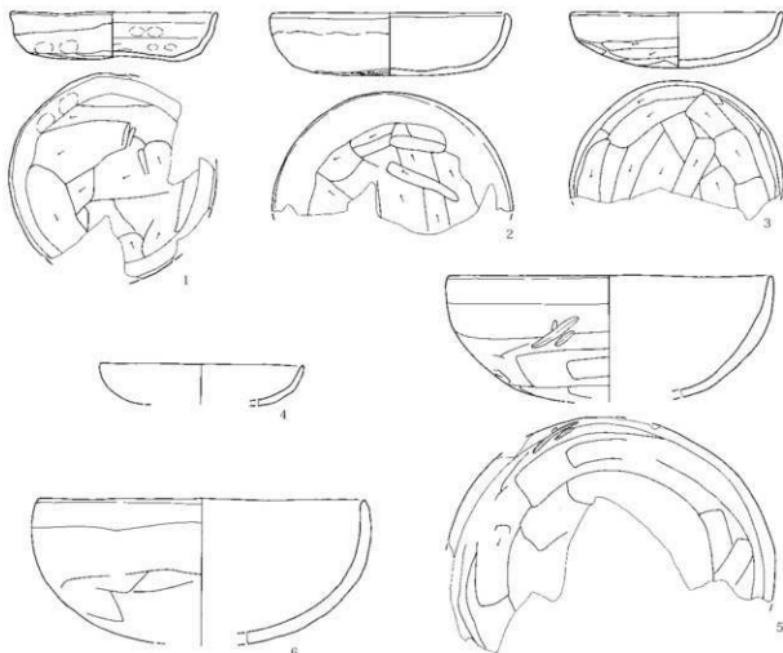


第17図 2号住居跡出土遺物(2)

2 遺構と遺物 (I) 突穴住居跡

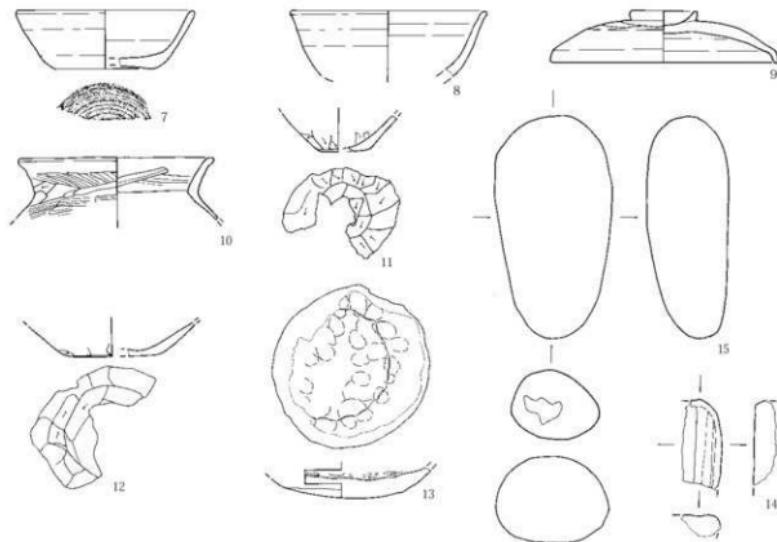


第18図 2号住居跡出土遺物(3)



第19図 3号住居跡出土遺物(1)

II 調査の記録



第20図 3号住居跡出土遺物(2)

(2) 挖立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第21図、PL 7)

位置 96A-14・15

重複 P 2が32号溝と重複するが、新旧関係不明。

形態 1×1間の東西に長い台形。

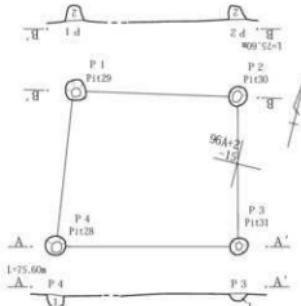
主軸方位 N-76°-E

規模 南北1.84m、東西2.25m

遺物 なし。

時期 柱穴の埋没土から中世～近世(天明期以前)に

比定される。



1号掘立柱建物跡

1. 灰褐色土 白色細粒少量含む。

2. 灰褐色土 黄褐色土大ブロック含む。



第21図 1号掘立柱建物跡

2 遺構と遺物 (2) 挖立柱建物跡

2号掘立柱建物跡 (第22図、PL 7)

位置 95T・96A-12・13 重複 なし。

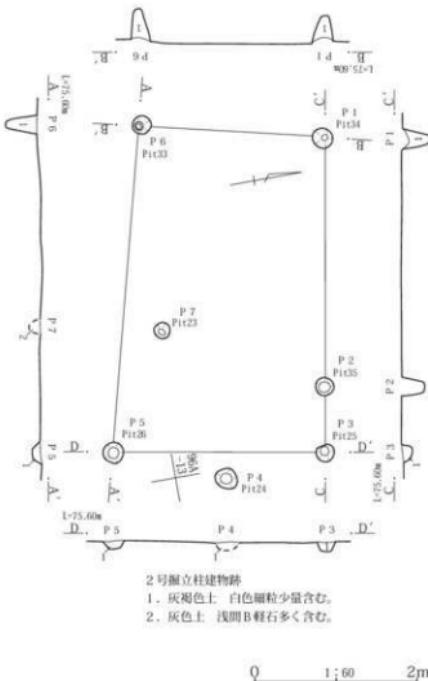
形態 2×1間の長方形。P 4は妻側の中央にあり、東辺から外側に張り出し、棟持ち柱と見られる。P 2は北東隅柱P 3から約80cm離れており、間隔から出入り口の可能性がある。P 7は建物の軸線に乗っておらず直接的なつながりを見いだせないが、周辺に本遺構以外のピットがないことから、本遺構に属すると判断される。

主軸方位 N-80°-W

規模 南北2.60m、東西4.28m

遺物 なし。

時期 柱穴の埋没土から中世～近世(天明期以前)に比定される。



第22図 2号掘立柱建物跡

第2表 挖立柱建物計測表

遺構名	1号掘立柱建物跡	規格(cm)			面積	4.14m ²
		柱穴No.	長径	短径	深さ	
全体規模						形狀
北辺2.00m	P 1	26	25	19	楕方	2
東辺1.83m	P 2	25	22	16	円	1.83
南辺2.25m	P 3	24	20	8	円	2.25
西辺1.91m	P 4	26	25	15	円	1.91
遺構名	2号掘立柱建物跡	主軸方位	N-80°-W	面積	11.13m ²	
遺構名	2号掘立柱建物跡	規格(cm)			形狀	次ピットとの間隔(m)
		柱穴No.	長径	短径	深さ	
全体規模						形狀
北辺3.84m	P 1	25	24	32	円	3.05
	P 2	23	22	26	円	0.79
東辺2.60m	P 3	23	20	11	円	1.25
	P 4	29	25	8	楕円	1.42
南辺4.02m	P 5	25	25	10	円	P7へ1.60
西辺2.29m	P 6	24	21	38	円	2.29
	P 7	20	20	14	円	P6へ2.55

II 調査の記録

(3) 土坑

ア 古墳時代～平安時代

本時期の土坑は、Ⅶ層上面で確認しており、埋没土はVI・VII層を母材とすることを、時期決定の基本的な根拠とする。

18号土坑(第23図、P L 8)

位置 76B-17。不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径80cm短径64cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。

21号土坑(第23図、P L 8)

位置 76B-18。楕円形。断面はV字形を呈し、底面は円形で丸みを持つ。規模は長径83cm短径59cm深さ37cmである。遺物は出土しなかった。

23号土坑(第23図、P L 8)

位置 76C-18。不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。規模は長径77cm短径60cm深さ26cmである。遺物は出土しなかった。

36号土坑(第23図、P L 8)

位置 95T-17。28号溝と重複するが新旧関係不明。不整形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや丸みを持つ。規模は長径137cm短径74cm深さ55cmである。遺物は出土しなかった。

45号土坑(第23図、P L 8)

位置 96B-13。楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。規模は長径77cm短径61cm深さ16cmである。遺物は出土しなかった。

49号土坑(第23図、P L 8)

位置 76B-16。不整長楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径235cm短径146cm深さ53cmである。遺物は出土しなかった。

50号土坑(第23図、P L 8)

位置 95R-8。円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径107cm短径100cm深さ23cmである。遺物は出土しなかった。

51号土坑(第23図、P L 8)

位置 95R-8。楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹するが、土壤攪乱が大きいと思われる。規模は長径172cm短径132cm深さ40cmである。遺

物は出土しなかった。

イ 中世・近世

本時期の土坑は、IV層上面で確認しており、埋没土中に浅間A軽石および浅間B軽石を含むかが、時期決定の基本的な根拠となっている。

1号土坑(第24図、P L 8)

位置 95R-6。整った円形を呈する。調査できた深さは浅く、壁の形態は不明。底面はやや凸凹するが、土壤攪乱による可能性が高い。埋没土はB混土。規模は長径72cm短径64cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。

2号土坑(第24図、P L 8)

位置 95S-1。隅丸長方形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土で、IV層土ブロックを多く含み、短期間に埋め戻されたと思われる。規模は長径116cm短径57cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。

3号土坑(第24図、P L 8)

位置 85R-17。隅丸長方形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土で、IV層土ブロックを多く含み、短期間に埋め戻されたと思われる。規模は長径145cm短径76cm深さ34cmである。遺物は出土しなかった。

4号土坑(第24図、P L 9)

位置 85R-7。やや整った円形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径69cm短径56cm深さ11cmである。遺物は出土しなかった。

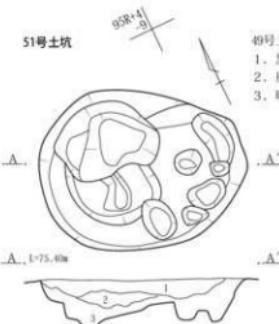
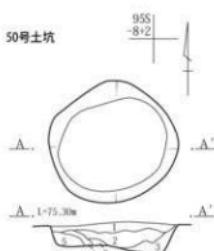
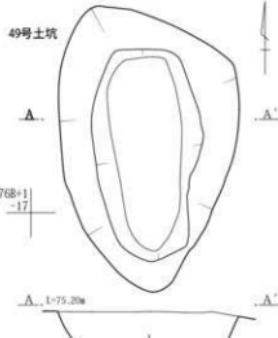
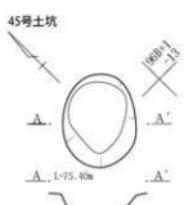
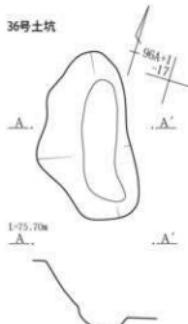
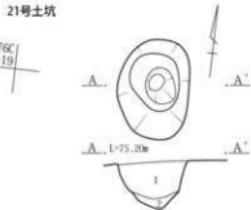
5号土坑(第24図、P L 9)

位置 85R-5。やや整った円形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はB混土。規模は長径66cm短径59cm深さ11cmである。遺物は出土しなかった。

6号土坑(第24図、P L 8)

位置 75S-13。ほぼ楕円形を呈し、壁はやや垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径71cm短径53cm深さ17cmである。遺物は出土しなかった。

2 遺構と遺物 (3)土坑



49号土坑
1. 黒褐色土 均質。
2. 灰白色粘質土
3. 暗褐色土 黑褐色土、黄灰色土含む。

50号土坑
1. 灰褐色粘質土 白色細粒少量、赤褐色粒含む。しまる。
2. 灰褐色粘質土
3. 灰褐色粘質土 黑褐色土含む。
4. 黑褐色粘質土 白色粘土ブロック多く含む。しまる。
5. 黑褐色粘質土 白色粘土ブロック少量含む。しまる。

51号土坑
1. 灰褐色粘質土 白色細粒少量、赤褐色粒含む。しまる。
2. 灰褐色粘質土
3. 灰褐色粘質土 上 黑褐色土含む。

0 1:40 1m

第23図 18・21・23・36・45・49～51号土坑

II 調査の記録

8号土坑(第24図、P L 9)

位置 75S-18。ほぼ楕円形を呈する。調査できた深さは浅く、壁の形態は不明。底面はほぼ平坦。規模は長径126cm短径72cm深さ7cmである。遺物は出土しなかった。

9号土坑(第24図、P L 9)

位置 75I-17。不整円形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土中に焼土・炭を多く含むが、性格不明。規模は長径56cm短径55cm深さ9cmである。遺物は出土しなかった。

11号土坑(第24図、P L 9)

位置 76G-16。細長い闊丸長方形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径169cm短径60cm深さ15cmである。遺物は須恵器碗の破片1点が出土したが混入である。

12号土坑(第25図、P L 9)

位置 86B-11。整った闊丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は全体にほぼ平坦で、中央部が丸みを持って凹むが土壤攪乱の可能性がある。埋没土はB混土。規模は長径132cm短径77cm深さ34cmである。遺物は出土しなかった。

13号土坑(第25図、P L 9)

位置 86A-10。長椭円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径137cm短径63cm深さ21cmである。遺物は出土しなかった。

14号土坑(第25・27図、P L 24)

位置 86A-11。19・46号溝と重複するが新旧関係不明。不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径72cm短径52cm深さ24cmである。遺物は灯明皿1点(1)、德利1点(2)のほか、磁器碗破片2点・同皿破片1点が出土した。出土遺物から江戸後期頃に比定される。

15号土坑(第25図)

位置 86A-10。長円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径61cm短径40cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。

16号土坑(第25図、P L 9)

位置 76B-18。18号溝と重複し、平面観察から後出である。整った長方形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土はA混土。規模は長径130cm短径97cm深さ7cmである。遺物は出土しなかった。

17号土坑(第25図)

位置 76B-18、16・18号溝と重複し、平面観察から18号溝に前出し16号溝より後出する。不整形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はA混土。規模は長径120cm以上短径65cm深さ8cmで、東西端は溝との重複により消滅。遺物は出土しなかった。

19号土坑(第25図、P L 9)

位置 86B-7。不整椭円形。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径150cm短径113cm深さ16cmである。遺物は出土しなかった。

20号土坑(第25図、P L 9)

位置 86C-7。闊丸正方形。壁は垂直ぎみに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径114cm短径106cm深さ33cmである。遺物は出土しなかった。

22号土坑(第25図、P L 9)

位置 76B-19。不整形で2基が重複するかもしれない。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径100cm短径45cm深さ30cmである。遺物は出土しなかった。

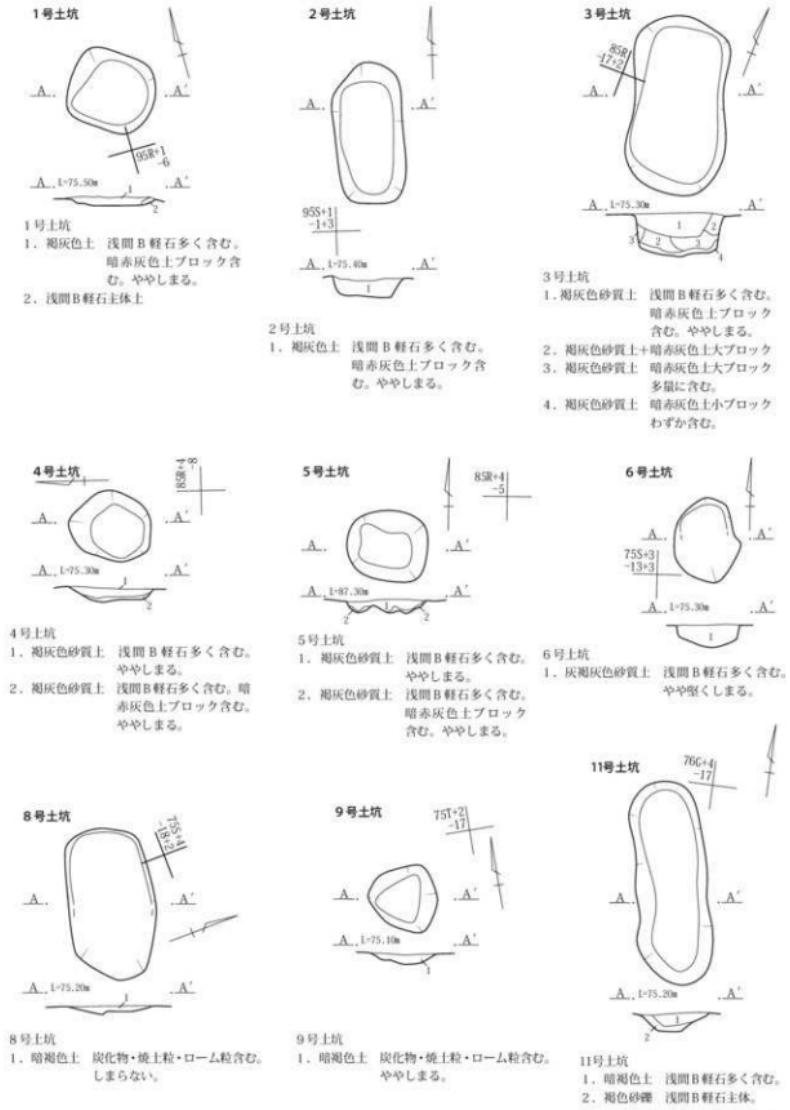
24号土坑(第26図、P L 9)

位置 86B-2。不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径96cm短径82cm深さ35cmである。古代の土師器甌破片1点が出土したが混入である。

25号土坑(第26図、P L 9)

位置 86B-2。不整長椭円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径237cm短径100cm深さ51cmである。遺物は出土しなかった。古墳時代の土師器甌破片1点が出土したが混入である。

2 遺構と遺物 (3)土坑



第24図 1~6・8・9・11号土坑

II 調査の記録



第25図 12～17・19・20・22号土坑

0 1:40 1m

26号土坑(第26図)

位置 96A-15。平・断面形、規模不明。25溝に重複して前突出する。埋没土はA混土。深さは約6cm。遺物は出土しなかった。

27号土坑(第26図、P L 10)

位置 95T-15。ほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径54cm 短径46cm深さ12cmである。古墳時代から古代の土師器破片4点が出土したが混入である。

28号土坑(第26図、P L 10)

位置 95T-16。円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径56cm 短径54cm深さ14cmである。遺物は出土しなかった。

29号土坑(第26図、P L 10)

位置 96A-15。不整円形。壁は斜めに立ち上がるが、西側が浅く張り出す。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径80cm短径60cm深さ21cmである。土師器の破片がやや多く出土したが混入である。

31号土坑(第26図)

位置 96B-13。平・断面形、規模不明。埋没土はB混土。深さは約6cm。遺物は出土しなかった。

34号土坑(第26図、P L 10)

位置 95T-17。29号溝と重複し後出と推定される。ほぼ半分が調査区外となる。隅丸方形と推定。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。石の混入が目立つ。規模は長径101cm短径41cm以上深さ53cmである。古代の土師器破片がやや多く、須恵器破片7片が出土したが混入である。

35号土坑(第26図、P L 10)

位置 96A-7。不整方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はB混土。規模は長径85cm短径73cm深さ19cmである。遺物は出土しなかった。

37号土坑(第26図、P L 10)

位置 96A-2。整った円形。壁はほぼ垂直で浅い。底面は凸凹する。埋没土はA混土。規模は長径87cm 短径85cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。

38号土坑(第27図、P L 10)

位置 96A-3。不整長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径113cm短径63cm深さ21cmである。遺物は出土しなかった。

39号土坑(第27図、P L 10)

位置 86B-17。38号溝と重複するが新旧関係不明。不整形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径209cm短径78cm深さ22cmである。陶器碗1点(1)が出土し、時期は江戸時代に比定される。

40・41・42号土坑(第27図、P L 10)

位置 86B-15。3基が相互に重複し、境界が不明のため、個々の長径規模は不明。形態はすべて隅丸長方形と見られる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。40号土坑は短径65cm深さ36cm、41号土坑は短径50cm深さ33cm、42号土坑は短径71cm深さ39cmである。遺物は出土しなかった。

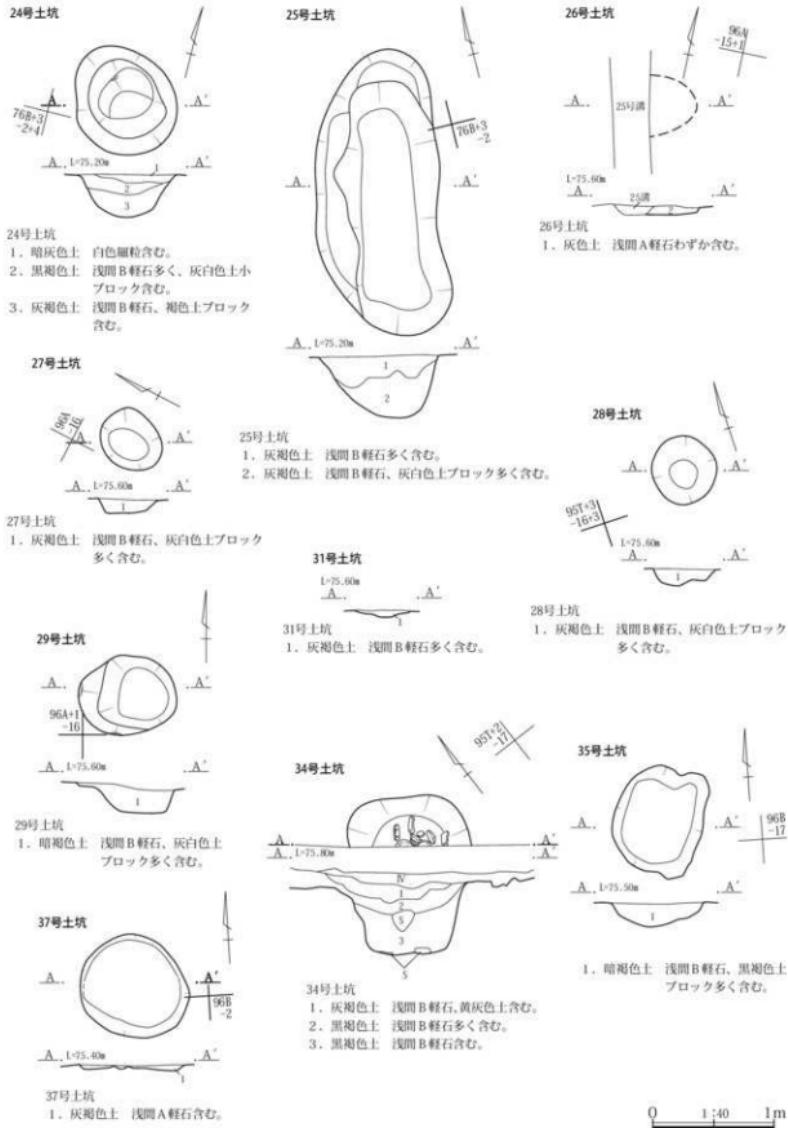
43号土坑(第27図、P L 10)

位置 86B-14。円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はB混土。規模は長径88cm短径73cm深さ25cmである。遺物は出土しなかった。

44号土坑(第27図、P L 10)

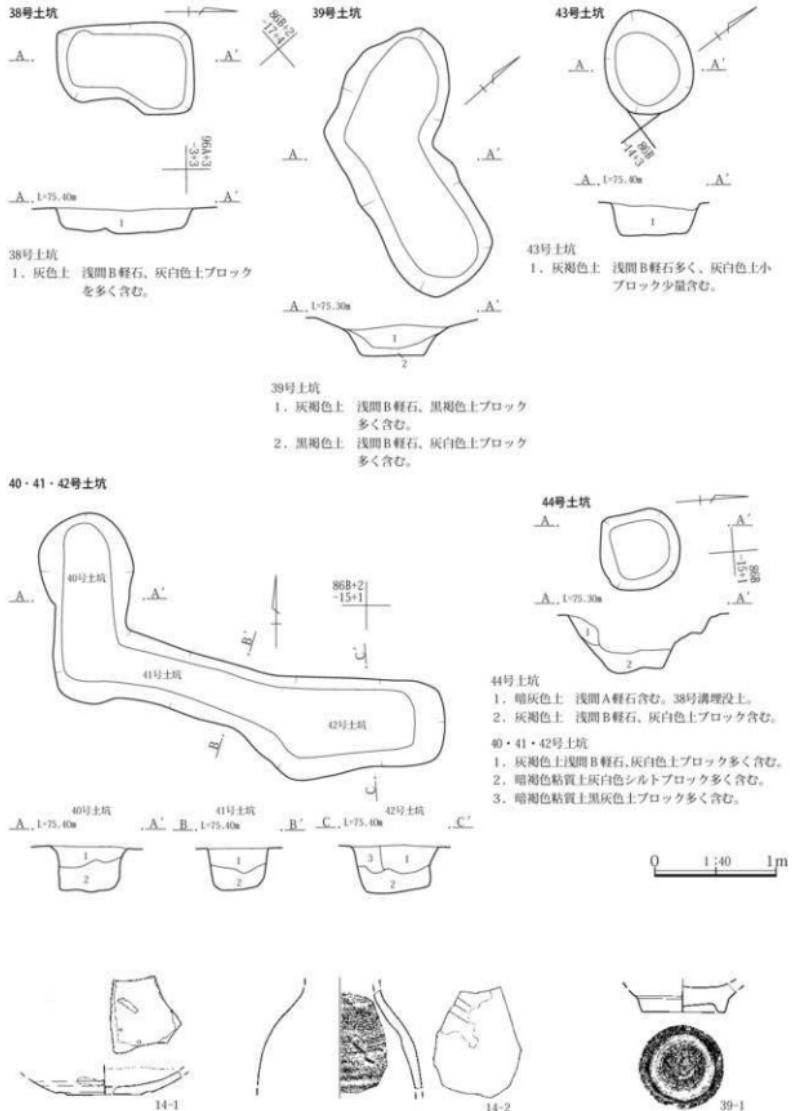
位置 86A-15。38号溝と重複し前突出する。隅丸正方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。規模は長径66cm短径64cm深さ22cmである。遺物は出土しなかった。

II 調査の記録



第26図 24～29・31・34・35・37号土坑

2 遺構と遺物 (3)土坑



第27図 38～44号土坑平・断面図、14・39号土坑出土遺物

II 調査の記録

(4) 戸

1号井戸跡(第28図、P L 11・24)

位置 75S-13 重複 なし

確認面形状と規模 不整円形。

長径182cm短径150cm

底面形状と規模 凹丸台形。長径62cm短径50cm

断面形 漏斗状 深さ104cm

埋没状況 下層は砂質で埋まり、上層は一気に埋めている。人為的な埋没。

遺物 土師器壺1点(1)のみである。

時期出土 遺物から4世紀後半に比定される。



1号井戸跡

- 暗褐色土 やや粘質。灰褐色土ブロック少量、白色細粒を多く含む。しまる。
- 灰褐色土 やや粘質。暗赤褐色土ブロック含む。ややしまる。
- 灰褐色土 やや粘質。ロームブロック含む。ややしまる。
- 黒褐色砂質土 ローム粒わずか含む。ややしまる。
- 灰褐色砂質土 ローム粒わずか含む。ややしまる。
- 黒褐色土 やや粘質。褐灰色土ブロック、白色細粒含む。ややしまる。
- 黒褐色土 やや粘質。ローム粒含む。ややしまる。

2号井戸跡(第28図、P L 11・24)

位置 75S-13 重複 なし

確認面形状と規模 不整円形。長径146cm短径134cm

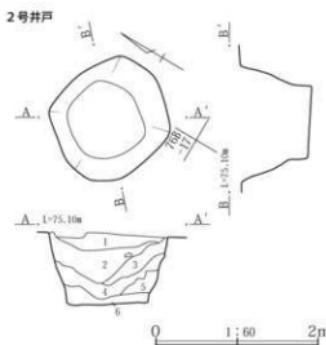
底面形状と規模 不整円形。長径92cm短径88cm

断面形 円筒形で上半は斜めに開く。深さ85cm

埋没状況 自然埋没か。

遺物 須恵器杯1点(1)のほか、須恵器壺の破片が7点出土している。

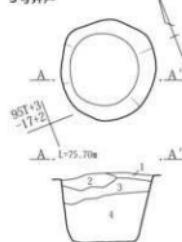
時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。



2号井戸跡

- 灰褐色砂質土 黄色細粒、白色細粒、褐灰色土ブロック含む。ややしまる。
- 灰褐色砂質土 黄色細粒少量、褐灰色土ブロック含む。ややしまる。
- 暗褐色土 やや粘質。褐灰色土ブロック含む。ややしまる。
- 黒褐色土 やや粘質。ロームブロック含む。ややしまる。
- 黒褐色土 やや粘質。褐灰色土ブロック含む。ややしまる。
- 黒色粘質土 ローム粒少量含む。しまらない。

3号井戸



3号井戸跡

- 灰白色土+黒褐色土ブロック
- 灰色土 深層B軽石を多く含む。
- 灰色土 黒褐色土ブロック含む。
- 褐色土 黑褐色土ブロック多く含む。

第28図 1～3号井戸跡、1・2号井戸跡出土遺物

3号井戸跡(第28図、P L 11)

位置 95T-16 重複 29号溝に後出し、32号溝と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模 長径125cm短径117cm

底面形状と規模 長径89cm短径76cm

断面形 円筒形 深さ80cm

埋没状況 黒褐色土ブロックを多く含み、人為的な埋没。埋没土はB混土。

遺物 古墳時代の土師器片がやや多く出土したが混入である。

時期 埋没土から中近世に比定される。



第29図 36号ピット出土遺物

(5)ピット(第8・9・29～31図、P L 12・24)

ア 古墳時代～平安時代

8～18号、39号ピットは、埋没土から古代以前の所産であり、隣接する下齊田遺跡1号住居跡(古墳時代前期)との関連が想定される。なお、8号、11号、13～15号、39号ピットは、下齊田遺跡調査済のものを再確認したため、埋没土は不明である。出土遺物は、10号ピットから古代の土師器片1点、17号ピットから古代の土師器片1点が出土した。

35～37号ピットも埋没土から古代以前の所産であり、36号ピットから埴輪片1点(1)が出土している。

イ 中世・近世

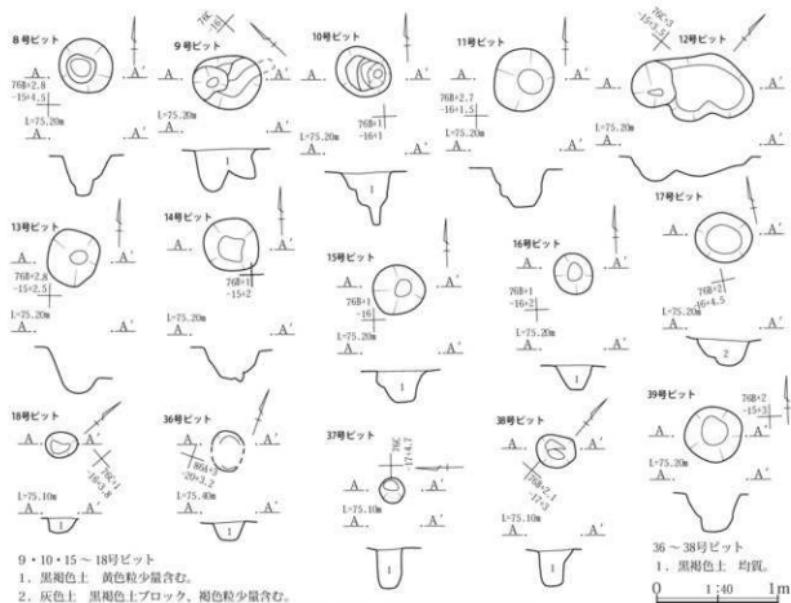
1～5号ピット、22号ピットは、A s-B 下水田面で確認され、埋没土はB混土である。19～21号ピット、32号ピットも確認面は違うが、埋没土はB混土である。27号ピットは浅間B軽石障下以降の所産である。なお、23～26号ピット、28～31号ピット、33～35号ピットは掘立柱建物跡として別に掲載した。

第3表 ピット計測表

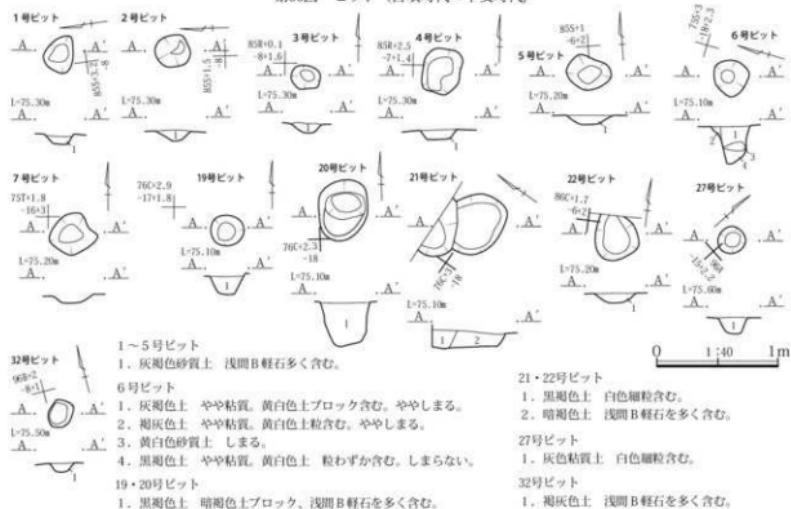
単位: cm

No	位置	長径	短径	深さ
1	85S-7	31	24	9
2	85S-7	28	26	9
3	850-8	25	19	8
4	85R-7	37	30	8
5	85S-6	35	26	8
6	75S-18	30	28	31
7	75I-16	32	31	6
8	76B-15	47	45	32
9	76B-16	57	40	33
10	76B-16	47	34	42
11	76B-16	52	49	31
12	76C-15	100	53	20
13	76B-15	45	42	35
14	76B-15	44	42	24
15	76B-15	42	41	26
16	76B-16	34	32	20
17	76B-16	46	41	21
18	76C-16	27	22	11
19	76C-17	27	26	15
20	76C-17	52	42	35
21	76C-17	59以上	46	15
22	86C-16	37以上	35	8
27	96A-15	24	23	13
32	96B-8	23	19	7
36	86A-20	33	26	15
37	76B-17	21	20	32
38	76B-17	31	26	29
39	76B-15	45	45	30

II 調査の記録



第30図 ピット (古墳時代～平安時代)



第31図 ピット (中世・近世)

(6)溝

ア 古墳時代～平安時代

9号溝(第32図、P L13)

位置 75R-T-17・18。平面形態は、やや東側に膨らんだ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-10°-E。規模は長さ13.32m幅112cm深さ45cmである。遺物は器台脚部1点(1)のほか、土師器片がやや多く出土した。北方延長線上に15号溝があり同一の溝と思われる。時期は出土遺物から4世紀前半に比定される。

15号溝(第32図、P L13)

位置 76A-C-16・17。平面形態は、やや西側に膨らんだ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-32°-E。規模は長さ10.40m幅106cm深さ46cmである。遺物は土師器破片11点が出土している。時期は9号溝同様4世紀前半に比定される。

28号溝(第32図、P L13・24)

位置 95T-96B-16・17。29号溝より後出し、30・41号溝より前出す。平面形態は、ほぼ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-20°-W。規模は長さ11.52m幅188cm深さ47cmである。遺物は土師器杯1点(1)、須恵器杯1点(2)のほか、古代の土師器片がやや多く出土した。時期は出土遺物から9世紀前半に比定される。

29号溝(第33図、P L14)

位置 95T-96C-15-17、24・28・40号溝より前出す。平面形態は、J字状をなし、北端部はさらに細く直線状に凹む。断面は皿状に近い。走向方位はN-32°-E-N-70°-E。規模は長さ11.04m幅245cm深さ13cmである。遺物は古代の土師器片がやや多く出土した。時期は出土遺物から古代に比定される。

48号溝(第33図、P L19)

位置 95P-5-10・11、50号溝より前出。平面形態は、輪郭が乱れた直線状。断面は皿状。走向方位はN-30°-E。規模は長さ31.2m幅130cm深さ15cmである。本遺構を境に東側が低地地形、西側が比較的高燥な地形となっており、元来は西側が高くなっている。

り、土手下であったと見られる。南1区では確認されていないが、B下水田の西限に位置するため、水田の床土面に残された痕跡溝とも考えられる。出土遺物は古代の土師器片8点が出土した。時期は出土遺物と埋没土から古代に比定される。

イ 中世・近世

1・2号溝(第34図、P L14)

位置 85G-S-17。1号溝は北壁から約3m付近で一度立ち上がるため、それより南側を2号溝としたが、一連の遺構と考えられる。平面形態は、やや西側に膨らんだ直線状。断面は逆台形で浅い。規模は長さ12.48m幅60cm深さ11cmである。走向方位はN-0°-N-11°-W。遺物は出土しなかった。北方延長線上に39号溝があり同一の溝と思われる。39号溝の埋没土はA混土であり、本遺構も同様に江戸時代後期以降に比定される。

3・4号溝(第34図、P L14)

位置 85Q-T-8。ほぼ同一方向に重複して走向するが新旧関係不明。平面形態は、やや西側に膨らんだ直線状。断面は浅くはっきりしない。規模は長さ13.20m幅50cm深さ8cmである。走向方位はN-4°-E-N-5°-W。遺物は出土しなかった。北方延長線上に46号溝があるが、平面形態が異なつており同一とは見なしがたい。確認面は浅間B軽石直下であり、水田との関連も想定される。

5号溝(第34図、P L14)

位置 75Q-T-19。平面形態は、ほぼ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-4°-E。規模は長さ13.48m幅72cm深さ30cmである。遺物は出土しなかつた。時期は浅間B軽石降下以降である。

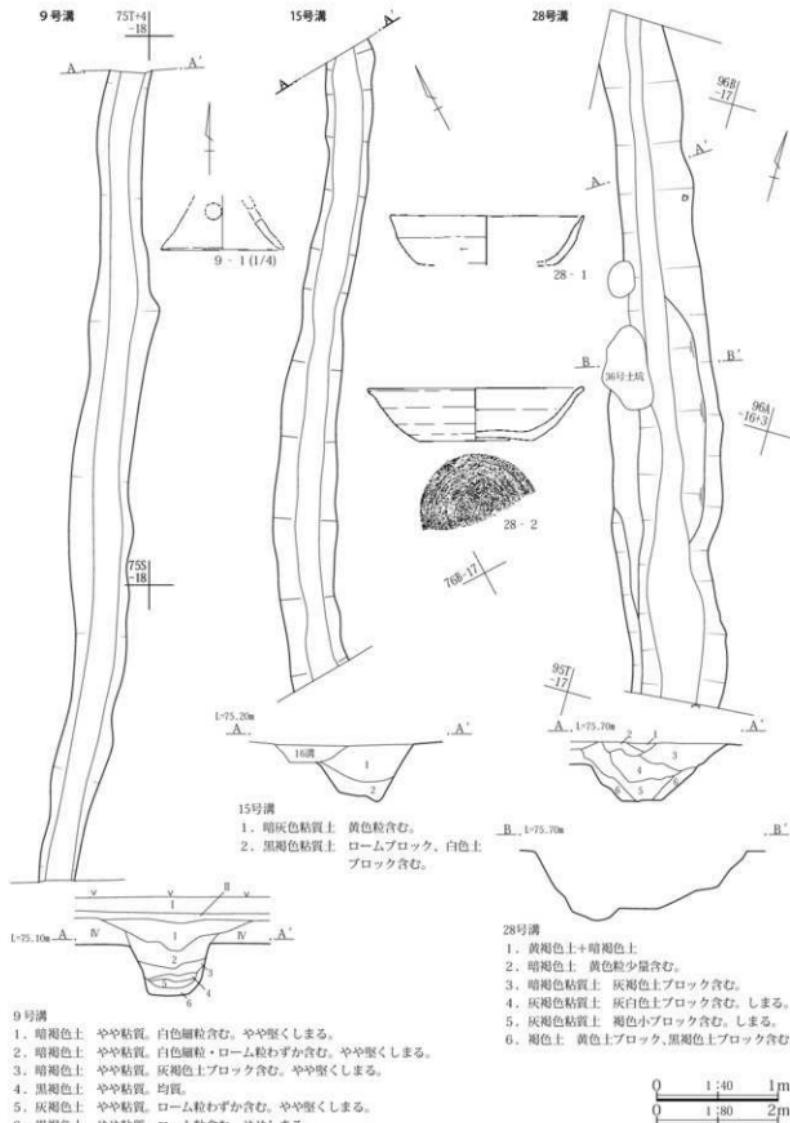
6号溝(第34図、P L15)

位置 75R-S-13。平面形態は、ほぼ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-17°-E。埋没土はB混土。規模は長さ5.18m幅52cm深さ17cmである。遺物は古代の土師器片1点が出土したが混入である。時期は浅間B軽石降下以降である。

7号溝(第35図、P L15)

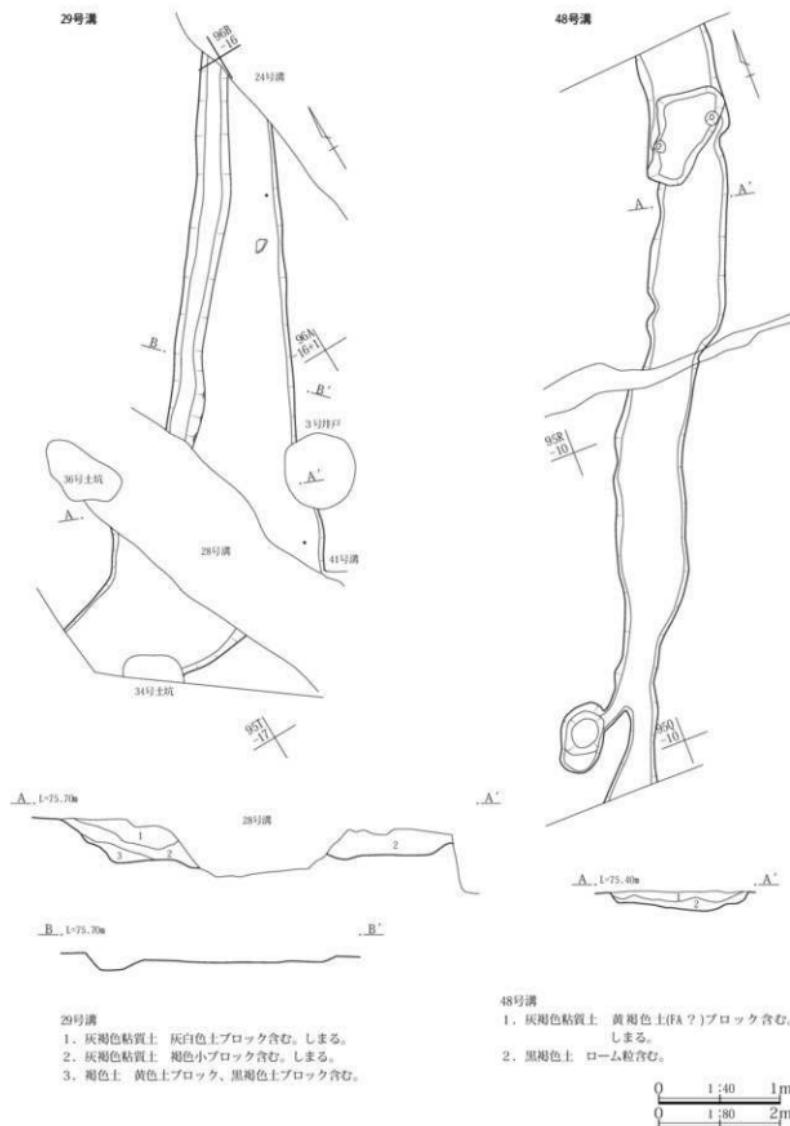
位置 75R-S-12・13。平面形態は、ほぼ直線状。

II 調査の記録



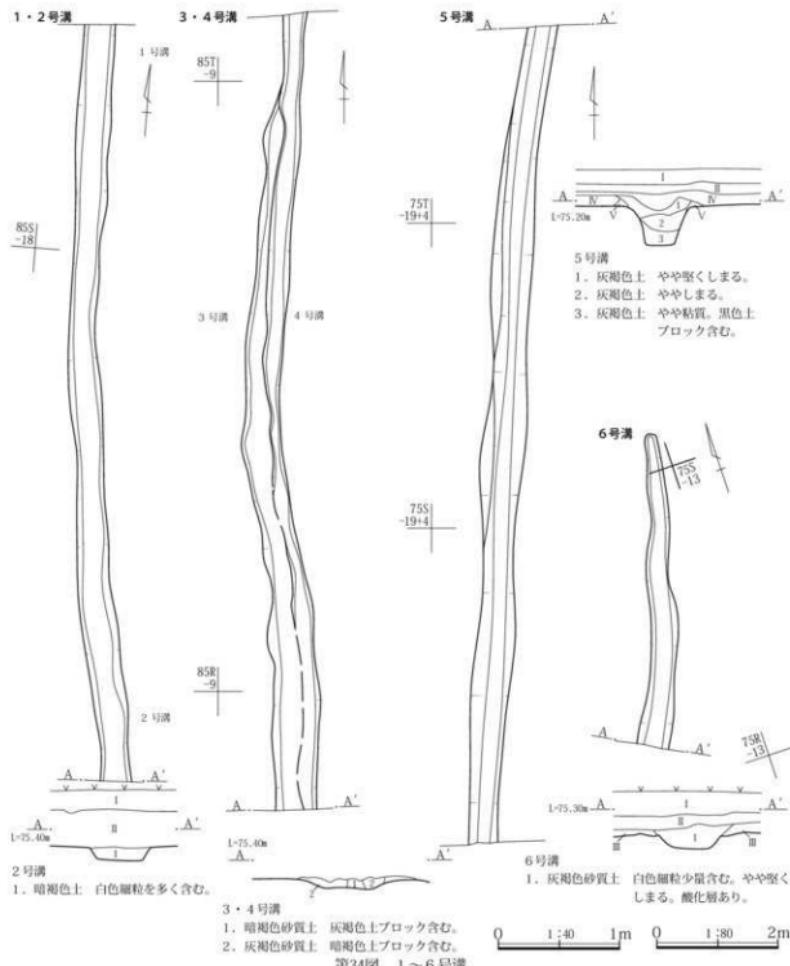
第32圖 9：15：28层譜 9：28层譜出土遺物

2 造構と遺物 (6)溝



第33図 29・48号溝

II 調査の記録



第34図 1～6号溝

断面は逆台形。走向方位はN-28°-E。埋没土は表土に近い。規模は長さ5.72m幅72cm深さ21cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から近現代に比定される。

10号溝(第35図、P L15)

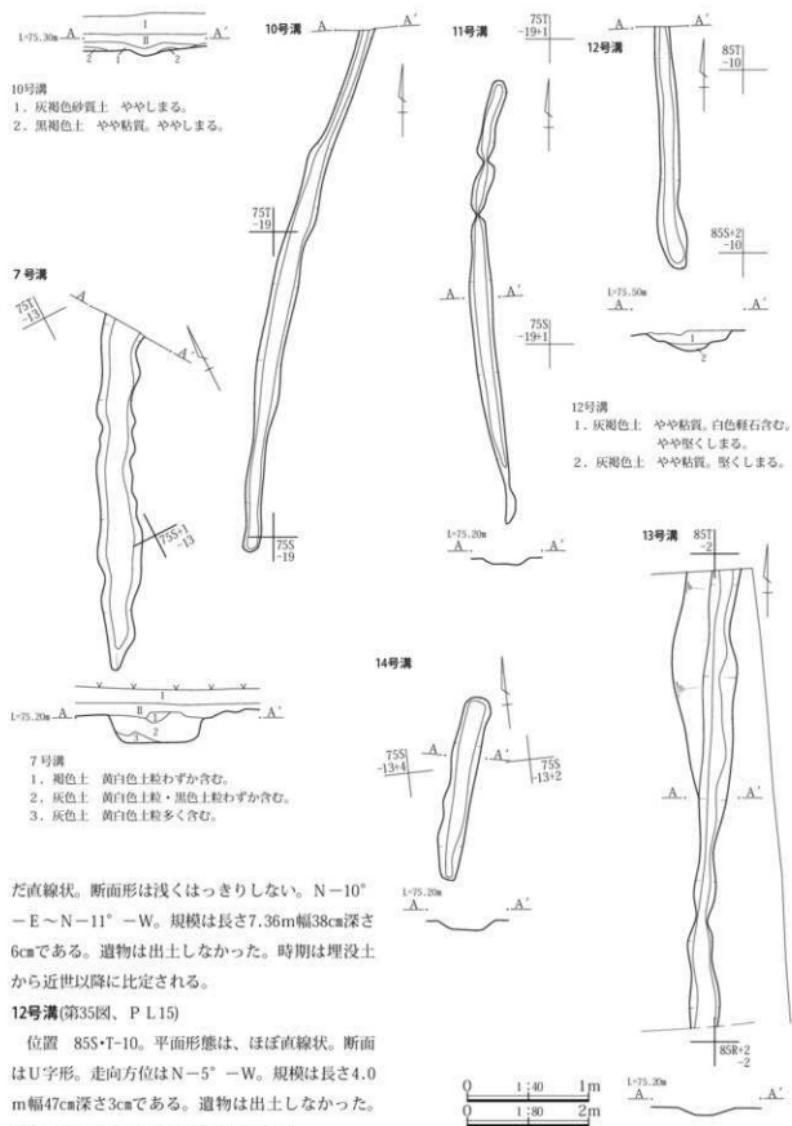
位置 75R-T-18+19. 平面形態は、やや西側に膨

らんだ直線状。断面形は浅くはっきりしない。N-13°-E。規模は長さ8.84m幅44cm深さ3cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から近世以降に比定される。

11号溝(第35図、P L14)

位置 75R-S-19. 平面形態は、やや西側に膨らん

2 遺構と遺物 (6) 溝



第25回 7・10～14日連

II 調査の記録

13号溝(第35図、P L 15)

位置 85R・S-1・2。平面形態は、ほぼ直線状。断面形は浅くはっきりしない。走行方位はN-3° - E。規模は長さ7.54m幅108cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。北方延長線上に21号溝があり同一の溝と思われる。時期は埋没土から近世以降に比定される。

14号溝(第35図、P L 15)

位置 75R・S-13。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN-31° - E。規模は長さ3.02m幅44cm深さ8cmである。遺物は出土しなかった。6号溝に近似しており、時期は浅間B軽石下降以降である。

16号溝(第36・42図、P L 16・24)

位置 76A-C-16-18、17・18号溝より後出する。平面形態はY字形。断面はU字形。走向方位はN-13° - W-N-51° - E、N-34° - E。規模は長さ18.60m幅128cm深さ14cmである。掲載遺物は碗皿類や調理具があり、ほかに施釉陶器碗皿類片4点、鉢片1点、在土器焰烙・鉢2点が出土している。時期は出土遺物から江戸時代中期頃に比定される。

17号溝(第36図、P L 16)

位置 76A-B-17・18。16号溝より前出する。平面形態は直線状。断面は深い逆台形。走向方位はN-26° - E。規模は長さ4.48m幅60cm深さ10cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から近世以降に比定される。

18号溝(第36・42図、P L 16・24)

位置 76A-C-17-19。16号溝より前出する。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN-38° - E。埋没土はB混土。規模は長さ10.32m幅50cm深さ35cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から中世以降に比定される。

19・46号溝(第37・42図、P L 16・24)

位置 86A-C-10-13。2条が重複し、46号溝が後出する。平面形態は19号溝がT字形、46号溝がほぼ直線状をなす。46号溝の底面には小穴が顕著であり、杭跡も含まれる。断面は19号溝がU字形、46号溝が

逆台形を呈する。埋没土はともにA混土。走行方位は19号溝がN-83° - W-N-5° - E。規模は長さ23.28m幅210cm深さ3cm。46号溝の走行方位はN-89° - W-N-0°、長さ23.60m幅48cm深さ6cmである。遺物は19号溝から陶器碗1点(2)、焰烙1点(3)、壺1点(4)が出土するが、カワラケ1点(1)は混入であろう。ほかに焰烙片1点がある。ただし、46号溝との重複が著しく、遺物は46号溝のものも含まれるかもしれない。19号溝西方延長線上に38号溝があり同一の溝と思われる。また、46号溝南方延長線上に3・4号溝があるが、平面形態が異なっており同一とは見なしがたい。19号溝は出土遺物から江戸時代中期頃に、46号溝はそれ以降に比定される。

20号溝(第37図、P L 17)

位置 86B-3-5。平面形態は、ほぼ直線状。断面は浅くはっきりしない。埋没土はA混土。走行方位はN-80° - W。規模は推定で長さ11.88m幅40cm深さ3cmである。遺物は出土しなかった。東方延長線上に23号溝があり同一の溝の可能性もある。時期は浅間A軽石下降以降である。

21号溝(第38図)

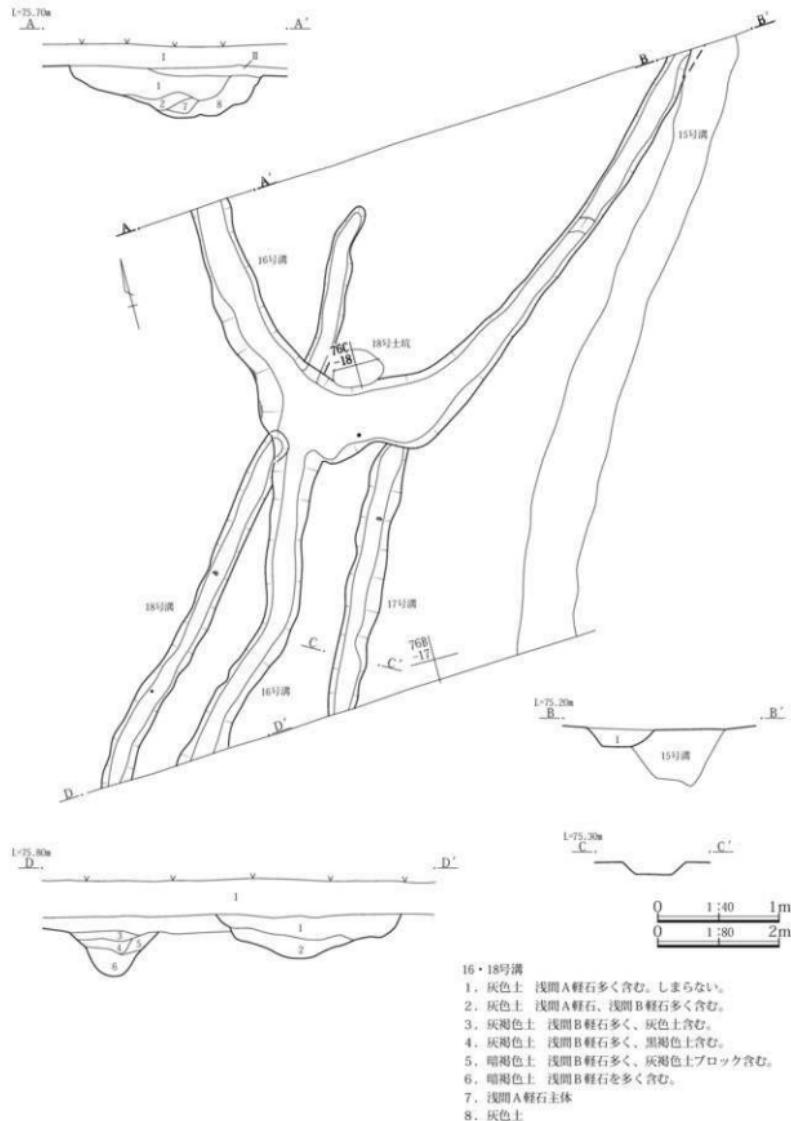
位置 86A-C-1・2。B下水田面東大畦より後出する。平面形態は、西側に膨らんだ直線状。断面はU字形。走向方位はN-4° - E。規模は長さ8.8m幅45cm深さ9cmである。遺物は古代の土器器片1点が出土したが混入である。南方延長線上に13号溝があり同一の溝と思われる。時期は埋没土から近世以降に比定される。

22号溝(第38図)

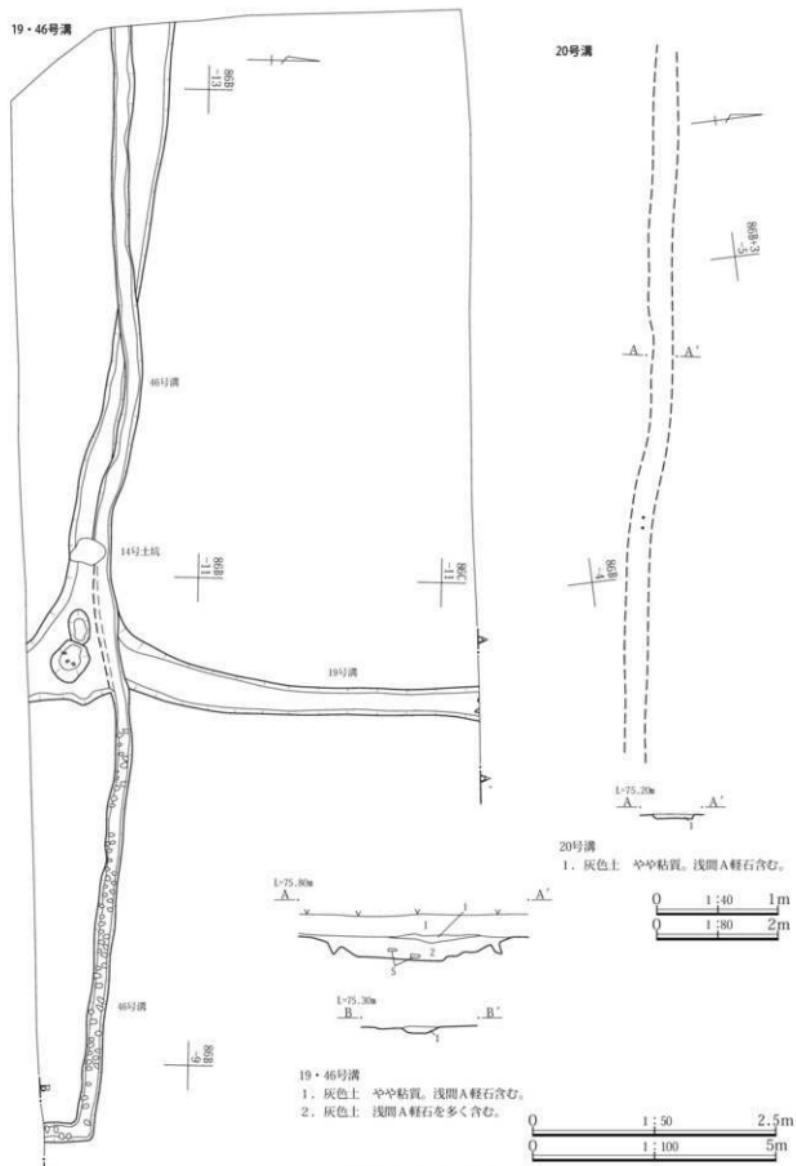
位置 86C-1・2。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN-5° - W。埋没土はB混土。規模は長さ1.28m幅51cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から浅間B軽石下降以降である。

23号溝(第38図)

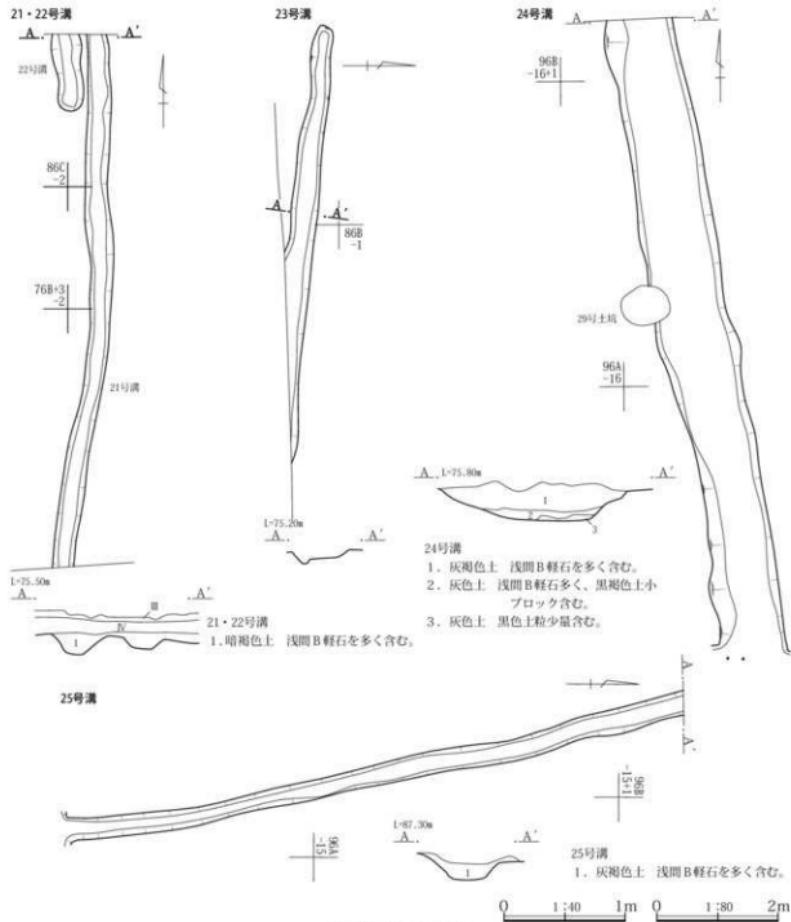
位置 76・86A-20・1。平面形態は、ほぼ直線状。断面形は浅くはっきりしない。走行方位はN-80° - W。規模は長さ7.24m幅48cm深さ9cmである。遺



第36図 16～18号溝



第37図 19・20・46号溝



第38図 21～25号溝

物は出土しなかった。西方延長線上に20号溝があり同一の溝の可能性もある。時期は20号溝に近いと思われる。

24号溝(第38図、P L 16)

位置 95T-96B-15・16。29号溝より後出し、27・32・33・42号溝と重複するが新旧関係不明。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN

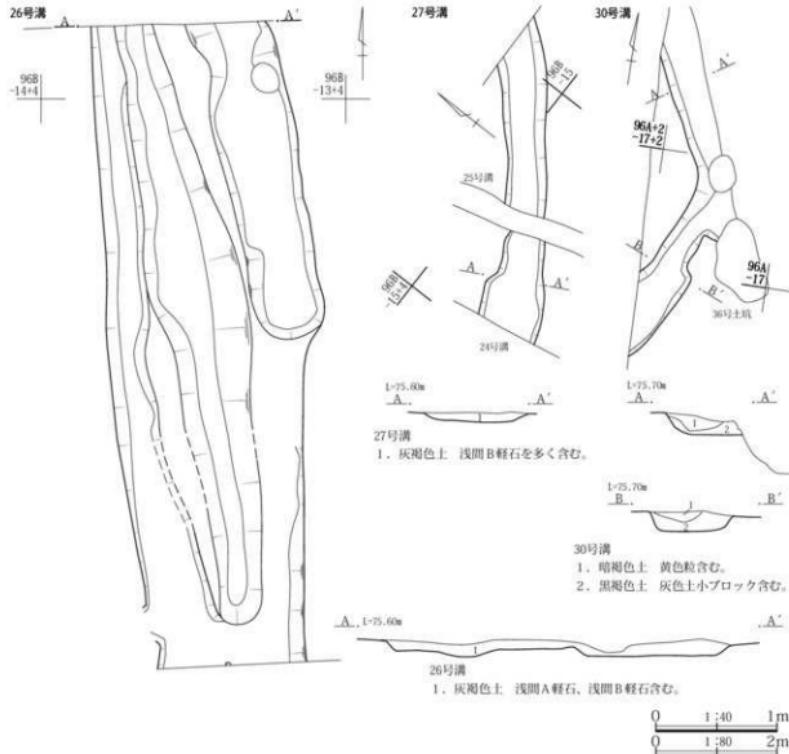
-9° - W。埋没土はB混土。規模は長さ10.64m幅130cm深さ12cmである。遺物は古代の土師器片がやや多く出土したが混入である。

時期は浅間B軽石降下以降である。

25号溝(第38図、P L 16)

位置 95T-96B-15。27・32・33・42号溝と重複するが新旧関係不明。平面形態は、ほぼ直線状。断面は

II 調査の記録



第39図 26・27・30号溝

U字形。走向方位はN-22°-W。埋没土はA混土。規模は長さ10.40m幅43cm深さ13cmである。遺物は土師器1点が出土したが混入である。時期は浅間A軽石降下以降である。

26号溝(第39・42図、P L 17)

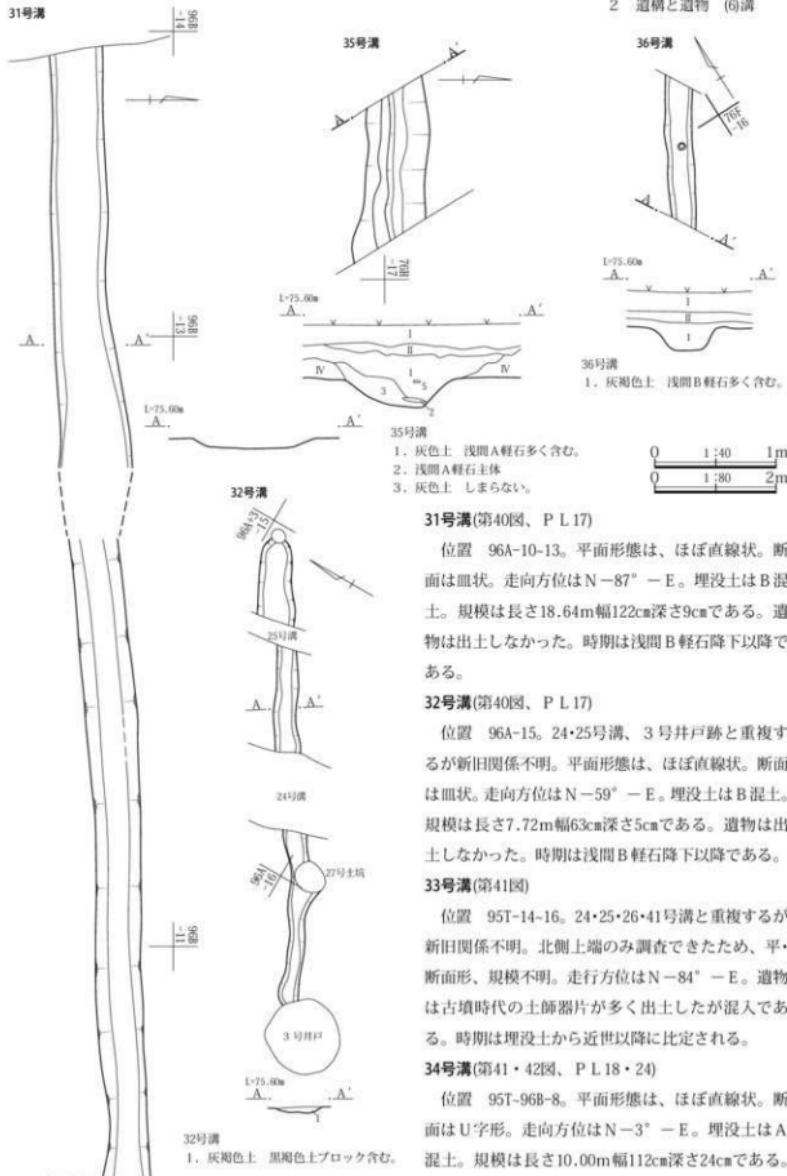
位置 95T-96B-13+14。複数の溝が混在するよう見えるが、一つの溝として調査されている。断面は浅くはっきりしない。埋没土はA混土。走行方位はN-6°-W。規模は長さ10.64m幅362cm深さ13cmである。遺物は輪禪皿1点(1)のほか、古代の土師器片が混入していた。時期は出土遺物から17世紀以降に比定される。

27号溝(第39図、P L 17)

位置 96A-B-14+15。24・25号溝と重複するが新旧関係不明。平面形態は、ほぼ直線状。断面は皿状。走向方位はN-54°-E。埋没土はB混土。規模は長さ5.45m幅106cm深さ8cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石降下以降である。

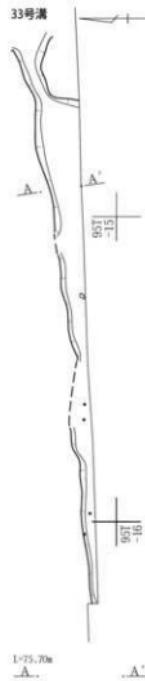
30号溝(第39図、P L 18)

位置 95T-96A-17。28号溝より後出する。平面形態は、くの字状を呈する。断面は逆台形。走向方位はN-22°-W~N-28°-E。規模は長さ6.52m幅80cm深さ18cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石降下以降である。

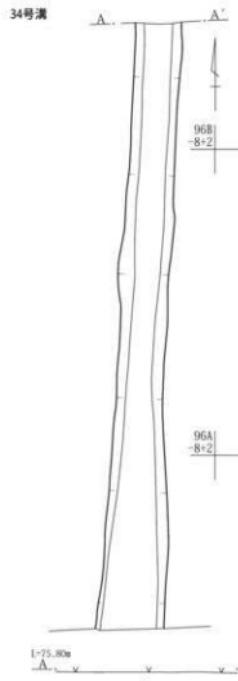


第40図 31・32・35・36号溝

II 調査の記録

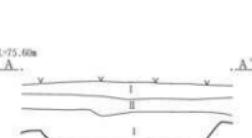
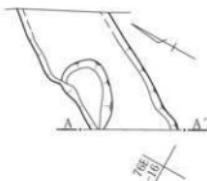


- 33号溝
1. 灰色粘質土 鉄分凝集あり。
 2. 灰色粘質土+黒灰色粘質土

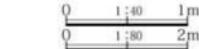


- 34号溝
1. 灰褐色土 浅間A軽石少量含む。鉄分凝集あり。
 2. 灰色シルト焼土 ブロック、炭化物含む。
 3. 灰色土 焼土ブロック、炭化物含む。
 4. 灰色土 浅間A軽石、浅間B軽石含む。

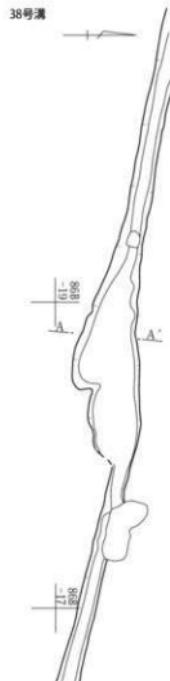
37号溝



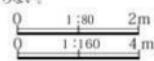
- 37号溝
1. 灰褐色土 浅間A軽石多く含む。

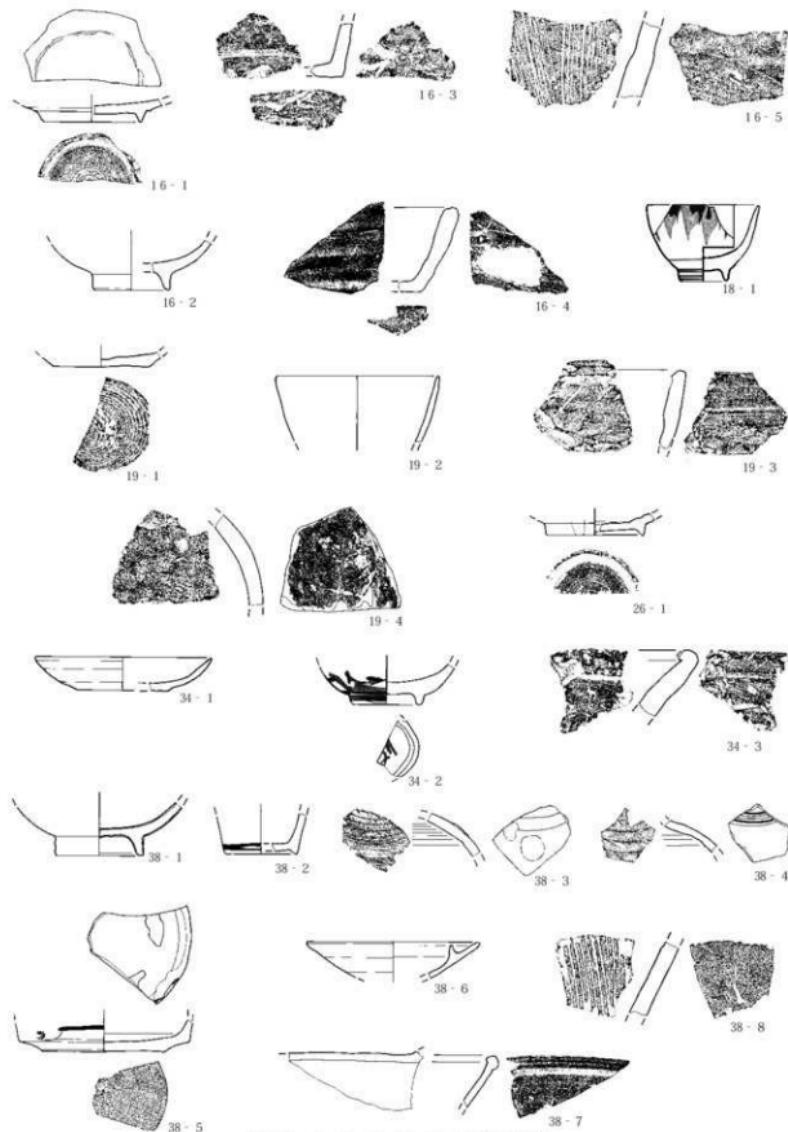


第41図 33・34・37・38号溝



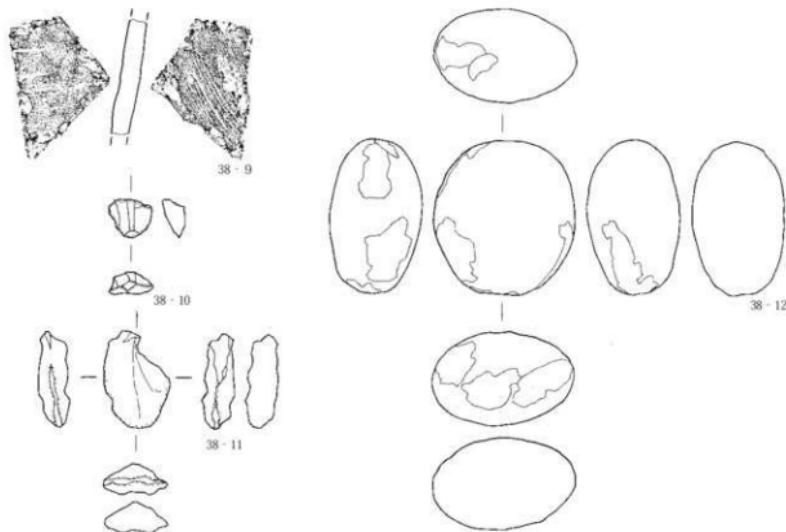
- 38号溝
1. 灰色土 浅間A軽石多く含む。
 2. 深間A軽石主体
 3. 灰色土 しまらない。





第42図 16・18・19・26・34・38号溝出土遺物

II 調査の記録



第43図 38号溝出土遺物(2)

遺物は江戸時代の磁器碗片2点、施釉陶器鉢類片1点などのほか、近代磁器も出土した。時期は出土遺物から近現代に比定される。

35号溝(第40図、P L 18)

位置 76G-H-17。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN-90°。埋没土はA混土。規模は長さ2.60m幅106cm深さ30cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間A軽石降下以降である。

36号溝(第40図、P L 18)

位置 76E-F-16。平面形態は、ほぼ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-31°-E。埋没土はB混土。規模は長さ2.35m幅47cm深さ18cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石降下以降である。

37号溝(第41図、P L 18)

位置 76E-15。平面形態は、ほぼ直線状だが、輪郭は乱れる。北壁寄りは更に浅く円形に凹む。断面は皿状。走向方位はN-29°-E。埋没土はB混土。

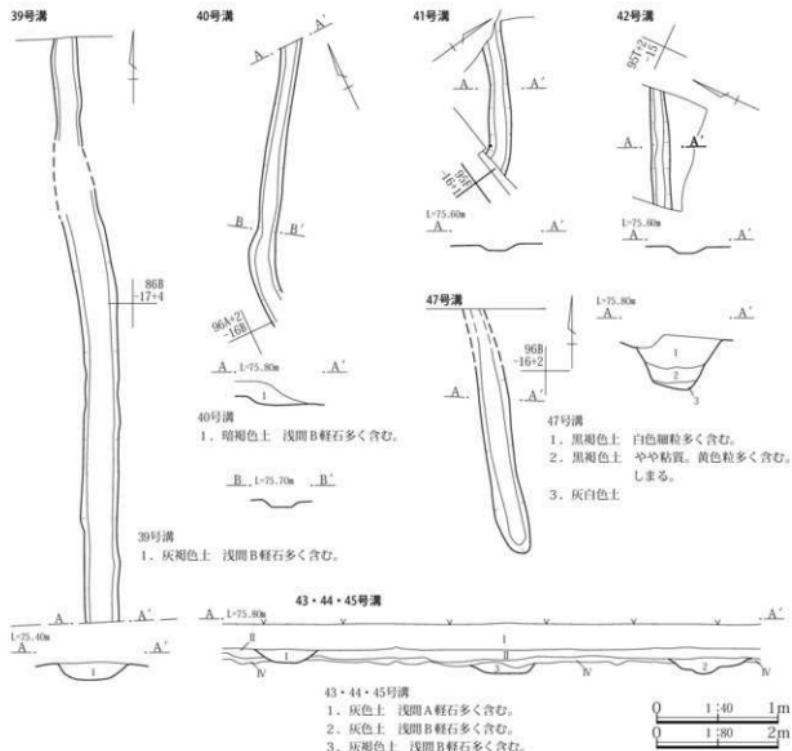
規模は長さ2.4m幅140cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石降下以降である。

38号溝(第41~43図、P L 18・19・24)

位置 86A-B-14-20。39号溝、44号土坑より後出。平面形態は、への字形で、中央部が不整形に広がる。断面は皿状。走向方位はN-81°-W。底面に木杭が残る部分が認められた。埋没土はA混土。規模は長さ33.00m幅221cm深さ20cmである。出土遺物は近世の生活遺物が多く、掲載遺物のほか、磁器碗片5点、施釉陶器：碗片5点、鉢類片1点、香炉片1点、急須・利德など3点、在地土器：培培片1点、鉢類片2点が出土した。東方延長線上に19号溝があり同一の溝と思われる。時期は出土遺物から江戸時代中期頃に比定される。

39号溝(第44図、P L 19)

位置 85T-86B-17-18。38号溝より前出。平面形態は、ほぼ直線状。断面は逆台形。走向方位はN-4°-W。埋没土はB混土。規模は長さ9.64m幅67cm深さ13cmである。遺物は古代の土師器片が出土



第44図 39~45・47号溝

したが混入である。南方延長線上に1・2号溝があり同一の溝と思われる。時期は浅間B軽石降下以降である。

40号溝(第44図)

位置 96A・B-16。29号溝より後出であるが、合流して消滅するため、矛盾を生じている。平面形態は、しの字状。断面は皿状。走向方位はN-34°-E～N-0°^o。埋没土はA混土。規模は長さ4.56m幅45cm深さ6cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間A軽石隕下以降である。

41号溝(第44図)

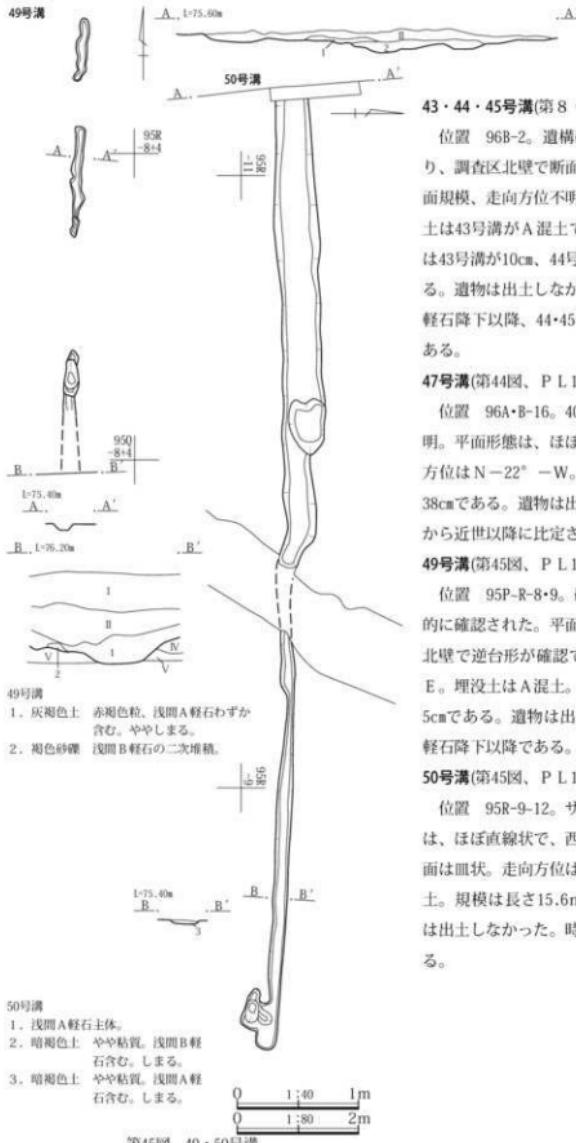
位置 95T-16。28・29号溝より後出であるが、西

側部分は確認できていない。平面形態は、ほぼ直線状。断面は皿状。走向方位はN-56°-W。埋没土はB混土。規模は長さ2.56m幅40cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石下降以降である。

42号灌(第44|)

位置 95T-15. 24・25号溝と重複するが新旧関係不明。平面形態は、ほぼ直線状。断面は皿状。走向方位はN-62°-E。埋没土はB混土。規模は長さ1.88m幅32cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。時期は後戦B軽石下以降である。

II 調査の記録



43・44・45号溝(第8・44図、P L 19)

位置 96B-2。遺構確認面よりも上層の遺構であり、調査区北壁で断面のみ確認された。平面形、平面規模、走向方位不明。断面はすべてU字形。埋没土は43号溝がA混土で、44・45号溝がB混土。深さは43号溝が10cm、44号溝が9cm、45号溝が12cmである。遺物は出土しなかった。時期は43号溝が浅間A軽石降下以降、44・45号溝が浅間B軽石降下以降である。

47号溝(第44図、P L 19)

位置 96A-B-16。40号溝と重複するが新旧関係不明。平面形態は、ほぼ直線状。断面はU字形。走向方位はN-22°-W。規模は長さ4.1m幅53cm深さ38cmである。遺物は出土しなかった。時期は埋没土から近世以降に比定される。

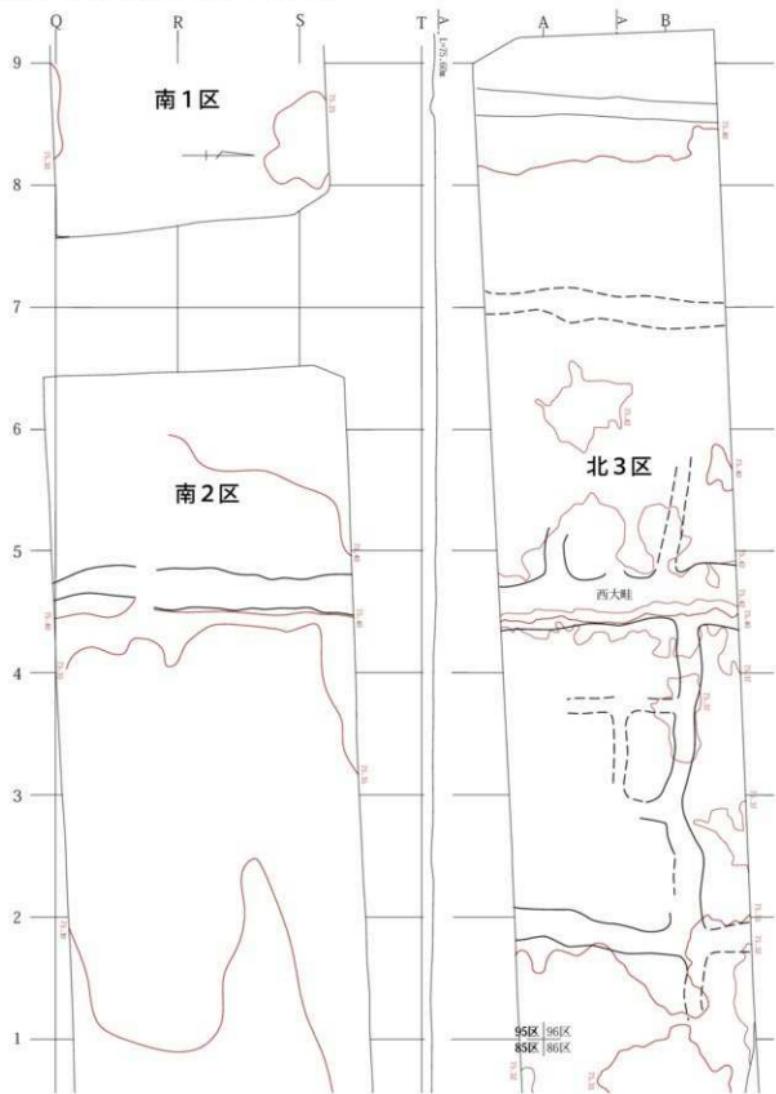
49号溝(第45図、P L 19)

位置 95P-R-8-9。確認面が下がっており、断続的に確認された。平面形態は、ほぼ直線状。断面は北壁で逆台形が確認できる。走向方位はN-2°-E。埋没土はA混土。規模は長さ7.48m幅24cm深さ5cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間A軽石降下以降である。

50号溝(第45図、P L 19)

位置 95R-9-12。サク状遺構より前出。平面形態は、ほぼ直線状で、西半分の輪郭はやや乱れる。断面は皿状。走向方位はN-85°-W。埋没土はB混土。規模は長さ15.6m幅75cm深さ3cmである。遺物は出土しなかった。時期は浅間B軽石降下以降である。

(7) A s-B 下水田跡(第46~48図、PL 20・21)



第46図 As-B 下水田跡(1)

II 調査の記録

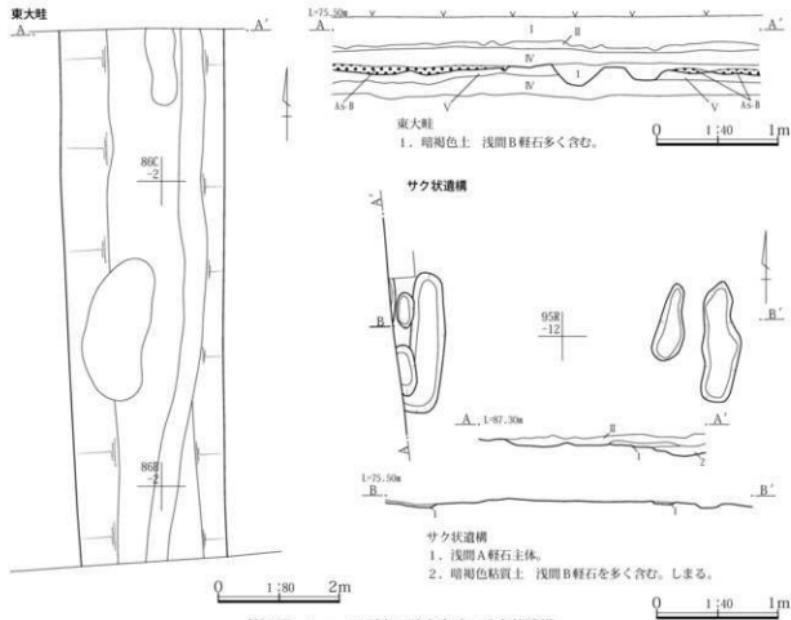


第47図 A s-B 下水田跡(2)

75・76区と85・86区が接する南北軸を境として西方へ、95・96区10ラインくらいまでを遺構範囲とする。水田面は降下したA s-Bに被災し放棄された状態を基本とするが、A s-Bの純堆積層は少なく、流水などによる二次堆積層や後事の土壤攪乱によって生じたB混土層の下面であることが多い。したがって、遺構面の遺存状態も悪く、明確な畦は検出

できていない。そうした中、上面の削平が著しいが、東限近くで東大畦が確認された。また、西側でもわずかな痕跡を手がかりに畦を想定し、95・96区4～5ラインの中間で南北軸の大畦を想定し西大畦とした（詳細図省略）。東大畦の規模は、長さ8.84m、上幅2.7m、下幅1.4mで、高さ4cmである。走向方位はN-3°-W。東大畦と西大畦の間隔は芯々距

2 造構と遺物 (8)サク状造構 (9)遺物集中造構



離で約113m、下端間で約110mを測る。およそ1町：約109mに該当することから、条理水田に基づくことも想定される。

なお、北4区で行った植物珪酸体分析の結果、イネの植物珪酸体(起動細胞由来)が稲作の判断基準となる試料1g当たり5,000個以上の密度を超えて、V層から約6,700～5,000個/g検出された。このため、稲作が自然科学的にも裏付けられたこととなる。また、16号溝付近(分析試料1地点)で採取された試料のV層では、イネの植物珪酸体が約2,100個/gと少なかった。これは東大畦以東が微高化し、古代の集落域となる点と一致している。

また、同一面で半月形を呈する農具痕が検出され、中世段階という調査段階の所見があるが、特徴を示す詳細な平面図や写真記録がないため、紹介に止める。

(8)サク状造構(第48図、P L 21)

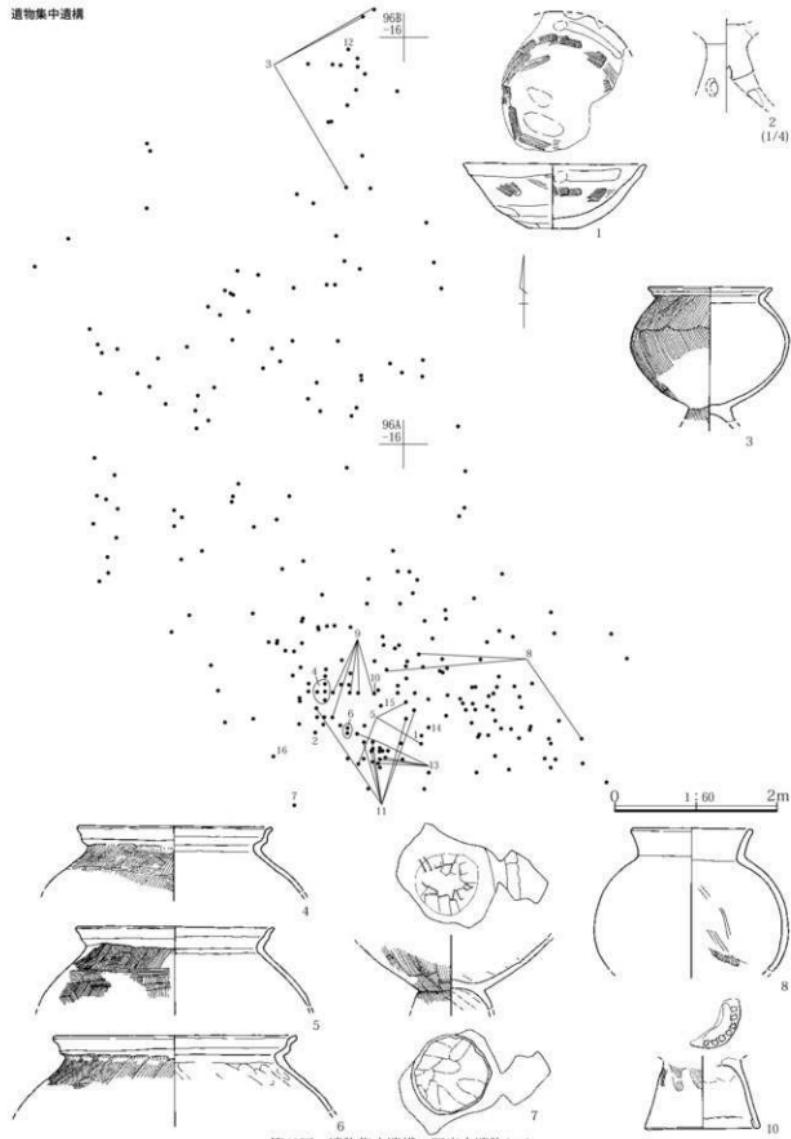
位置950-R-11-12。溝状に4条確認。走向方向は、真北に対して東に振れるが一定でない。規模は長さ65～115cm幅24～32cm深さ2～4cmである。断面は皿状。埋没土は浅間A軽石の純層に近い。天地返しなどを行った痕跡か、灰焼き溝と推測される。

(9)遺物集中造構(第49・50図、P L 21・25)

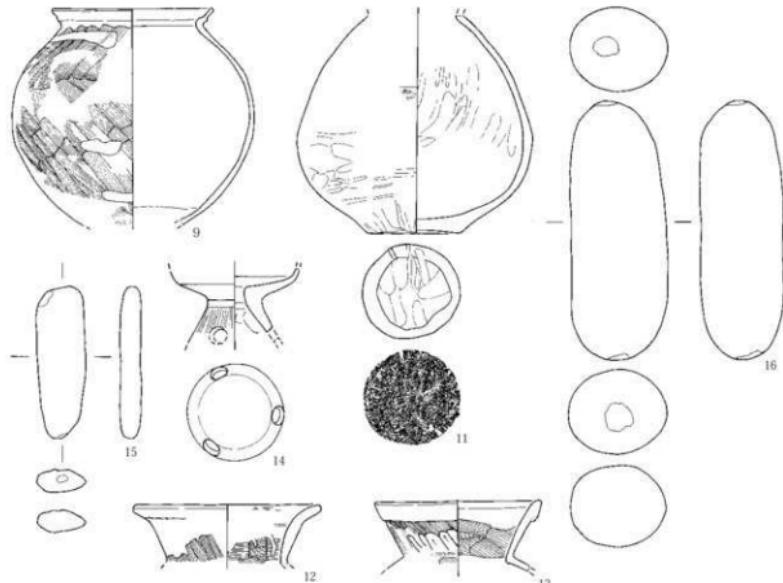
位置95T～96B-15-16。北2区西端部分にある。V層以下を平面的に掘削した結果、遺物の集中を確認したものである。出土遺物は古墳時代でまとまっており、調査当初は住居跡の可能性も模索されたが、確証はえられなかった。ただし、状況から見て、何らかの造構であると思われ、ここでは遺物集中造構として扱う。なお、振り込みなどの造構は見つかっておらず、遺物の分布だけを図示した。時期は出土遺物から4世紀前半に比定される。

II 調査の記録

遺物集中遺構



第49図 遺物集中遺構、同出土遺物(1)



第50図 遺物集中遺構出土遺物(2)

(10) 遺構外遺物(第51~53図、P L 25・26)

縄文時代の遺物は、微高地に当たる北2区西端で特に集中して出土している。土器は、縄文時代前期後半の諸磯b式、諸磯c式期のまとまりである。

石器は、打製石斧5・石鎌1・加工痕ある剥片1・凹石2・剥片14点が出土した。区ごとの出土量は、南3区6・北2区11・北3区3・北4区3点で、北2区の出土が多い。

古墳時代遺物も比較的大きな破片が遺構外から出土している。別項の遺物集中遺構からも、周辺に当該期の集落が広がることを示唆している。

平安時代遺物は、1~3号住居跡の時期に一致するものであり、こうした遺構からの供給遺物が多いと思われる。また、特に古代瓦(遺構外43)は注目される遺物である。

中世遺物では中国産の青磁碗が注目される。

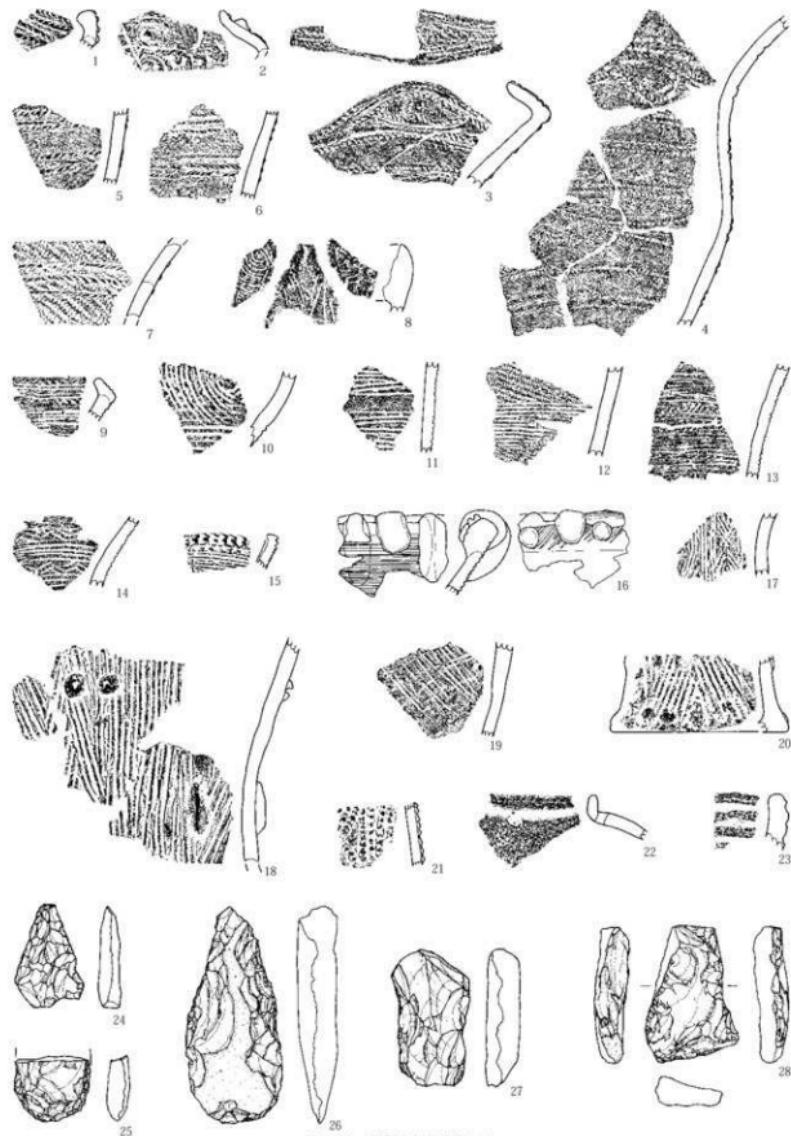
(11)まとめ

縄文時代では、前期後半の土器群が北2区西端に集中して出土したが、散漫な状態であり遺構は見つかっていない。

石器石材は、剥片系石器に黒色頁岩を多用し、環石器類には粗粒輝石安山岩を用いており、利根川中流域に所在する縄文期遺跡の石材構成と同様である。器種レベルで石器製作を見ると、遺跡内で製作したと見られる打製石斧がある一方、これに伴う不要剥片類は出土資料の中には見当らず、複数の母岩から得られた比較的形状の整う大型剥片類が主体を占めている。出土資料の単位の把握が困難であり、詳細については不明とせざるを得ない。

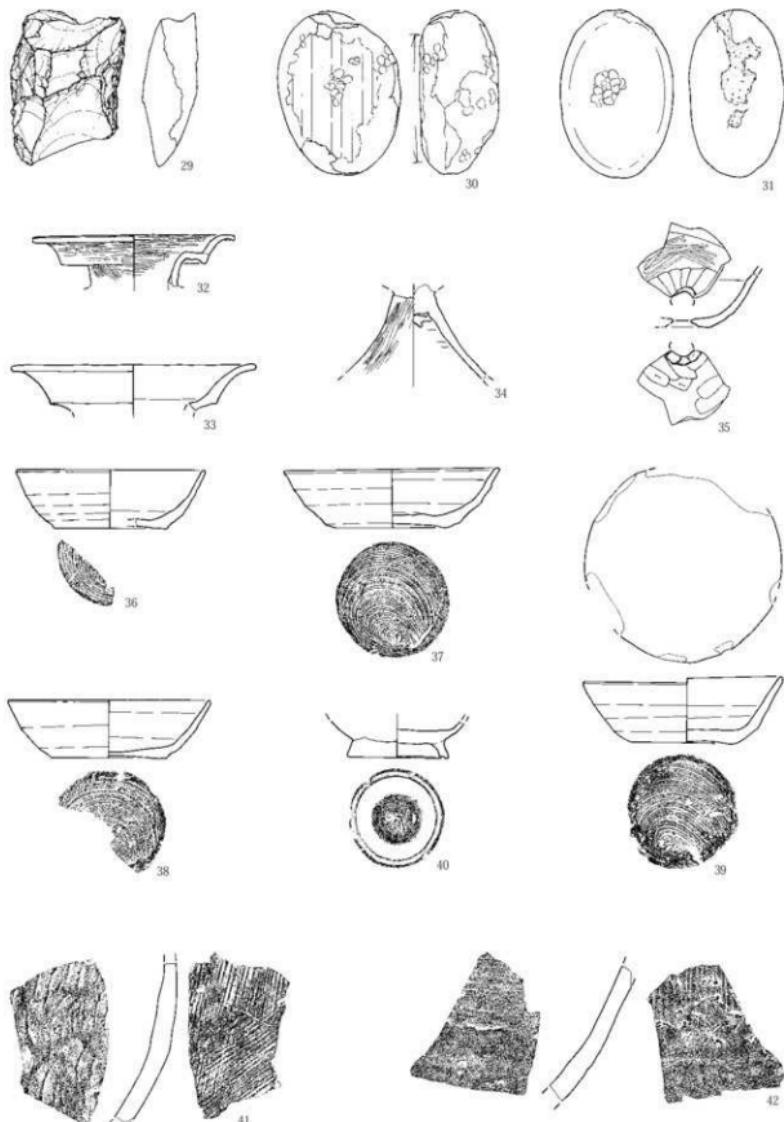
古墳時代住居としては、北4区に下斎田遺跡1号住居跡があり、古墳時代初頭と報告されている(註1)。この住居跡の西に隣接して9・15号溝があり、同時期の遺物を伴っている。なお、南4区の1号井戸跡は、

II 調査の記録



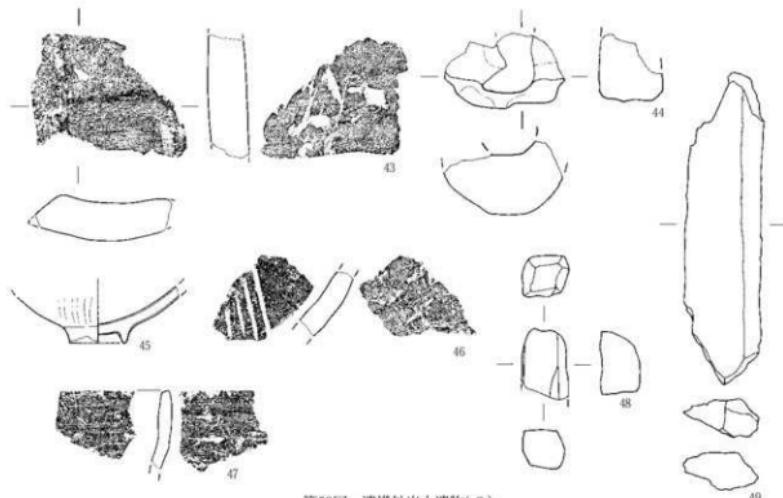
第51図 遺構外出土遺物(1)

2 遺構と遺物 (II)まとめ



第52図 遺構外出土遺物(2)

II 調査の記録



第53図 遺構外出土遺物(3)

4世紀後半であり、周辺に同時期の集落を推測させる。

奈良・平安時代の住居跡は北4区のみで発見され、3号住居跡(8世紀半ば)→1号住居跡(8世紀後半)→2号住居跡(9世紀前半)の年代順で推移している。また、2号井戸跡は10世紀後半と見られ、住居跡に続いている。集落域西限となる75・76区と85・86区が接する南北軸を境として、西方へ95・96区10ラインくらいまで、A s-B下水田跡が検出され、下層の堆積状況や植物珪酸体分析成果などから、集落に対応する水田耕作域であったと考えられる。北2区の西端では、9世紀前半の遺物を作ら28号溝があり、西側の微高地に広がる古代集落の存在を反映したものと言える。なお、西側延長に位置する下滝高井前遺跡では、古代の集落が見つかっている(註2)。

井野川を挟んだ対岸に所在する錦貫寺(第4図22:錦貫遺跡)では9世紀頃の瓦葺建物の基壇が確認されており、本遺跡出土の瓦片も同時期であり関連が想起される。

中世では、遺物を作ら遺構は見つかっていないが、

B混土を埋没土に持つ1・2号掘立柱建物跡をはじめ、3号井戸跡、27・29・34号土坑、24・31・32・41・42号溝などが、北2区西半に集中している。西側延長に位置する下滝高井前遺跡では、中世の屋敷遺構も見つかっていることから、関連がうかがえる。中世遺物では中国産の青磁碗(遺構外45)をはじめ、在地土器では34号溝の片口鉢(15世紀)やスリ鉢(遺構外46)などが確認された。

近世ではA混土を埋没土とする溝が、12条見つかった。なかでも、16・19・34・38号溝では、生活遺物がややまとまって出土している。調査前は水田が周辺に広がっていたが、江戸時代には屋敷地も存在していたことを想像させる結果である。また、南1区ではわずかながら、浅間A軽石を除去した可能性を持つサク状遺構も見つかった。

註1 「下齊田・滝川A遺跡滝川B・C遺跡」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1987

註2 「年報28」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009

3 自然科学分析

(I)はじめに

本遺跡では、検出水田跡の理解のため、植物珪酸体分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して実施した。

(2) 分析の目的

本遺跡北4区の75・76区と85・86区が接する南北軸を境として西方へ、95・96区10ラインくらいまでは、降下テラであるAs-B直下から水田跡が検出された。そこで、どのような状況で生産されていたかを知るため、植物珪酸体分析を実施した。

この分析では、対象がイネ科植物栽培に限られるが、最重要作物であるイネの動向を探ることができ、水田跡を検出できた遺構面以外においても、イネ栽培の可能性や、栽培状況などを考える指標とすることができる。また、ススキやネザサの分析値から、古植生・古環境の推定も応用でき、調査結果を加えた総合判断が可能となる。

(3) 植物珪酸体分析

ア 試料

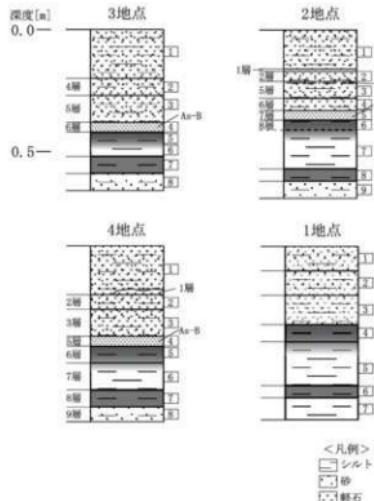
試料は、As-B下水田が検出された北4区北壁の任意の地点(1~4地点: 第9図)より採取された土壤32点(1地点: 試料番号1~7、2地点: 試料番号1~9、3地点: 試料番号1~8、4地点: 試料番号1~8)である。

試料採取地点は、東より1、4、2、3地点と設定されている。また、各地点の試料採取位置は、表土(水田耕作土)からAs-Cとみられる軽石が混じる黒灰色泥質土下位の灰色を呈する泥質土までの任意の基本土層が対象とされている。各地点で認められた堆積物は概ね類似しており、このうち、2地点で観察された堆積物は、最下位は褐灰~灰色を呈する砂混じりシルトであり、上部には灰色砂混じりシルトの偽礫が混じる黒色シルトが認められる。黒色シルト上位には淡暗灰~灰色シルトが不整合で堆積し、上方に向かって漸移的に暗色化し、最上部は黒灰~暗灰色を呈する。なお、これらの堆積物中には径約1~3mmの軽石が混じる状況も観察される。黒灰~暗灰色シルト上位には、As-Bが堆積する。As-B上位は、

褐色を呈する泥混じりの砂質土(以下、As-B混土)からなり、As-Bの混入および糸根状~管状酸化鉄の発達の程度に違いが観察される。褐色を呈する泥混じりの砂質土上位には、レンズ状に堆積するAs-Aが観察され、その上位にはAs-A混じり灰色泥混じり砂質土(以下、As-A混土)、および表土が堆積する。各地点の模式柱状図を第54図に示す。

イ 分析方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体)を、近藤(2004)の分類に基づいて同定・計数する。



第54図 各地点の模式柱状図

II 調査の記録

分析の際には、分析試料の乾燥重量、ブレバラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたブレバラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表を示す。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位の変化を図示する。各分類群の含量は100単位として表示し、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に100単位として表示する。

(ウ) 結果

結果を表、図2に示す。各試料からはイネ科起源の植物珪酸体が検出されるが、いずれも保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各地点の産状を述べる。

(ア) 1 地点

植物珪酸体含量は、約13万～3.1万個/gの間で推移する。本地点では、As-B下位の堆積物に相当する黒灰～暗灰色シルト(試料番号4)および下位の堆積物とAs-B混土から表土試料で差異が認められる。試料番号4は約13万個/gであり、試料番号4より下位試料では、試料番号5が約3.1万個/g、試料番号6,7が約13.1万～11.1万個/g、試料番号4より上位試料(試料番号3～1)は約9.8～7.5万個/gである。

本地点では、チゴササ属、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属およびススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、シバ属等のほか、栽培植物のイネ属および栽培種を含むヒエ属、キビ属、オオムギ族等が検出される。各分類群の層位の変化は、ネザサ節を含むタケ亜科は、試料番号4で含量が高い。ヨシ属は、上記した下位試料(試料番号7,6)で高く、試料番号5および上位試料では下位試料に対して低い値を示す。ススキ属などを含むウシクサ族も、ヨシ属と同様の層位の変化が認められ、下位試料で高い値を示す傾向にある。

栽培植物および栽培種を含む分類群では、イネ属は葉部に形成される短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体、穀殼に形成される珪酸体が検出され、上位

試料(試料番号1～3)で高い値を示す。その含量は、短細胞珪酸体が約5,000～2,000個/g、機動細胞珪酸体が約14,400～8,900個/g、類似珪酸体は試料番号2,3からのみ検出され約500～300個/gである。また、試料番号1,3からヒエ属、試料番号1,2からキビ属およびオオムギ族が検出される。

(イ) 2 地点

植物珪酸体含量は、As-B(試料番号5)を境として層位的な変化が認められる。試料番号5は約2,100個/gであり、これより下位試料(試料番号6～9)では約35.1～10.2万個/g、上位試料(試料番号1～4)は約5.3万～2,4万個/gである。

本地点で検出された分類群は1地点と同様であり、チゴササ属、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属およびススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、シバ属などのほか、栽培植物のイネ属、栽培種を含むヒエ属、キビ属、オオムギ族等が検出される。各分類群の層位的な変化は、1地点と比較して明瞭である。ネザサ節を含むタケ亜科は、As-B(試料番号5)より下位試料(試料番号6～9)で含量がやや高い。ヨシ属およびススキ属を含むウシクサ族も同様に下位試料で高い値を示す傾向にあり、とくに、試料番号8,9は極めて高く、上方に向かつて漸減するという特徴も取扱われる。

栽培植物のイネ属は、試料番号8および上位の各試料で連続的に検出される。下位試料(試料番号8～6)からは短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約4,000～1,100個/gであり、試料番号6で最も高い。機動細胞珪酸体は約7,600～2,200個/gであり、試料番号6,7で高い値を示す。上位試料(試料番号1～4)では、短細胞珪酸体は約7,700～1,600個/g、機動細胞珪酸体は約9,100～900個/gであり、ともに試料番号1,2で高い値を示す。その他に、試料番号6からヒエ属、試料番号6,3からキビ属、試料番号2,1からオオムギ族が検出される。

(ウ) 3 地点

植物珪酸体含量は、2地点と同様にAs-B(試料番号

植物細胞体含量(I)

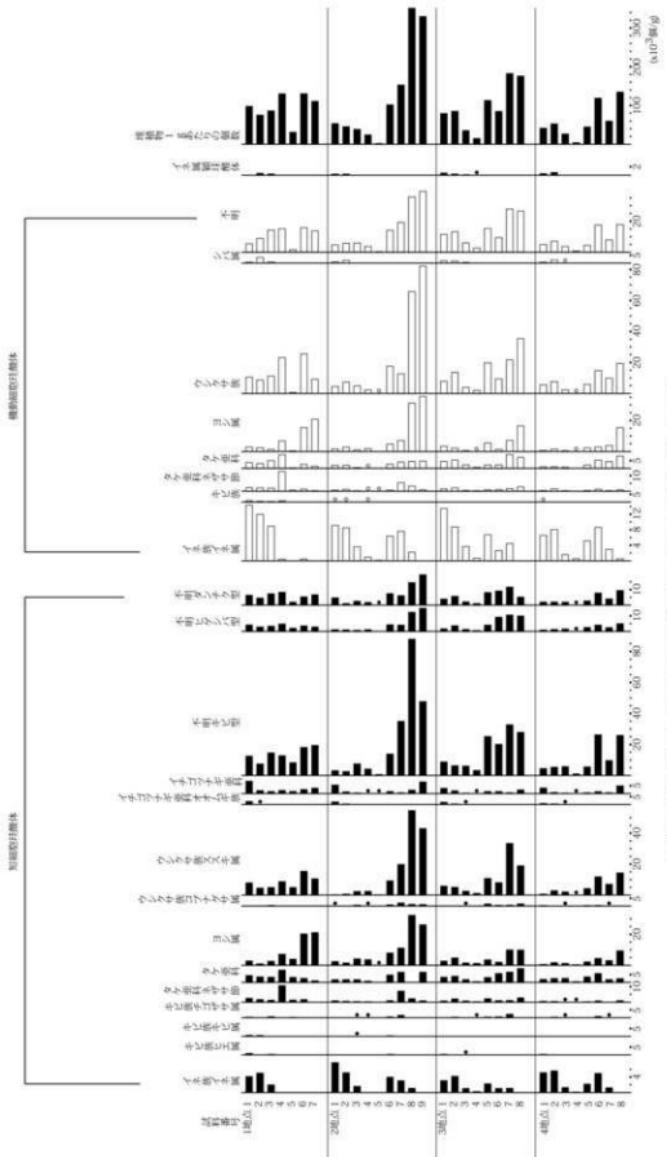
分類群	1地点						
	1	2	3	4	5	6	7
イネ科葉部細胞体							
イネ族イネ属	4,100	5,000	2,000	-	-	-	-
キビ族ヒエ属	1,000	-	300	-	-	-	-
キビ族ヒビ属	600	500	-	-	-	-	-
キビ族チゴササ属	300	0	700	-	300	-	-
タケモチニガサ属	2,600	1,700	1,300	10,800	1,400	1,300	-
タケモ科	4,500	3,600	3,300	8,000	3,300	2,600	1,100
ヨシ属	2,900	1,000	2,700	7,200	3,900	20,200	21,100
ウシクサ族コブナガサ属	-	-	300	-	-	-	-
ウシクサ族ススキ属	8,000	4,600	5,000	8,800	4,900	15,400	10,600
イチゴナガサ属オムギ族	1,900	200	-	-	-	-	-
イチゴナガサ属	8,000	1,900	1,300	2,000	1,600	2,600	3,300
不明ヒビ型	12,400	7,400	14,600	12,700	8,200	18,000	19,400
不明ヒシノハ型	4,100	2,900	3,300	4,800	2,000	3,500	2,800
不明ダンシチク型	6,400	4,600	7,200	8,400	1,900	5,300	6,700
イネ科茎身穀物細胞体							
イネ族イネ属	14,400	12,000	8,900	400	-	400	-
キビ族	1,000	500	300	800	-	-	-
タケモ科ネガサ属	2,200	2,200	2,000	12,700	800	1,300	400
タケモ科	3,800	3,100	5,000	8,800	300	2,600	1,400
ヨシ属	2,900	2,400	1,300	6,800	400	15,400	20,800
ウシクサ族	10,500	8,600	11,300	23,100	600	25,500	9,300
シバ属	600	3,600	700	-	-	-	-
不明	5,400	8,900	14,200	15,100	1,600	15,800	13,700
珪化組織片							
イネ属細胞体	-	500	300	-	-	-	-
合計							
イネ科葉部細胞体	56,800	33,300	42,100	62,600	27,400	69,500	65,100
イネ科茎身穀物細胞体	40,800	41,200	41,700	67,700	3,700	61,200	45,400
珪化組織片	0	500	300	0	0	0	0
总计	97,600	75,000	86,100	130,300	31,100	130,700	110,600

植物細胞体含量(II)

分類群	2地点								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イネ科葉部細胞体									
イネ族イネ属	7,700	5,100	1,600	-	-	4,000	3,000	1,100	-
キビ族ヒエ属	-	-	-	-	-	300	-	-	-
キビ族ヒビ属	-	-	100	-	-	300	-	-	-
キビ族チゴササ属	-	-	100	200	-	500	1,500	-	-
タケモチニガサ属	900	600	800	300	-	1,100	7,100	2,200	900
タケモ科	1,700	1,800	1,700	800	-	4,800	6,600	-	6,500
ヨシ属	2,500	1,600	4,200	3,700	100	8,000	11,100	32,300	26,100
ウシクサ族コブナガサ属	200	-	500	200	-	800	2,000	1,100	900
ウシクサ族スキ属	300	700	2,400	2,400	300	9,300	19,700	54,600	42,900
イチゴナガサ属オムギ族	1,600	300	-	-	-	-	-	-	-
イチゴナガサ属	5,500	1,100	400	200	<100	1,300	500	2,200	7,300
不明ヒシ型	3,200	2,500	7,500	4,200	600	13,800	34,900	88,000	47,600
不明ヒシノハ型	1,100	1,000	700	1,100	-	4,200	4,000	12,300	14,900
不明ダンシチク型	4,700	1,000	2,500	1,700	200	7,400	6,100	14,500	19,600
イネ科茎身穀物細胞体									
イネ族イネ属	9,100	8,500	3,600	900	100	6,400	7,500	2,200	-
キビ族	200	100	<100	-	-	-	-	-	-
タケモ科ネガサ属	800	1,100	300	100	100	800	5,600	3,300	900
タケモ科	1,900	2,000	500	200	-	2,700	4,000	4,500	4,700
ヨシ属	1,600	2,800	1,100	1,800	-	4,800	7,100	31,200	35,500
ウシクサ族	4,400	7,400	4,800	2,300	200	17,300	12,700	65,700	82,100
シバ属	800	1,700	-	-	-	-	-	-	-
不明	4,700	5,800	5,900	3,700	300	14,100	19,200	35,600	39,200
珪化組織片									
イネ属細胞体	300	300	-	-	-	-	-	-	-
合計									
イネ科葉部細胞体	29,300	15,700	22,200	14,900	1,300	55,800	96,700	208,300	167,100
イネ科茎身穀物細胞体	23,300	29,500	16,200	9,100	800	46,200	56,200	142,600	162,400
珪化組織片	300	300	0	0	0	0	0	0	0
总计	53,300	45,400	38,400	24,000	2,100	101,900	152,900	350,800	329,500

II 調査の記録

植物細胞含有量(3)								
分類群	380±							
	1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科葉部細胞柱細胞								
イネ族イネ属	3,100	4,200	1,000	300	2,200	1,000	1,100	-
キビ族ヒエ属	300	-	100	-	-	-	-	-
キビ族キビ属	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族チゴササ属	-	300	-	300	300	500	2,200	-
タケ草科ネササ節	800	2,100	800	300	2,200	1,000	1,100	2,800
タケ草科	3,400	3,900	1,800	500	3,100	3,700	6,700	9,000
ヨシ属	2,800	4,800	1,600	1,300	3,600	2,100	10,000	9,900
ウンクサ族イネグサ属	-	-	100	-	1,300	500	600	1,400
ウンクサ族ススキ属	5,900	5,100	2,600	1,200	10,800	8,100	33,300	18,900
イネゴツナギ亜科オムナ属	1,400	300	100	-	-	-	-	-
イネゴツナギ亜科	3,400	1,800	300	300	1,300	1,300	600	2,400
不明ヨツナギ型	8,700	6,300	6,000	3,300	25,200	20,100	32,800	27,900
不明ヒゲンヒ型	1,700	3,600	1,300	500	4,000	9,100	10,600	9,900
不明ダンクチ型	3,900	5,700	2,100	1,000	8,100	9,100	11,700	5,200
イネ科葉部細胞柱細胞								
イネ族イネ属	13,500	8,700	3,600	700	6,700	2,600	4,400	-
キビ族	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ草科ネササ節	1,400	2,100	500	300	900	1,000	1,700	2,800
タケ草科	4,500	5,400	2,300	700	2,200	2,300	8,900	7,100
ヨシ属	3,400	2,100	700	200	5,400	1,300	7,200	16,500
ウンクサ族	7,900	13,500	3,900	1,900	19,800	9,400	21,700	35,400
シリカ属	1,400	1,200	400	-	-	-	-	-
不明	11,500	13,200	6,000	2,700	15,300	9,400	27,300	26,500
珪化組織片								
イネ属細胞柱細胞	600	300	100	300	-	-	-	-
合計								
イネ科葉部細胞柱細胞	35,400	38,200	17,300	8,500	62,500	58,600	110,600	87,400
イネ科葉部細胞柱細胞	43,500	46,300	17,400	6,500	50,400	26,000	71,700	88,400
珪化組織片	600	300	100	100	0	0	0	0
総計	79,500	84,800	35,400	15,100	112,800	84,700	182,300	175,800
植物細胞含有量(4)								
分類群	480±							
	1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科葉部細胞柱細胞								
イネ族イネ属	5,100	5,600	1,300	200	2,200	4,900	1,200	-
キビ族ヒエ属	300	-	-	-	-	-	-	-
キビ族キビ属	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族チゴササ属	-	300	100	-	-	800	200	-
タケ草科ネササ節	600	500	200	300	300	800	-	1,000
タケ草科	2,000	2,600	2,600	500	3,500	5,700	1,900	2,500
ヨシ属	600	1,800	1,300	400	2,300	4,500	3,100	9,400
ウンクサ族イネグサ属	300	-	100	-	300	400	200	-
ウンクサ族ススキ属	700	2,900	2,100	300	4,300	11,900	7,100	14,400
イネゴツナギ亜科オムナ属	600	300	100	-	-	-	-	-
イネゴツナギ亜科	3,600	700	300	300	500	1,200	500	5,000
不明ヨツナギ型	4,400	5,300	5,800	1,100	5,500	26,300	9,700	25,800
不明ヒゲンヒ型	900	1,200	1,600	300	2,600	4,100	2,400	5,000
不明ダンクチ型	2,000	2,000	2,000	300	2,700	7,800	4,000	9,400
イネ科葉部細胞柱細胞								
イネ族イネ属	6,600	8,000	1,600	500	5,100	8,600	2,900	500
キビ族	100	-	-	-	-	-	-	-
タケ草科ネササ節	400	1,300	300	-	400	1,200	300	1,000
タケ草科	1,000	1,100	800	-	2,200	5,300	4,300	7,900
ヨシ属	700	1,500	500	300	2,300	2,900	3,800	15,400
ウンクサ族	5,600	7,300	2,200	300	5,300	14,800	9,800	19,300
シリカ属	600	1,000	100	-	-	-	-	-
不明	5,900	7,100	3,700	800	4,500	17,600	7,900	17,900
珪化組織片								
イネ属細胞柱細胞	400	700	-	-	-	-	-	-
合計								
イネ科葉部細胞柱細胞	21,000	23,200	17,500	2,500	24,200	68,500	30,200	72,400
イネ科葉部細胞柱細胞	25,000	28,600	9,300	1,500	20,200	50,500	29,200	62,000
珪化組織片	400	700	0	0	0	0	0	0
総計	41,400	52,500	26,700	4,000	44,400	119,000	59,400	134,400



第554図 各地点の植物部位体合量の季節的変化

第555図 各地点の植物部位体合量の季節的変化

II 調査の記録

4)を境として層位的な変化が認められ、その傾向も2地点と類似する。試料番号4は約1,5万個/gであり、これより下位試料(試料番号5～8)は約18.2～8.5万個/g、上位試料(試料番号1～3)は約8.5～3.5万個/gである。

本地点で検出された分類群は、1,2地点と概ね同様であり、チゴザサ属、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属およびススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、シバ属等のほか、栽培植物のイネ属、栽培種を含むヒエ属、オオムギ族等が認められる。各分類群の層位的变化は2地点と概ね類似し、ネザサ節を含むタケ亜科やヨシ属、ススキ属などは上位試料と比較して下位試料で高い値を示す。また、栽培植物のイネ属も同様の変化を示す。下位試料(試料番号5～8)では、短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約2,200～1,000個/gであり試料番号5で最も高い。機動細胞珪酸体は約6,700～2,600個/gであり、試料番号5,7で高い値を示す。上位試料(試料番号1～3)では、葉部に由来する植物珪酸体とともに穎珪酸体も検出される。短細胞珪酸体は約4,200～1,000個/g、機動細胞珪酸体は約13,500～3,600個/gであり、ともに試料番号1,2で高い。その他に、試料番号3からヒエ属、試料番号1～3からオオムギ族が検出される。

(エ) 4地点

植物珪酸体含量は、2,3地点と比較すると低いが、層位的な変化は2,3地点と同様にAs-B(試料番号4)を境に変化が認められる。試料番号4は約4,000個/gであり、これより下位試料(試料番号5～8)は約13.4万～4.4万個/g、上位試料(試料番号1～3)は約5.3万～2.7万個/gである。

本地点で検出された分類群は、3地点と同様でありチゴザサ属、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属およびススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、シバ属等のほか、栽培植物のイネ属、栽培種を含むヒエ属、オオムギ族等が認められる。

各分類群の層位的变化は、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族は、いずれも下位試料で高い値を示す試料が多い。また、栽培植物のイネ属も2,3地点と概ね同様の層位的变化を示す。下位試料(試料番号5～8)では、短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体が約4,900～1,200個/g、機動細胞珪酸体が約8,600～500個/gであり、いずれも試料番号6で最も高い。上位試料(試料番号1～3)では、葉部に由来する植物珪酸体とともに穎珪酸体も検出される。短細胞珪酸体は約5,600～1,300個/g、機動細胞珪酸体は約8,000～1,600個/gであり、試料番号1,2で高い値を示す。その他に、試料番号1からヒエ属、試料番号1～3からオオムギ族が検出される。

エ 考察

(ア) 土地利用

4区北壁(1～4地点)における植物珪酸体分析の結果、各地点より栽培植物のイネ属の葉部や穂殼に形成される植物珪酸体が検出された。その含量の層位的变化は、1地点と2～4地点で異なり、1地点ではAs-B混土より下位試料ではイネ属の含量は低い、あるいは検出されなかったが、As-B混土から表土(水田耕作土)試料では上位に向かって増加するという傾向を示した。2～4地点は、As-Bを境として、下位試料および上位試料において、イネ属の植物珪酸体含量が上方に向かって増加するという傾向が認められた。詳細にみると、下位試料では、As-B下水田試料で最も植物珪酸体含量が高い地点(3地点)や、As-B下水田試料下位の暗灰色～灰色シルトで高い値を示す地点(2,4地点)など相違があるが、これらの地点ではその下位の黒色シルトにおいてもイネ属が検出されるという共通点も指摘される。また、上位試料の層位的变化は、1地点と同様に上方に向かって増加する傾向を示した。

各土層におけるイネ属の機動植物珪酸体含量は、黒～黒灰色シルト(2地点；試料番号8、3地点；試料番号7、4地点；試料番号7)が約4,000～2,200個/g、上位の暗灰～灰色シルト(2地点；試料番号7、3地点；試

料番号6、4地点;試料番号6)が約8,600~2,600個/g、As-B下水田に相当する暗灰色シルト(2地点;試料番号6,3地点;試料番号5,4地点;試料番号5)が約6,700~5,100個/gであった。As-B堆積層より上位の試料では、As-B混土(1地点;試料番号2,3、2地点;試料番号3,4、3地点;試料番号2,3、4地点;試料番号2,3)は約12,000~900個/gであったが、As-B混土上部では約12,000~3,600個/gと含量が高い。さらに、As-A混土に相当する2地点;試料番号2は約8,500個/g、表土試料(1~4地点;試料番号1)では約14,400~6,600個/gといずれも高い値を示した。

このうち、今回分析対象とした表土試料は、現在の水田耕作土の作土に相当することから、稻作を判断する指標となる。また、水田跡(稻作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(機動細胞由来)が試料1g当たり5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稻作が行われた可能性が高いと判断されている(杉山, 2000)。

これらの分析結果や事例を参考とすると、本遺跡のAs-A混土やAs-B混土の各土層で稻作が行われていたと推定される。また、As-B下水田に相当する土層においても、2~4地点における植物珪酸体含量はいずれも5,000個/g以上であったことから、検出された水田では稻作が行われていたと考えられる。1地点のAs-B下水田に相当すると考えられる堆積物(試料番号4)では、イネ属の植物珪酸体含量が極めて低い。調査区内の微地形の変化をみると、1地点は低地から微高地への転換点付近に位置することから非耕作域であった可能性もあり、As-B下水田の検出状況などと合わせた検討が必要と考えられる。また、2~4地点の黒色シルトは、約4,000~2,200個/gであった。稻作の可能性が示唆される各土層と比べ含量は低いが、下位の褐灰~灰色砂混じりシルトと比較すると含量の増加が顕著である。このことから、当土層においても稻作が行われていた可能性がある。

また、イネを除く栽培植物では、ヒエ属やキビ属、オオムギ族などの栽培種を含む分類群が、As-B混土

~表土試料より検出された。ヒエ属やキビ属には、栽培種のヒエやキビのほか、野生種のタイヌビエやヌカキビなども含まれることから、栽培の特定には至らない。オオムギ族は、栽培種のオオムギやコムギが含まれ、表土試料でとくに含量が高くなる傾向が認められたことから、これらは現在の二毛作のムギ栽培に由来する可能性がある。

(イ)古植生

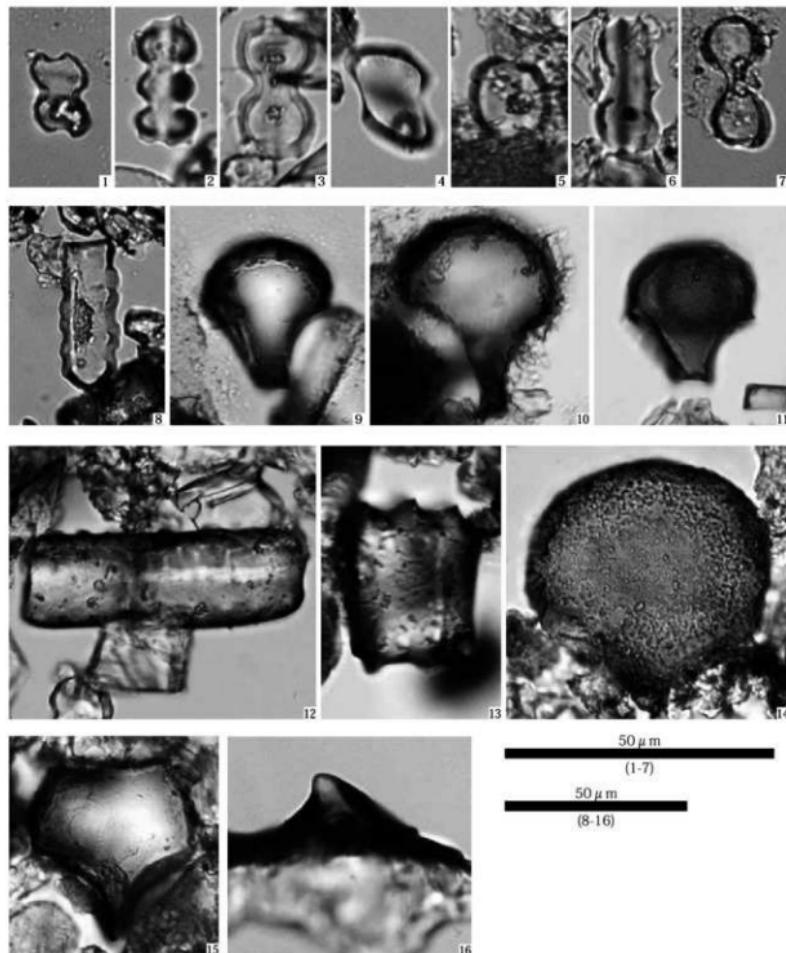
上記した栽培植物を除く分類群では、各地点よりチゴザサ属、タケ亜科(ネザサ節を含む)、ヨシ属、ウシクサ族(コブナクサ属、ススキ属を含む)、イチゴツナギ亜科、シバ属などが検出された。このうち、ヨシ属やススキ属を含むウシクサ族は、各地点の下位試料に相当する灰色砂混じりシルトや黒色シルトで含量が高く、上位に向かって減少するという変化を示した。また、As-B堆積層より上位では下位試料に比べ、いずれも相対的に低い値で推移する、極端な増減が認められないという特徴が指摘される。

したがって、As-B降灰以前の遺跡周辺は明るく開けた環境であったと推定され、湿润な環境を好みヨシ属やススキ属の一部(例えばオギなど)が生育する水湿地が分布したと考えられる。また、付近の比較的乾燥した環境には、ネザサ節などのタケ亜科やススキ属が生育したと考えられる。なお、水田の検出やイネ属の産状から稻作の可能性が示唆されることから、ヨシ属などには水田雑草として生育したものも含まれると考えられる。また、As-B降灰以降も同様のイネ科植物が周辺に生育したと考えられるが、ヨシ属やススキ属の減少が顕著であることから、水湿地の環境の減少、水田雑草として生育したイネ科植物の減少などの堆積環境や土地利用(水田管理)の変化も推定される。

引用文献

- 新井房夫, 1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層、考古学ジャーナル, 157, 41~52.
- 群馬県, 1990, 付図2群馬県内主要地域の地形分類図、群馬県史通史編「原始古代」, 902p.
- 近藤謙三, 2004, 植物ケイ酸体研究、ペドロジスト, 48, 46~64.
- 杉山真二, 2000, 植物珪酸体(ブランド・オバール)、辻誠一郎(編著)「考古学と自然科学3考古学と植物学」、同成社, 189~213.

II 調査の記録



1. イネ属短細胞珪酸体(2地点; 6)
3. キビ属短細胞珪酸体(1地点; 1)
5. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点; 7)
7. ススキ属短細胞珪酸体(1地点; 6)
9. イネ属機動細胞珪酸体(2地点; 6)
11. イネ属機動細胞珪酸体(4地点; 5)
13. ネザサ節短細胞珪酸体(1地点; 4)
15. ネザサ節機動細胞珪酸体(1地点; 2)
2. ヒ工属短細胞珪酸体(1地点; 1)
4. ネザサ節短細胞珪酸体(1地点; 4)
6. コブナグサ属短細胞珪酸体(2地点; 4)
8. オオムギ族短細胞珪酸体(1地点; 4)
10. イネ属機動細胞珪酸体(3地点; 5)
12. キビ族機動細胞珪酸体(1地点; 1)
14. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点; 7)
16. イネ属頭状珪酸体(2地点; 2)

遺物観察表

種別	特徴	製作技法等の特徴	備考
12881 1号住居 土師器 杯	①口～底 ②(10.9)③④②.6	①砂粒を含む ②橙③酸化	外底器表荒れ。
12882 1号住居 土師器 杯	①1/4 ②(12.2)③⑨.8④-	①砂粒を含む ②橙③酸化	内外面器表荒れ。
12883 1号住居 土師器 杯	①口～底 ②(13.6)③④-	①砂粒を含む ②明褐色③酸化	外底非回転ケズリ。
12884 1号住居 土師器 杯 P L22	①1/4 ②(13.8)③(12.0)④2.8	①細砂粒を含む ②橙③酸化	外底器表荒れ。
12885 1号住居 土師器 杯 P L22	①1/4 ②(15.7)③④-	①砂粒を含む ②橙③酸化	内外面器表荒れ。
12886 1号住居 土師器 杯	①底部片 ②(8.0)④-	①砂粒を含む ②橙③酸化	外底非回転ケズリ、器表荒れ。
12887 1号住居 土師器 杯 P L22	①3/4 ②(12.6)③④.3.0	①細砂粒を含む ②にぶい赤褐色③酸化	外底非回転ケズリ、内外面指痕あり。
12888 1号住居 土師器 床直杯 P L22	①1/4 ②(13.2)③④-	①砂粒を含む ②にぶい褐色③酸化	外底非回転ケズリ。
12889 1号住居 土師器 床直杯 P L22	①1/4 ②(12.6)③④-	①砂粒を含む ②橙③酸化	外底非回転ケズリ。
12890 1号住居 土師器 床直杯 P L22	①1/4 ②(11.2)③(7.4)④4.0	①白色粒子を含む ②灰③還元	外底右回転系切り。
12891 1号住居 土師器 床直杯 P L22	①1/4 ②(12.8)③(6.0)④3.6	①白色粒子を含む ②灰③還元	外底回転ケズりか。
12892 1号住居 土師器 豊	①口縁部片 ②③④-	①砂粒を含む ②にぶい橙③酸化	口唇部外面にクシ状工具による剝みあり。
12893 1号住居 土師器 豊	①口縁部片 ②(20.0)③④-	①細砂粒を含む ②橙③酸化	体部外面ケズリ。
12894 1号住居 土師器 豊 P L22	①口～胴上片 ②(23.6)③④-	①細砂粒を含む ②にぶい橙③酸化	体部外面ケズリ。
12895 1号住居 石製品 床直 P L22	①完形②15.75③7.95④3.5 こも珊瑚 3647.9g	①砂岩	側面に敲打痕。
12896 1号住居 石製品 上層 P L22	①完形②10.8③4.8 礁石 43.3/5263.2g	①泥灰岩	4面使用、端部は原面。一部欠損
12897 1号住居 石製品 上層 P L22 P 4	①完形②15.33③5.1 こも珊瑚 442.73/358.3g	①雲母石英片岩	端部に敲打痕。
12898 1号住居 石製品 上層 P L22	①完形②11.83③3.2 こも珊瑚 43.73/369.1g	①雲母石英片岩	
12899 1号住居 石製品 上層 P L22 P 3	①完形②13.43③5.6 こも珊瑚 43.73/369.1g	①雲母石英片岩	端部に敲打痕。
12900 1号住居 石製品 床直 P L22	①完形②13.33③4.9 こも珊瑚 42.6/299.5g	①雲母石英片岩	
12901 1号住居 石製品 床下土 P L22	①完形②15.73③6.4 こも珊瑚 43.9/5643.6g	①雲母石英片岩	
12902 1号住居 鉄製品 刀子か P L22	①～28.9③2.1④- 522.8g	茎の可能性あり、刃部断面に親さを欠く。	
16881 2号住居 土師器 杯	①1/4 ②(12.3)③④-	①細砂粒を含む ②にぶい褐色③酸化	内外面器表荒れ。
16882 2号住居 土師器 杯	①口～底 ②(12.8)③④-	①細砂粒を含む ②にぶい褐色③酸化	外底ケズリ。
16883 2号住居 土師器 杯 P L22	①体部片 ②③④-	①細砂粒を含む ②橙③酸化	内面ミガキあり。
16884 2号住居 土師器 杯 +6	①ほぼ完形 ②(12.0)③④3.4	①細砂粒を含む ②にぶい褐色③酸化	外底非回転ケズリ。
16885 2号住居 土師器 杯 P L22	①ほぼ完形 ②(12.0)③④-	①細砂粒を含む ②にぶい褐色③酸化	外底非回転ケズリ。
16886 2号住居 土師器 杯 +10	①3/4 ②(11.5)③④-	①細砂粒を含む ②橙③酸化	外底非回転ケズリ。
16887 2号住居 土師器 杯 P L22	①口縁部1/4欠 ②(12.5)③6.4④3.5 床直	①白色粒子を含む ②灰③還元	外底右回転系切り後回転ケズリ。
16888 2号住居 土師器 杯 P L22 +22	①底部1/2欠 ②(12.5)③6.2④4.2	①白色粒子を含む ②黄灰③還元	外底右回転系切り。

遺物観察表

検査番号	遺構名	種別	①残存②寸法③底径④器高 器種	⑤胎土⑥色調⑦焼成 ⑧残存⑨長さ⑩幅⑪厚さ⑫重さ	製作技法等の特徴	備考
16009 P L 22	2号住居 床直	須恵器 杯	①1/3 ②(11.6)③(6.0)④(3.4)	⑤細砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り、器表荒れ。	
16010 P L 22 +20	2号住居 床直	須恵器 杯	①1/2 ②(13.8)③(7.2)④(4.1)	⑤砂粒を含む ⑥灰⑦酸化	外底右回転糸切り後非回転ケズリ。	
16011 P L 22 +5	2号住居 床直	須恵器 杯	①1/3 ②(12.2)③(8.2)④(3.4)	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
16012 P L 22 +5	2号住居 床直	須恵器 杯	①1/2 ②(10.8)③(7.2)④(3.7)	⑤細砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り2回か。	
16013 P L 22 +6	2号住居 床直	須恵器 杯	①ほぼ完形 ②(12.4)③(5.6)④(3.5)	⑤細砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り後非回転ケズリ。	
16014 P L 23	2号住居 床直	須恵器 杯	①底部片 ②(6.4)③(4.4)	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
16015 P L 23	2号住居 床直	須恵器 杯	①底部3/4 ②(6.9)③(4.4)	⑤白色粒子を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り。	
17016 P L 23 +6	2号住居 床直	須恵器 杯	①底部1/2欠損 ②(3.7)⑨(4.4)	⑤細砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り。	体部打欠きか
17017 P L 23 +8	2号住居 床直	須恵器 杯	①口縁部1/3欠損 ②(12.2)③(6.0)④(4.0)	⑤砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	外底右回転糸切り。	
17018 P L 23 +7	2号住居 床直	須恵器 杯	①底部片 ②(12.8)③(6.8)④(5.0)	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
17019	2号住居	須恵器?	①底部片 ②(3)③(3.0)④(2)	⑤細砂粒を含む ⑥浅黄褐⑦酸化	底部凸。	
17020	2号住居 +8	須恵器 壺	①口縁部片 ②(15.2)③(4)-	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
17021 P L 23 +7	2号住居 壺	須恵器 壺	①3/4 ②(15.4)③(8.0)④(6.9)	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
17022 P L 23 +6	2号住居 床直	須恵器 壺	①底部1/2 ②(3)(8.7)④-	⑤細砂粒を含む ⑥黄灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
17023	2号住居 壺	須恵器 壺	①削下位~底部片 ②(5.6)③(4)-	⑤細砂粒を含む ⑥灰白⑦還元	高台外側が接地しない。	
17024	2号住居 壺蓋	須恵器 壺蓋	①端部片 ②(17.2)③(4)-	⑤細砂粒を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転糸切り。	
17025 P L 23	2号住居 壺	土師器 壺	①口縁部片 ②(17.8)③(4)-	⑤細砂粒を多く含む ⑥明赤褐⑦酸化	体部外面ケズリ。	
17026 P L 23	2号住居 壺	土師器 壺	①口縁部片 ②(19.8)③(4)-	⑤細砂粒を含む ⑥明赤褐⑦酸化	体部外面ケズリ。	
17027 P L 23	2号住居 壺	土師器 壺	①口縁部片 ②(18.0)③(4)-	⑤細砂粒を多く含む ⑥橙⑦酸化	体部外面ケズリ。	
17028 P L 23 カマド	2号住居 石製品 こも網石	①完形2/10.553/5.4 ④4.2×397.3g	①雲母石英片岩	端部に敲打痕。		
17029 P L 23 +14	2号住居 石製品 こも網石	①完形2/15.533/6.2 ④1.73×200.0g	①粗粒安山岩	端部に敲打痕、扁平。		
180030 P L 23	2号住居 床直	土師器 碗または鉢	①口縁部片 ②(3)③(4)-	⑤砂粒を含む ⑥明赤褐⑦酸化	体部外面ケズリ。	
180031 P L 23	2号住居 床直	須恵器 広口壺	①口縁部片 ②(29.8)③(4)-	⑤白色粒子を含む ⑥灰⑦還元	外底右回転ナデ。	
180032 P L 23	2号住居 床直	須恵器 壺	①胴部片 ②(3)③(4)-	⑤砂粒を含む ⑥にぶい黄褐⑦還元	外底平行タタキ目、内面同心円当て具痕。	
19001 P L 23 -18	3号住居 床直	土師器 杯	①ほぼ完形 ②(12.5)③(6.3)④(3.0)	⑤細砂粒を含む ⑥明褐⑦酸化	外底非回転ケズリ。	
19002 P L 23	3号住居 床直	土師器 杯	①1/2 ②(14.2)③(10.7)④(3.85)	⑤細砂粒を含む ⑥橙⑦酸化	外底非回転ケズリ、口縁部内湾気味。	
19003 P L 23	3号住居 床直	土師器 杯	①1/2 ②(12.9)③(3.4)	⑤砂粒を含む ⑥にぶい橙⑦酸化	外底非回転ケズリ。	
19004 P L 23	3号住居 床直	土師器 杯	①口縁部片1/3 ②(12.3)③(4)-	⑤砂粒を含む ⑥橙⑦酸化	外底非回転ケズリ。	
19005 P L 23	3号住居 大型杯	土師器 大型杯	①1/2 ②(19.8)③(4)7.7	⑤砂粒を含む ⑥にぶい橙⑦酸化	外底横方向ケズリ、内面丁寧なナデ。	
19006 P L 23	3号住居 大型杯	土師器 大型杯	①1/4 ②(20.0)③(4)-	⑤砂粒を含む ⑥橙⑦酸化	口縁部内湾気味。	二次火熱か

検査番号	遺構名	種別	①残存②L径③底径④器高 ⑤残存⑥長さ⑦幅⑧厚さ⑨重さ	①胎土②色調③焼成 ④⑤⑥⑦⑧⑨	製作技法等の特徴	備考
20807	3号住居 +6	須恵器 杯	①1/4 ②(10.7)③(6.0)④3.6	①白色粒子を含む ②灰③還元	外底右回転糸切り。	
20808	3号住居 床直	須恵器 杯	①口縁部片 ②(11.7)③-④-	①白色粒子を含む ②灰③還元	体部丸みあり。	
20809	3号住居 床直	須恵器	①口縁部1/2欠損 ②(13.9)③-④-3.2	①細砂粒を含む ②灰白③還元	天井部外面回転ケズり後描み貼付け。	
20810	3号住居 P L23	土師器 甕	①口縁部片 ②(15.7)③-④-	①砂粒を含む ②明赤褐色③被化	頸部外面にハケ目状痕跡あり、外表面 器表荒れ。	
20811	3号住居 P L23	土師器 甕	①底部片 ②-③(0.0)④-	①細砂粒を含む ②にぶい黃褐色③被化	外面黒斑向ケズり、内面ナデ、外底凸。	
20812	3号住居 P L23 +6	土師器 甕	①底部片 ②-③(0.0)④-	①細砂粒を含む ②棕③被化	外面ケズリ、内面ナデ、外底凸。	
20813	3号住居 床直	須恵器 甕	①底部 ②-③-④-	①砂粒を含む ②灰白③還元	円盤状の底部、外底非回転ケズリ、内 底指頭ナデ	
20814	3号住居 P L24	石製品 こも網石	①破片②-③(2.4)④-	①雲母石英片岩 ②25.2g	周縁擦っている。	
20815	3号住居 P L24 -11	石製品 こも網石	①完形②(13.5)③7.3④5.2 ⑤700.0g	①溶結凝灰岩	端部に敲打痕。	
27844-1	14号土坑 P L24	施釉陶器 灯明皿	①底部片 ②-③(4.9)④-	①精緻②浅黄、釉:褐 ③被化	精緻。体部外面以下釉を拭い取る。	瀬戸美濃 江戸
27844-2	14号土坑 P L24	施釉陶器 利	①体部片 ②-③-④-	①密②釉、灰オーリーブ ③被化	始動。肩部横模、うのふ袖流し尾呂 利。	瀬戸美濃 江戸
27839-1	39号土坑 P L24	施釉陶器 甕	①底部 ②-③(5.0)④-	①白色粗粒含 ②釉:オーリーブ③-④-	内面～高台脇附壁。	瀬戸美濃系 江戸
28841-1	1号井戸 P L24	土師器 甕	①口縁部1/3 ②(25.0)③-④-	①砂粒を含む ②にぶい黃褐色③被化	口唇部突出する、口縁部内外面ミガキ 状。	
28842-1	2号井戸 P L24	須恵器 杯	①1/3 ②(12.0)③(6.5)④5.0	①砂粒を含む ②棕③被化	外底右回転糸切り。	
29841	36号ピット P L24	埴輪 円筒埴輪	①破片 ②-③-④-	①砂粒を含む ②棕③被化	凸滑あり、朝顔型か。	6 Cか
32809-1	9号講 P L24	土師器 高杯	①脚部片 ②-③(10.0)④-	①砂粒を含む ②にぶい釉③被化	円形透かしあり。	
32828-1	28号講 P L24	土師器 甕	①口縁部片 ②(11.7)③-④-	①砂粒を含む ②棕③被化	口縁部薄く尖る。	
32828-2	28号講 P L24	須恵器 杯	①1/4 ②(12.9)③(7.0)④3.2	①白色粒子を含む ②灰③還元	外底右回転糸切り。	
42806-1	16号講 P L24	施釉陶器 皿	①底部1/2 ②-③(6.0)④-	①精緻 ②浅黄③-	内面灰釉。	瀬戸美濃 江戸
42806-2	16号講 P L24	施釉陶器 甕	①底部片 ②-③(4.5)④-	①精緻 ②釉:にぶい黄③-	内外面釉。	肥前筑器手 17C後～18C前
42806-3	16号講 P L24	在土器上 網	①底部片 ②-③-④-	①砂礫多、キラキラ ②にぶい黄褐色③被化	破損後二次使用か。X字状にえぐり込 む。	中世?
42806-4	16号講 P L24	在土器上 焰	①口～底 ②-③-④-	①密 ②にぶい黄褐色③被化	外底近くヨコナデ。内面ヨコナデ。	江戸
42806-5	16号講 P L24	燒締陶器 スリ鉢	①体部片 ②-③-④-	①粗粒多 ②にぶい赤褐色③-	内面割り目。	丹波淀江戸
42808-1	18号講 P L24	磁器 甕	①0.25 ②(6.8)③(2.9)④4.7	①黑色微粒含 ②灰白③-	口縁部外面裏面文。	肥前波佐見系 18C前
42809-1	19号講 P L24	在土器上 カワラケ	①底部片 ②-③(6.0)④-	①細砂粒を含む ②にぶい黄褐色③被化	外底回転糸切り、内面一部へらなで。 左回転か	中世?
42809-2	19号講 P L24	施釉陶器 甕	①口縁部片 ②(10.0)③-④-	①精緻 ②浅黄褐色③被化	内外面釉。	肥前筑器手 17C後～18C 前
42809-3	19号講 P L24	在土器上 焰	①口縁部片 ②-③-④-	①砂粒多い ②にぶい釉③被化	内外面ヨコナデ。破損後二次使用か。 端部摩耗。	近世?
42809-4	19号講 P L24	燒締陶器 かわらけ	①体部片 ②-③-④-	①白色粗粒多 ②釉:灰黄褐色③還元	外表面あり。灰釉。	知多窯?
42809-5	26号講 P L24	施釉陶器 輪壺皿	①底部片 ②-③(6.0)④-	①白色粗粒含 ②灰白③-	高台の断面三角形。灰釉。	瀬戸・美濃 17C
42809-6	34号講 P L24	施釉陶器 灯明皿	①破片 ②(10.7)③(5.6)④-	①精緻 ②にぶい黄③-	踏輪。体部外面以下踏拭い取る。	瀬戸・美濃? 18C後半

遺物観察表

補番号	遺構名	種別	①残存②口径③底径④高さ ノルマ	①胎土②色調③焼成 ノリ④石材	製作技法等の特徴	備考
428034-3	34号溝	磁器 碗	①底部 ②~③(4.0)④-	①精緻 ②灰白③~	雪輪梅樹文。高台内不明路。	波佐見系 江戸
428034-3	34号溝	在地上器 片口鉢	①破片 ②~③④-	①白色粒子を含む ②灰③還元	陶質。口縁端部内面摩滅。	15C前
428038-1	38号溝	施釉陶器 瓶	①底部片 ②~③(5.3)④-	①精緻 ②淡黄③~	内外面釉。	肥前筑前手 17C後~18C前
428038-2	38号溝	磁器 猪口	①底部片 ②~③(4.3)④-	①精緻 ②明オリーブ灰③~	染付。	肥前
428038-3	38号溝	施釉陶器 瓶類	①体部片 ②~③④-	①透 ②釉にぶい黄褐③~	外表面摩滅または二次火熱受け。肩部横 線文。削輪。	瀬戸美濃系 江戸
428038-4	38号溝	施釉陶器 瓶類	①体部片 ②~③④-	①白色粗粒含 ②釉:黄褐③~	外表面釉。肩部横線文。	瀬戸美濃 江戸
428038-5	38号溝	施釉陶器 香炉	①底部片 ②~③(7.4)④-	①透②灰黄、 釉にぶい黄褐③~	外面にケズリ文様あり。削輪。	瀬戸美濃18C 中~後
428038-6	38号溝	施釉陶器 灯明受皿	①口縁部片 ②(10.5)③~④-	①精緻 ②釉:灰白③~	内外面、外表面なし。	京信系?
428038-7	38号溝	在地上器 鍋	①体部片 ②~③④-	①真器質、キラキラ ②黒③還元	口唇部内外面に凸、把手状のふくらみ あり。外面部ヨコナデ。	近現代か 江戸
428038-8	38号溝	燒結陶器 スリ鉢	①口縁部片 ②~③④-	①白色粗粒含 ②赤褐色③~	瑠璃・明星 江戸	
438038-9	38号溝	燒結陶器 甕	①体部片 ②~③④-	①砂粒多い ②赤褐色③~	常滑?	
438038-10	38号溝	石製品 火打石	①破片②(1.6)③(1.8) ④(0.9)⑤2.4	①玉動	擦痕あり。	
438038-11	38号溝	石製品 火打石	①破片②4.0③2.7④1.3 ⑤13.7g	①石英	擦痕あり。	
438038-12	38号溝	石製品 たたき石	①完形石②4.3③8.7④5.6 ⑤613.5g	①粗粒輝石安山岩	敲打痕あり。	
49804	I 遺物集中 P L25	土師器 杯	①1/2 ②(11.0)③(3.0)④4.0	①砂粒を含む ②淡黄③酸化	外底平坦。内面ハケ目後ナデ。	
49802	I 遺物集中 P L24	土師器 高杯	①脚部片 ②~③④-	①砂粒を含む ②にぶい椎③酸化	脚部に円形透かし、内外面器表荒れ。	
49803	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁 小型甕	①1/2 ②(10.1)③~④-	①砂粒多い ②灰黄③酸化	外面部上位左下がりハケ目。下位右 下がりハケ目、口縁部シャープな仕上 げ。	
49804	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①口縁~胴上位片 ②(15.6)③~④-	①砂粒多い ②にぶい椎③酸化	体部外面上下がりハケ目後横ハケ目。	
49805	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①口縁~胴上位片 ②(16.0)③~④-	①砂粒多い ②にぶい黄褐③酸化	体部外面部ハケ目後横ハケ目。	
49806	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①口縁~胴上位片 ②(19.8)③~④-	①砂粒多い ②灰黄褐③酸化	体部外面上下がりハケ目後横ハケ目、 頸部内面削輪ナデ痕。	
49807	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①脚下位~脚部 ②~③④-	①砂粒多い ②灰褐色③酸化	内底の器表荒れ、工具痕あり。脚部打 欠きか、脚部内面砂。	脚部二次火熱
49808	I 遺物集中 P L25	土師器 甕	①脚部片 ②(9.6)③~④-	①砂粒を含む ②浅黄③酸化	体部丸み強い、内面にハケ目痕す。	
498010	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①脚部1/2 ②(14.9)③~④-	①砂粒多い ②赤褐色③酸化	上面に体部との接合痕を残す。	二次火熱
50809	I 遺物集中 P L25	土師器 S字口縁甕	①口縁~胴下位片 ②(13.0)③~④-	①砂粒多い ②にぶい椎③酸化	体部外面部左下がりハケ目、体部中 位右下がりハケ目、内面底部近くに接 合痕。	
508011	I 遺物集中 P L25	土師器 甕	①胴~底部片 ②~③(7.4)~	①砂粒を含む ②にぶい黄褐③酸化	体部下位が膨らむ、内面に指痕ナデ痕 残す。外面部丁寧なナデ及びミガキあり、 外底中央部はくぼむ。	
508012	I 遺物集中 P L25	土師器 甕	①口縁部片 ②(14.9)③~④-	①砂粒を含む ②椎③酸化	頸部の内外面にハケ目残る。	二次火熱か
508013	I 遺物集中 P L25	土師器 甕	①口縁部一部欠損 ②(13.2)③~④-	①砂粒を含む ②にぶい椎③酸化	口縁部折り返し、頸部内外面にハケ目 残る。	
508014	I 遺物集中 P L25	土師器 器台	①杯~脚部片 ②~③④-	①砂粒を含む ②椎③酸化	脚部に円形透かし、杯部内面丁寧なナ デ、脚部外面部ミガキ。	

遺物観察表

種別番号	遺構名	種別 器種	①残存寸②長さ③幅さ④厚さ⑤重さ	①胎土②色調③焼成 /①石材	製作技法等の特徴	備考
國版番号 出土位置	I 遺物集中 P L25	石製品 こも網石	①完形②9.3×3.1③1.4 ⑤65.8g	④雲母石英片岩	端部敲打痕あり	
50回16 P L25	I 遺物集中 こも網石	石製品 こも網石	①完形②15.8×3.6③1.45④0.5800 g	④細粒安山岩	端部に敲打痕あり	
51回1 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	波状口縁で、口縁が内折する器形。浮線を横位、斜位に施す。	諸磯b式
51回2 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①細繩、粗砂 ②赤褐色③ふつう	波状口縁で、口縁が内折する器形。浮線を横位、弧状に施す。波頭部下に貼付絞を施す。	諸磯b式
51回3 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②明赤褐色③ふつう	波状口縁で、口縁が大きく外反し、内折する器形。浮線による横帯構成で、浮線間に刺突を施す。内折部にも無絞。	諸磯b式
51回4 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	同上	No 3と同一個体。浮線による横帯構成。横帯間に弧状モチーフを施す。	諸磯b式
51回5 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂②にぶい黄褐色 ③ふつう	浮線による横帯構成。	諸磯b式
51回6 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	浮線による横帯構成。地紋に単節R L繩紋を施す。	諸磯b式
51回7 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②赤褐色③良好	浮線による横帯構成。地紋に単節R L繩紋を施す。	諸磯b式
51回8 4号住居	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②にぶい橙③ふつう	波状口縁の突起部。平行沈線によりM字状モチーフを描く。側面にも弧状の集合沈線を施す。	諸磯b式	
51回9 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂②にぶい黄褐色 ③ふつう	口縁が内折する器形。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
51回10 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	集合沈線による横帯構成。横帯間に弧状の集合沈線を施す。	諸磯b式
51回11 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①細繩、粗砂 ②赤褐色③ふつう	集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
51回12 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L繩紋を施す。	諸磯b式
51回13 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	集合沈線による横帯構成。地紋に単節L R繩紋を施す。	諸磯b式
51回14 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂、白色粒 ②にぶい黄褐色 ③ふつう	集合沈線による横帯構成。横帯間に平行沈線による鋸歯状絞を施す。	諸磯b式
51回15 P L25	北2区 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②にぶい赤褐色 ③ふつう	口唇外面を肥厚させ、肥厚部に大小2種類の半截竹管内皮による刺突をめぐらす。刺突列下は横位集合沈線を施す。	諸磯b式かc式
51回16 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	口縁内面を肥厚。横位集合沈線を施し、貼付絞を貼付する。内面肥厚部にも斜位の集合沈線を施し、貼付絞を貼付。	諸磯c式
51回17 P L25	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②にぶい橙③ふつう	緩く外反する器形。対向する羽根状集合沈線を採んだ集合沈線により竪位区画。区画内は弧状の集合沈線を施す。	諸磯c式
51回18 P L26	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂②にぶい黄褐色 ③ふつう	緩く外反する器形。竪位区画、斷面状の集合沈線を施し、貼付絞を貼付する。	諸磯c式
51回19 P L26	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②にぶい橙③ふつう	平行沈線を斜格子目状に施す。	諸磯c式
51回20 P L26	北2区V層 深鉢	織紋土器	①底部破片	①細繩、粗砂 ②橙③ふつう	底部が張り出す器形。断面状の集合沈線を施し、貼付絞を貼付する。	諸磯c式
51回21 P L26	北2区V層 深鉢	織紋土器	①胴部破片	①粗砂 ②橙③ふつう	結合浮線を竪位。斜位に施す。	下島式
51回22 P L26	4号住居 浅鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂②にぶい黄褐色 ③ふつう	口縁がくの字状に立ち上がる器形。屈曲部下に円孔をめぐらす。	諸磯b式かc式
51回23 P L26	南3区 深鉢	織紋土器	①口縁部破片	①粗砂 ②浅黄色③ふつう	沈線により弧状モチーフを描く。加曾利E 4式	
51回24 P L26	北3区V層 不明	石器	①/2 ②2.1③1.4④~⑤1.1	①黒曜石	中央より下半を欠損。幅に比べ断面が厚く、尖頭器様。	
51回25 P L26	1号住居 上層	打製石斧	①1/3 ②3.3×4.7③~⑤27.6	①細粒輝石安山岩	刃部中央から右側縁で刃部再生、磨耗痕は左側縁に残る。破損跡略不明。	

遺物観察表

検査番号	遺構名	種別	①残存②L径③底径④器高 ⑤残存⑥長さ⑦幅⑧厚さ⑨重さ	①胎土②色調③焼成 ④石材	製作技法等の特徴	備考
51回26 P L 26	北2区V層 打製石斧 短冊形	③ほぼ完形 ②8.3×4.8③~⑤107.5	④細粒輝石安山岩	裏面側主刺離面は磨耗。素材剥離と加工に時間あり。上端が窄まるのは頭部破損が原因?道跡内製作。		
51回27 P L 26	19号溝覆土 打製石斧 短冊形	①1/2 ②8.3×4.8③~⑤107.5	④黒色頁岩	捲轉痕は見られず、剥離面も新鮮であり、道跡内製作の石器?製作時に器体下半を欠損。		
51回28 P L 26	南3区 確認面 打製石斧 撥形	③ほぼ完形 ②8.3×5.7③~⑤97.8	④黒色頁岩	背面側刺離は薄く、直刃斧様の形状、刃部に弱い磨耗痕。		
52回29 P L 26	28号溝 打製石斧 短冊形	①1/3 ②9.4×6.7③~⑤219.6	④黒色頁岩	側縁加工の特徴から石斧と認定。やや大型で製作途中の破損か?捲轉痕なし。道跡内製作。		
52回30 P L 26	北2区V層 門石 楕円礫	①完形 ②9.8×7.6③~⑤469.4	④粗粒輝石安山岩	表面両面とも中央付近に集合打痕、背面側の平坦面は磨耗。被熱して上端を破損。		
52回31 P L 26	北3区V層 楕円礫	①完形 ②10.2×6.4③~⑤475.4	④粗粒輝石安山岩	表面中央・右側縁に打痕、磨耗不明。		
52回32 P L 26	24号溝 土師器 壺	①口縁部 ②(16.4)③~④-	①精緻 ②赤褐色	二重口縁の壺、内外面ミガキ、図上復原。	4C前半	
52回33 P L 26	33号溝 土師器 壺	①口縁部片 ②(19.7)③~④-	①砂粒を多く含む ②赤褐色	二重口縁の壺、内外面器表荒れ。	4C前半	
52回34 P L 26	南3区 道構外 高杯	①脚部片 ②~③~④-	①砂粒を含む ②赤褐色	脚部外側面ミガキ、赤彩。	3C末~4C 前半	
52回35 P L 26	北2区 道構外 壺	①底部片 ②~③~④-	①砂粒を含む ②にぶい黄褐色	焼成後底部穿孔、壺形か。		
52回36 P L 26	南3区 道構外 杯	①1/4 ②(11.4)③(7.0)④3.6	①白色粒子を含む ②灰黃③還元	外底右回転糸切り、胎土はレンガ色。	8世紀後半	
52回37 P L 26	南3区 道構外 杯	①口縁部1/2欠損 ②(13.0)③7.0③3.5	①白色粒子を含む ②暗灰黃③還元	外底右回転糸切り。	8世紀後半	
52回38 P L 26	南3区 道構外 杯	①1/2 ②(12.2)③7.0③3.5	①白色粒子を含む ②黄灰③還元	外底右回転糸切り。	8世紀後半	
52回39 P L 26	南3区 道構外 杯	①口縁部1/4欠損 ②(12.0)③6.5④4.1	①砂粒を含む ②灰黃③還元	外底右回転糸切り、口縁部打欠きか。	8世紀後半	
52回40 P L 26	南3区 道構外 壺	①底部 ②~③~④~	①砂粒を含む ②灰白③還元	高台内側端は接地しない。	8世紀後半	
52回41 P L 26	南3区 道構外 壺	①底部片 ②~③~④~	①白色粒子を含む ②灰白③還元	外面平行タタキ目、内面無紋相当具板。		
52回42 P L 26	7号溝 須恵器 壺	①底部片 ②~③~④~	①白色粒子を含む ②灰白③還元	体部下位の小片。		
53回43 P L 26	北3区 道構外 瓦	①破片 ②~③~④~	①砂粒多い ②灰白③還元	凹面凸面ともナデ。	9C	
53回44 P L 26	北3区 道構外 土製品 フイゴ羽口	①先端部 ②~③~④~⑤30.7g	①鐵滓多い ②~		磁石反応あり	
53回45 P L 26	南3区 道構外 青磁碗	①刷~底 ②~③~④~	①黒色微粒含 ②オリーブ灰③還元	胎土灰色、釉厚く高台端部を除き施釉。 迦陵窯系碗B O類3C末~14C前		
53回46 P L 26	南3区 道構外 在地上器 スリ鉢	①破片 ②~③~④~	①砂粒多い ②にぶい黄褐色	摺り目あり。	中世	
53回47 P L 26	2号住居 在地上器 培塿	①口縁部片 ②~③~④~	①砂粒を含む ②にぶい黄褐色			
53回48 P L 26	南3区 道構外 火打石	①破片 ②~③~④~⑤12.5g	①石英	擦った痕あり。		
53回49 P L 26	北4区 道構外表土 不明	①~②18.9×3.4~③2.3 ⑤275.3g	①雲母石英片岩	一端擦っている。		

写 真 図 版



1. 遺跡遠景(東上空から)



2. 遺跡遠景(西上空から)

PL2



1. 北2区全景（上が北）



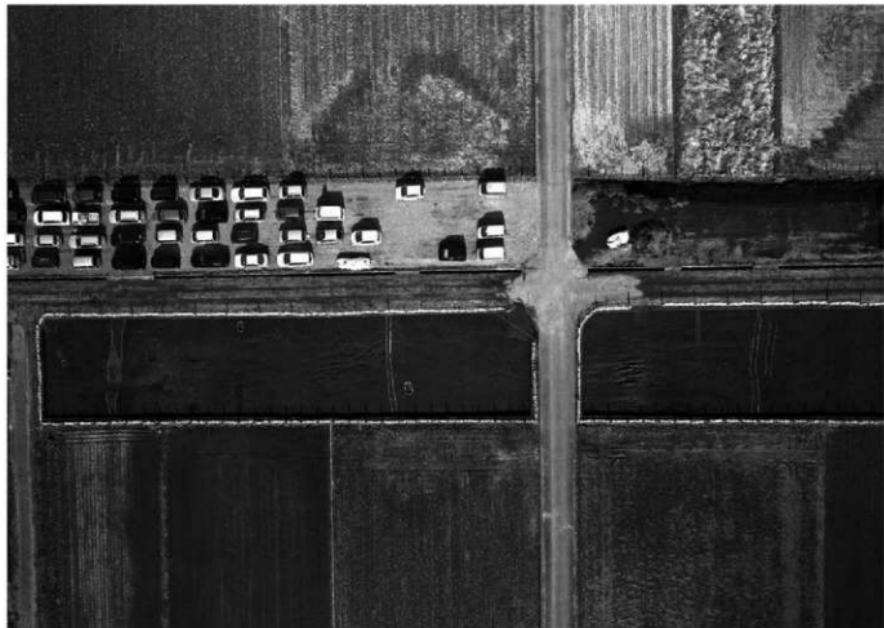
2. 北3区全景（上が北）



1. 北4区全景（上が北）



2. 南4区全景（上が北）



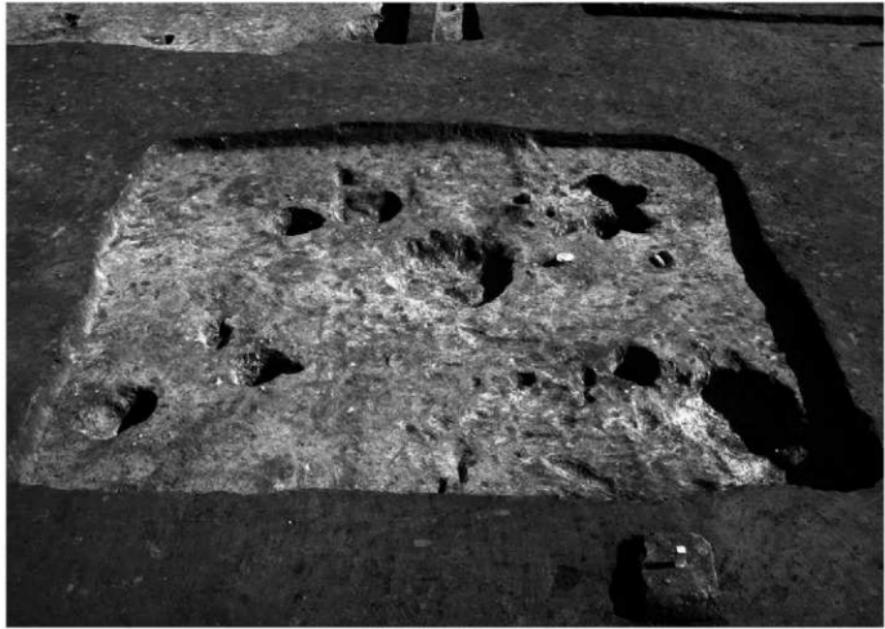
1. 南2・3区全景（上が北）



2. 南1区全景（西から）



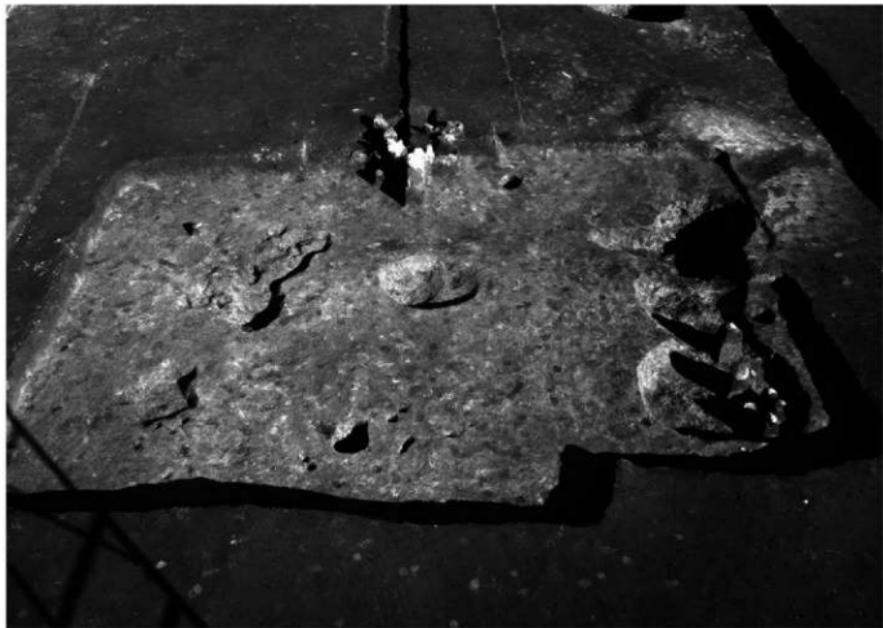
1. 1号住居跡全景（西から）



2. 1号住居跡掘り方全景（西から）



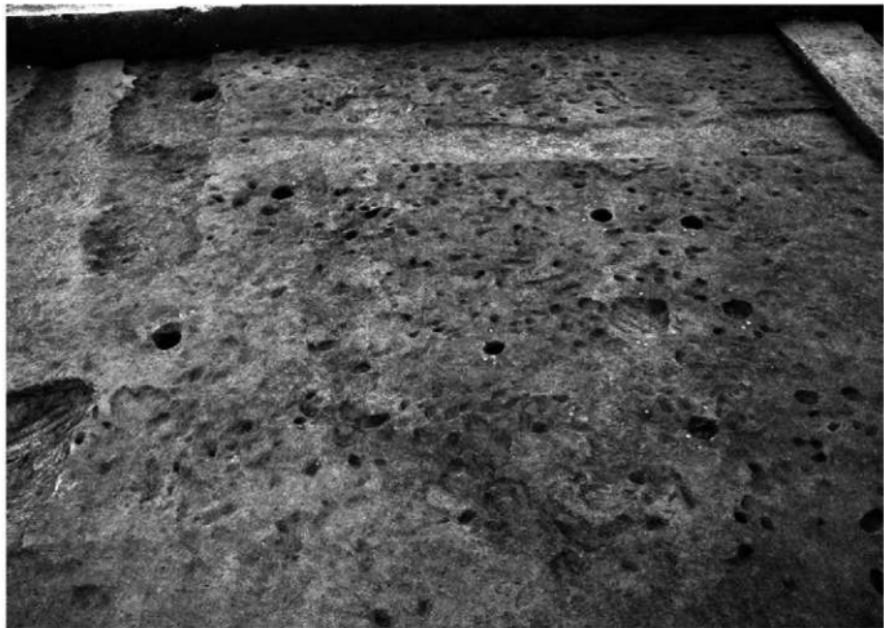
1. 2・3号住居跡全景（西から）



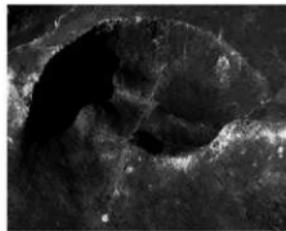
2. 2・3号住居跡掘り方全景（西から）



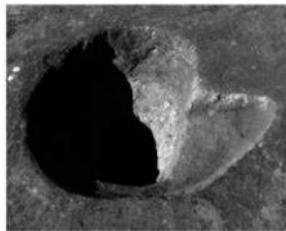
1. 1号掘立柱建物跡全景（南から）



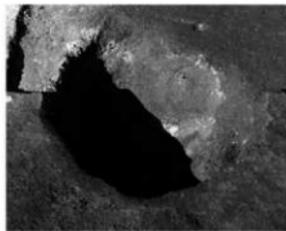
2. 2号掘立柱建物跡全景（南から）



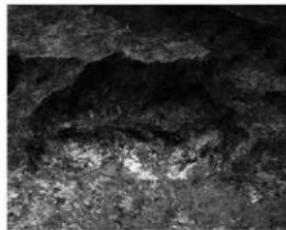
1. 18号土坑全景（南から）



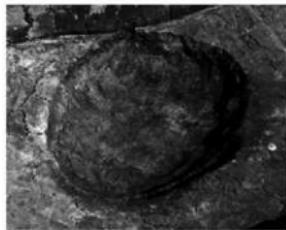
2. 21号土坑全景（南から）



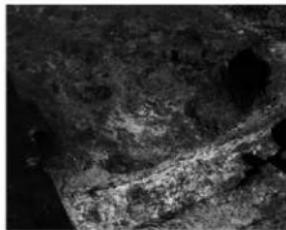
3. 23号土坑全景（南から）



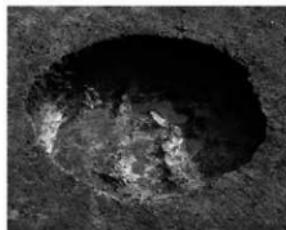
4. 36号土坑全景（東から）



5. 45号土坑全景（南から）



6. 49号土坑全景（南から）



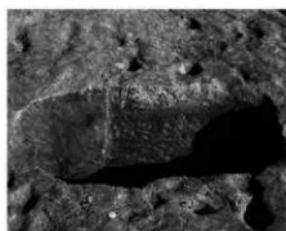
7. 50号土坑全景（北から）



8. 51号土坑全景（北から）



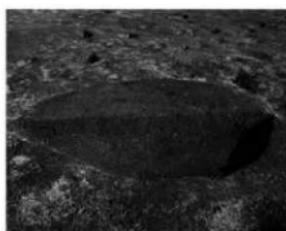
9. 1号土坑全景（北から）



11. 2号土坑全景（西から）



13. 3号土坑全景（北から）



10. 1号土坑土層断面（南から）



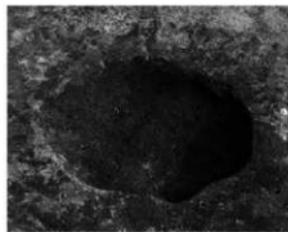
12. 2号土坑土層断面（南から）



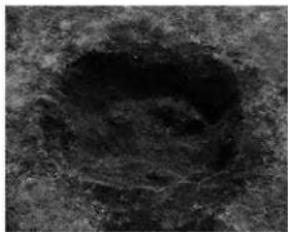
14. 3号土坑土層断面（南から）



15. 6号土坑全景（南から）



1. 4号土坑全景（西から）



3. 5号土坑全景（北から）



5. 8号土坑全景（東から）



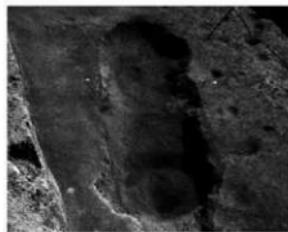
2. 4号土坑土層断面（西から）



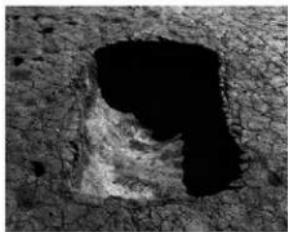
4. 5号土坑土層断面（南から）



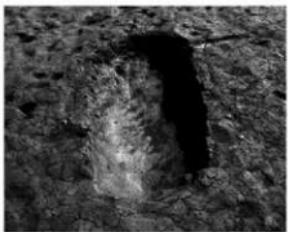
6. 9号土坑全景（北から）



7. 11号土坑全景（東から）



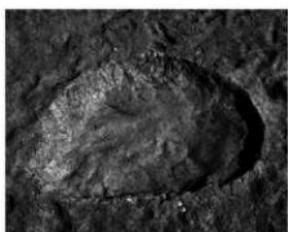
8. 12号土坑全景（北から）



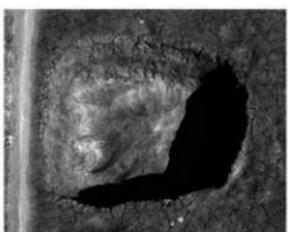
9. 13号土坑全景（北から）



10. 16号土坑全景（南から）



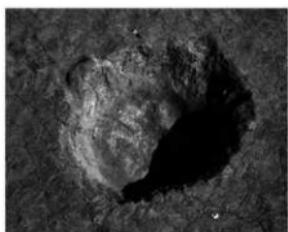
11. 19号土坑全景（西から）



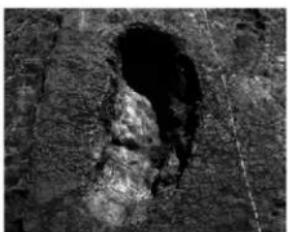
12. 20号土坑全景（西から）



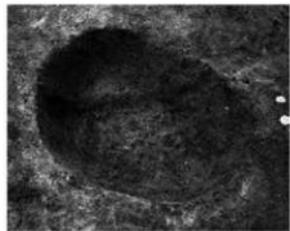
13. 22号土坑全景（南から）



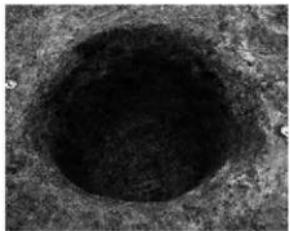
14. 24号土坑全景（西から）



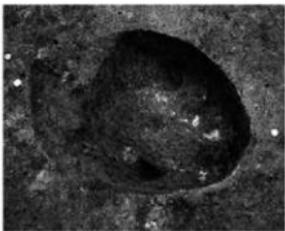
15. 25号土坑全景（北から）



1. 27号土坑全景（西から）



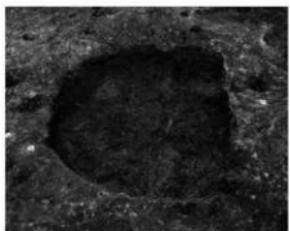
2. 28号土坑全景（南から）



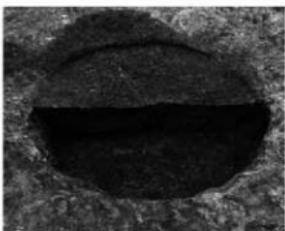
3. 29号土坑全景（南から）



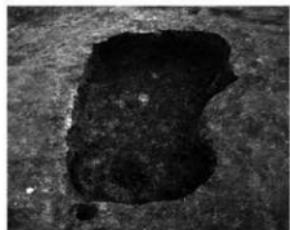
4. 34号土坑全景（北から）



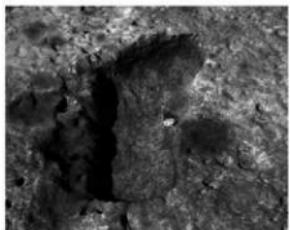
5. 35号土坑全景（南から）



6. 37号土坑全景（南から）



7. 38号土坑全景（南から）



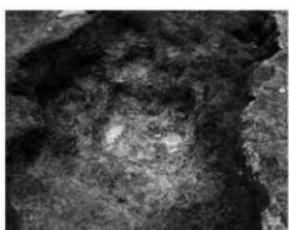
8. 39号土坑全景（東から）



9. 40・41・42号土坑全景（西から）



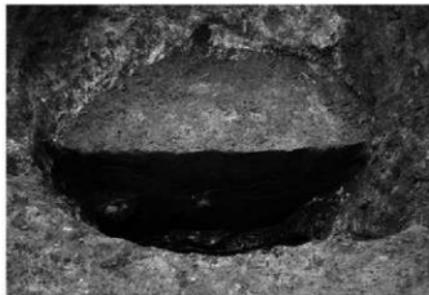
10. 43号土坑全景（北から）



11. 44号土坑全景（東から）



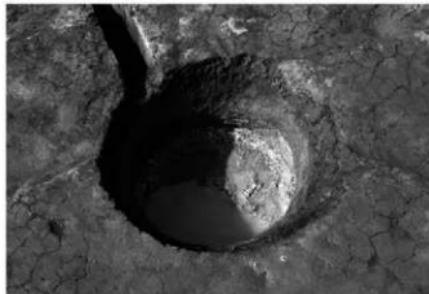
1. 1号井戸跡全景（西から）



2. 1号井戸跡土層断面（南東から）



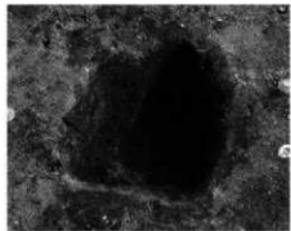
3. 2号井戸跡全景（北から）



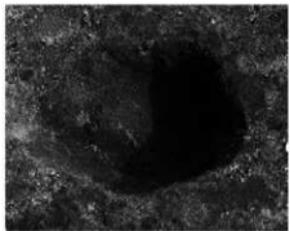
5. 3号井戸跡全景（南から）



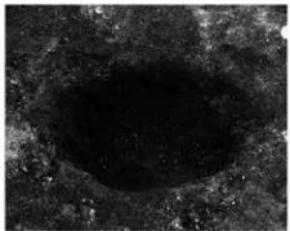
4. 2号井戸跡土層断面（西から）



1. 1号ピット全景（西から）



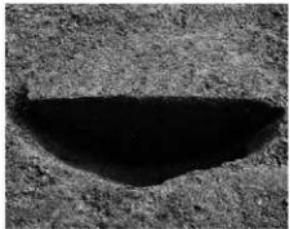
3. 2号ピット全景（西から）



5. 3号ピット全景（北から）



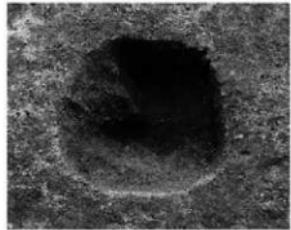
2. 1号ピット土層断面（西から）



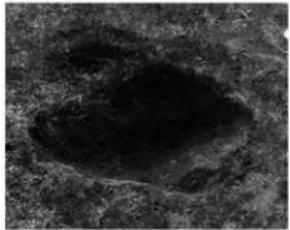
4. 2号ピット土層断面（西から）



6. 3号ピット土層断面（南から）



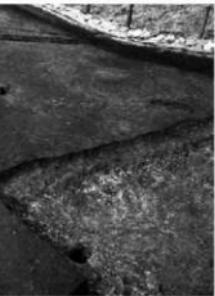
7. 4号ピット全景（北から）



8. 4号ピット土層断面（南から）



9. 5号ピット全景（北から）



10. 5号ピット土層断面（南から）



11. 北4区ピット群全景（南東から）



1. 9号溝全景（北から）



2. 9号溝土層断面（北から）



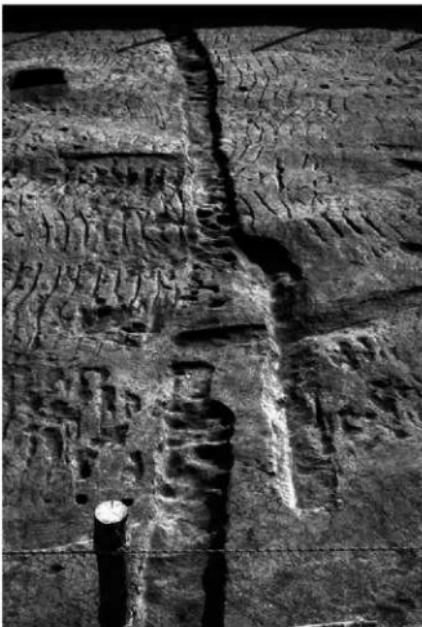
3. 15号溝全景（南から）



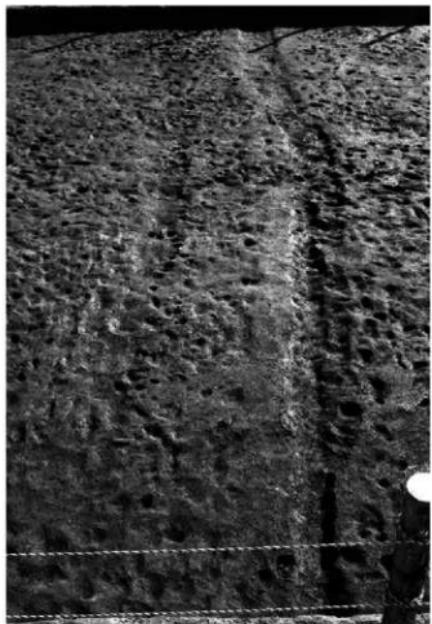
4. 28号溝全景（南から）



1. 29号溝全景（南から）



2. 1・2号溝全景（北から）



5. 3・4号溝全景（北から）



6. 13号溝全景（北から）



1. 6・7号溝全景（北東から）



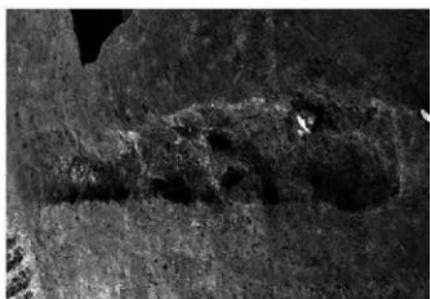
5. 12号溝全景（北から）



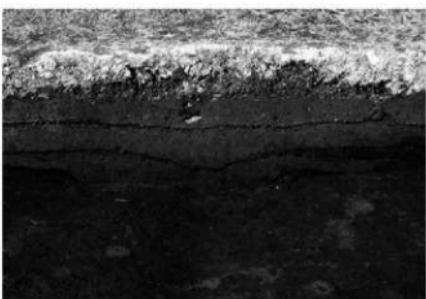
2. 7号溝土層断面（西から）



3. 10号溝全景（北から）



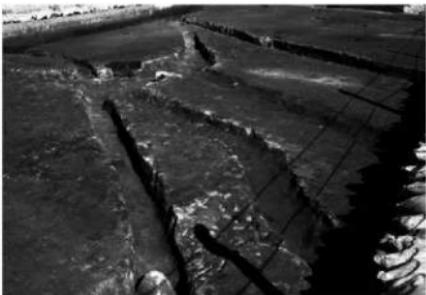
6. 14号溝全景（東から）



4. 10号溝土層断面（南から）



1. 16号溝全景（南から）



3. 16～18号溝全景（南から）



2. 16号溝遺物出土状況（西から）



4. 18号溝遺物出土状況（西から）



5. 19・46号溝全景（西から）



7. 24・25号溝全景（南から）



6. 19号溝遺物出土状況（北から）



1. 20号溝全景（南から）



2. 26号溝全景（南から）



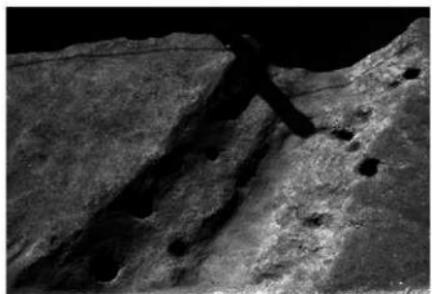
3. 31号溝全景（南から）



4. 32号溝全景（南西から）



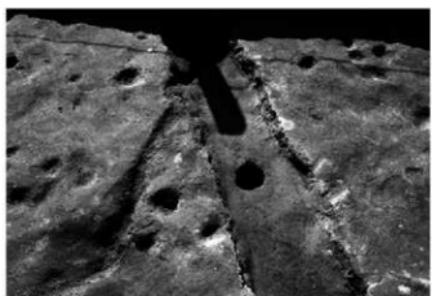
1. 30号溝全景（西から）



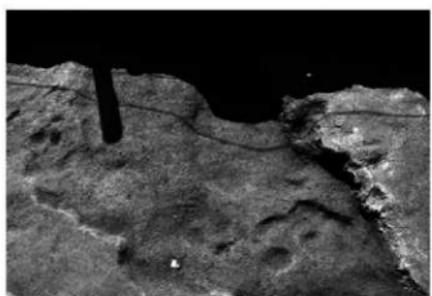
3. 35号溝全景（東から）



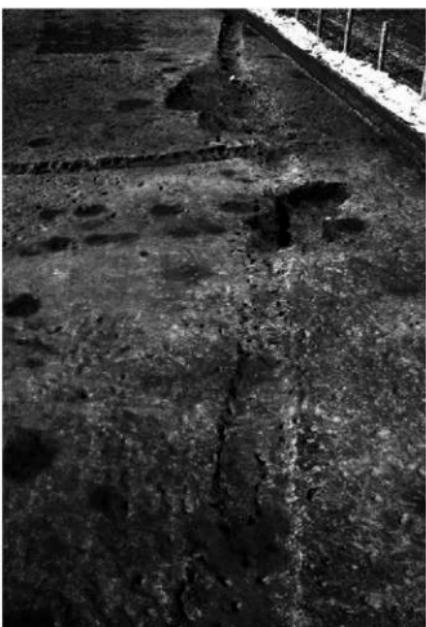
2. 34号溝全景（南から）



4. 36号溝全景（東から）



5. 37号溝全景（東から）



6. 38号溝全景（東から）



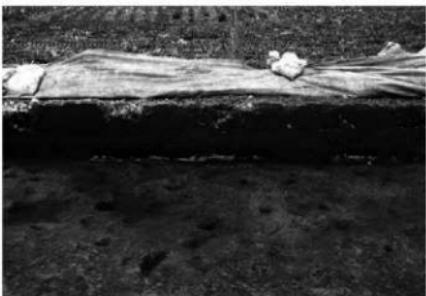
1. 38号溝全景(西から)



2. 39号溝全景（南から）



3. 43号溝土層断面（南から）



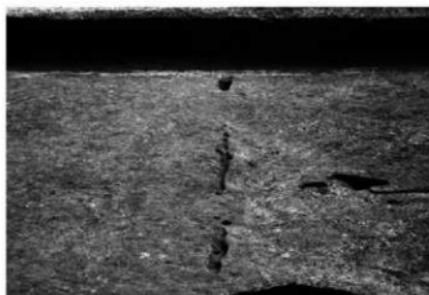
4. 44・45号溝土層断面（南から）



5. 47号溝全景（南から）



6. 48号溝全景（北から）



7. 49号溝全景（北から）



8. 50号溝全景（東から）



1. B 下水田跡西大畦全景（上が北）



2. B 下水田跡跡周辺（上が北）



1. B下水田跡西大畦近景（北から）



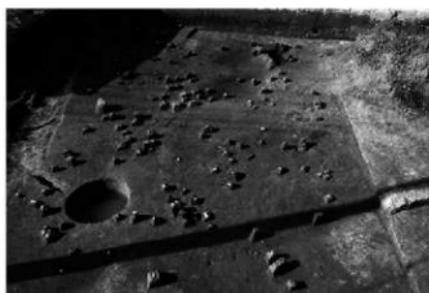
2. B下水田跡東大畦土層断面（南から）



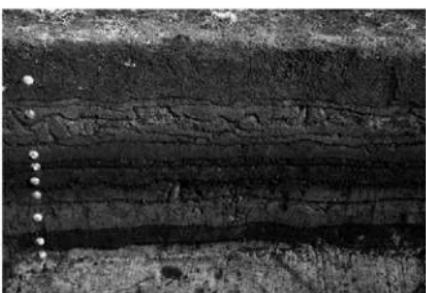
3. B下水田跡土層断面（南から）



4. サク状遺構全景（東から）



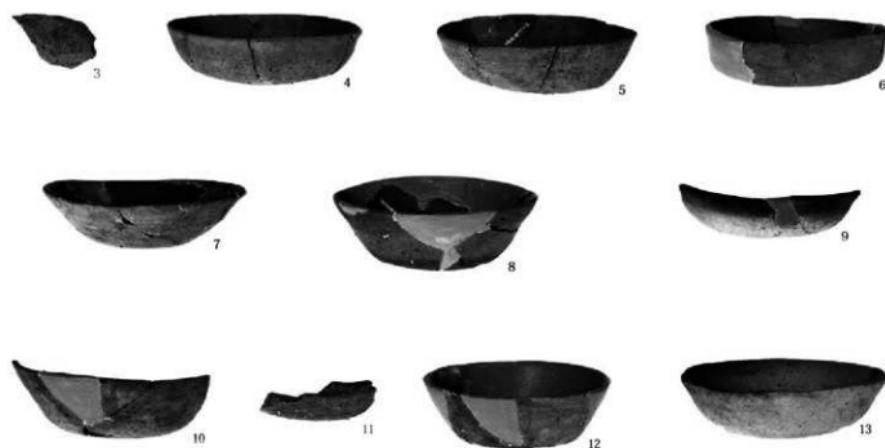
5. 遺物集中遺構全景（東から）



6. 自然科学分析資料2地点採取断面（南から）



7. 調査前風景(西から)



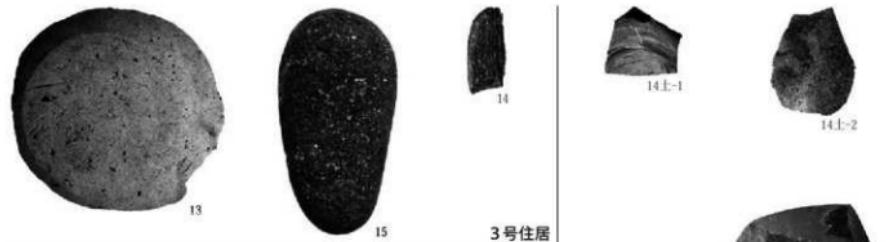


2号住居



3号住居

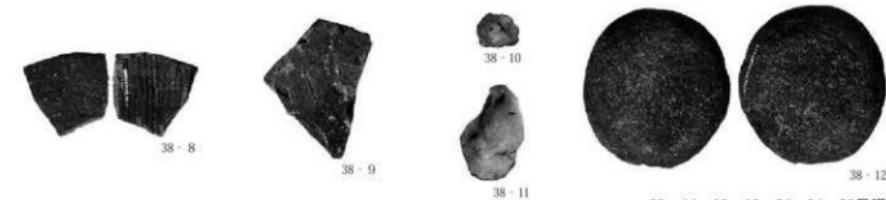
PL24 3号住居跡・土坑・井戸・ピット溝出土遺物



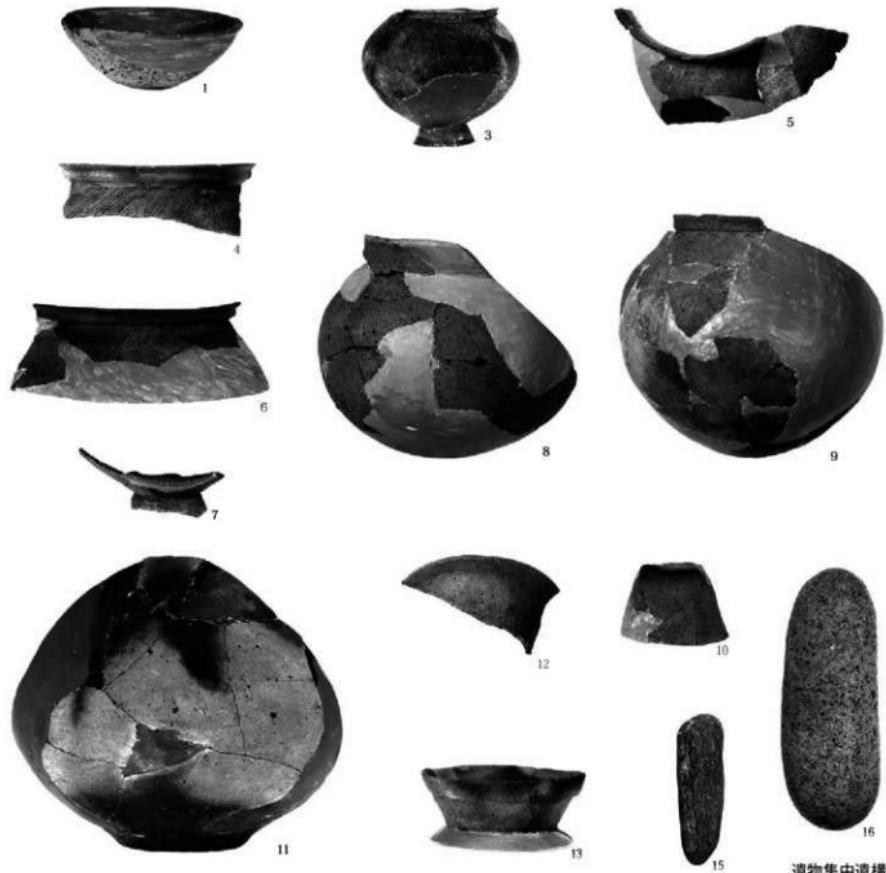
3号住居



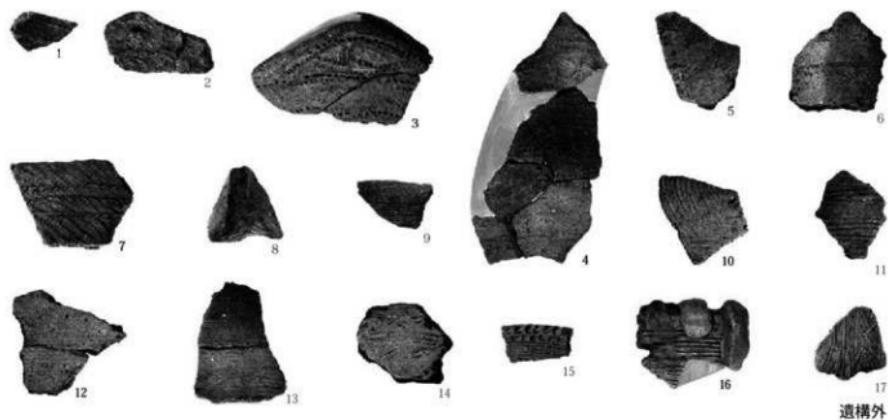
土坑・井戸・ピット



28 • 16 • 18 • 19 • 26 • 34 • 38号溝



遺物集中遺構



遺構外

PL26 造構外出土遺物



造構外

報告書抄録

ふりがな	しもさいだじゅうどやくしいせき
書名	下斎田重土薬師遺跡
副書名	国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	1
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	486
編著者名	飯森康広 関晴彦 橋本淳 岩崎泰一
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20090129
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	しもさいだじゅうどやくしいせき
遺跡名	下斎田重土薬師遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきししもさいだまちあざじゅうどやくし
遺跡所在地	群馬県高崎市下斎田町字重土薬師
市町村コード	10202
遺跡番号	2694
北緯(日本測地系)	361821
東経(日本測地系)	1390528
北緯(世界測地系)	361833
北緯(世界測地系)	1390517
調査期間	20090101-20090331/20090817-20100331
調査面積	5310
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畠/散布地
主な時代	縄文/古墳/平安/中世・近世
遺跡概要	散布地-縄文-土器+石器/その他-古墳-溝3+土器集中1-土器/集落-奈良・平安-竪穴住居3+溝2-土器+石器+鉄器/田畠-平安-水田1/集落-中世・近世-掘立柱建物2+土坑36+溝46+ピット24-陶磁器+石器
特記事項	平安時代後期水田跡では大甕が検出され、周辺に想定される条里水田の手がかりとなる。
要約	本遺跡は高崎市東南部に位置する縄文時代から江戸時代にいたる複合遺跡である。奈良・平安時代の竪穴住跡3軒と平安時代後期水田跡を検出した。このほか、中世・近世に比定される掘立柱建物跡などが検出された。

財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第486集

下斎田重土薬師遺跡

国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年(2010)1月22日 印刷

平成22年(2010)1月29日 発行

編集・発行 / 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷 / 上武印刷株式会社
